

博士学位論文

認知言語学的な観点から見た日本語の「完了」アスペクトの形式

名古屋大学大学院国際言語文化研究科
日本語文化専攻

許 臨揚

平成 27 年 2 月

目次

第1章	はじめに	1
1.1	研究目的	1
1.2	本論文の構成と内容の概略	4
第2章	先行研究と問題提起	8
2.1	先行研究	8
2.1.1	「-ておく」「-てしまう」「-てある」の先行研究	8
2.1.1.1	「-ておく」の先行研究	8
2.1.1.2	「-てしまう」の先行研究	15
2.1.1.3	「-てある」の先行研究	21
2.1.2	「～切る」「～抜く」「～通す」の先行研究	28
2.1.2.1	「～切る」の先行研究	28
2.1.2.2	「～抜く」の先行研究	37
2.1.2.3	「～通す」の先行研究	39
2.2	問題提起と研究方法	41
第3章	ズームアウトし、全体に焦点を当てる「完了」	44
3.1	「-ている」－一次的アスペクトと二次的アスペクトの接点	45
3.1.1	「完成相」と「継続相」の対立－日本語のアスペクトをめぐる論争	45
3.1.1.1	「完成相」－ひとまとまり性を表す「る」形	45
3.1.1.2	「継続相」－「-ている」をめぐる論争	48
3.1.2	完了をベースにした結果状態－「-ている」と「-てある」	50
3.2	二次的アスペクトが表す「完了」－隣接する時空間を視野に入れる	51
3.2.1	「-ておく」の意味分析	52
3.2.1.1	「-ておく」の意味分析の問題点	53
3.2.1.2	「場を占める」を中心とする意味のネットワーク	54
3.2.1.2.1	A.具体的な空間の場を占める	54
3.2.1.2.2	B.時空間の場を占める	55
3.2.1.2.3	C.心理的境界線で閉じた時空間の場を占める	58
3.2.1.2.4	D.経験の場を占める	59
3.2.2	隣接する時空間を視野に入れる「完了」	60
3.2.2.1	隣接する時空間を視野に入れる「-ておく」	60

3.2.2.2 「-ておく」と「-てある」の比較.....	62
3.2.3 「完了」を表す二次的アスペクト「-てしまう」.....	65
3.2.3.1 「-てしまう」の意味分析の問題点.....	66
3.2.3.2 隣接する時空間を視野に入れた「実現」.....	68
3.3 まとめ.....	73
第4章 ズームインし、最終部分の境界線に焦点を当てる「完了」.....	74
4.1 「～切る」の意味分析－「変化スケール」に注目する.....	75
4.1.1 「～切る」の意味分析の問題点.....	76
4.1.2 「～切る」の意味拡張の動機付け.....	77
4.1.2.1 I 「切る」動作主と「切る」対象で捉えられるもの.....	78
4.1.2.1.1 ①モノの切断.....	78
4.1.2.1.2 ②コトの切断.....	79
4.1.2.2 II 心理的境界線－変化動詞との結合.....	80
4.1.2.2.1 ③心理的境界線の生成.....	80
4.1.2.2.2 ④心理的境界線の浮き彫り化.....	82
4.1.2.3 III 「変化スケール」－動作動詞と結合する「～切る」.....	86
4.1.2.3.1 「～切る」の通時的意味拡張.....	86
4.1.2.3.2 ⑤動作の完遂とは.....	86
4.2 「～抜く」の意味分析－「動作の段階的な実現」に注目する.....	89
4.2.1 「～抜く」の意味分析の問題点.....	89
4.2.2 「～抜く」の意味のネットワーク.....	90
4.2.2.1 A類についての考察.....	91
4.2.2.2 B類①と②の考察.....	92
4.2.2.3 B類③の考察.....	95
4.3 二次的アスペクトが表す「完了」－完了時点に至るまでのプロセス..	98
4.4 まとめ.....	103
第5章 日本語と中国語のアスペクトの対照－「完了」をめぐって.....	105
5.1 二次的アスペクト「-ておく」「-てある」「-てしまう」の日中対照.....	105
5.1.1 「-ておく」「-てある」「-てしまう」に対応する中国語.....	106
5.1.1.1 「-ておく」「-てある」「-てしまう」の中国語対訳データ.....	106
5.1.1.2 「-ておく」「-てある」「-てしまう」の中国語対訳の整理.....	108
5.1.2 「-ておく」「-てある」「-てしまう」に対応する中国語の考察.....	111

5.2 三次的アスペクト「～切る」「～抜く」「～通す」の日中対照.....	115
5.2.1 「～切る」「～抜く」「～通す」に対応する中国語の3分類.....	115
5.2.2 「～切る」「～抜く」「～通す」に対応する中国語の考察.....	119
5.2.2.1 パターンⅠの考察.....	119
5.2.2.2 パターンⅡの考察.....	121
5.3 日本語と中国語のアスペクトの対照 - 「完了」をめぐって.....	122
第6章 結語と今後の課題.....	127
参考文献.....	130
付録.....	140

第1章 はじめに

1.1 研究目的

アスペクトは元々ロシア語を含むスラブ諸語にある概念であり、一つの動詞は「完了体」と「不完了体」のペアとなる形態的な対立を持ち、テンスとは別に、形態論的なカテゴリーの一つを成す。しかし、日本語を含むスラブ諸語以外の言語においては、スラブ諸語と同様な形態論的なアスペクトのカテゴリーが見られないため、スラブ諸語にあるアスペクトの概念を「aspects are different ways of viewing the internal temporal constituency of a situation」(Comrie 1976: p.3)というふうに一般化され、個別言語ごとにその表し方を考察されている。

本研究は、「完了」の意味特徴をめぐって、認知言語学及び対照言語学の観点から日本語のアスペクト形式を研究するものである。寺村(1984)は現代日本語のアスペクトを「する」と「した」の対立を成す一次のアスペクト、テ形に接続する補助動詞の二次のアスペクト、そして、動詞連用形+動詞の三次のアスペクトに分けている。本研究は、寺村(1984)のこの分類に従い、その中から二次のアスペクト形式「-ておく」¹、「-てある」、「-てしまう」、そして、三次のアスペクト形式「～切る」、「～抜く」、「～通す」を取り上げ、次の3点を明らかにすることを目的とする。第1に、これらの形式はそれぞれどのような「完了」の意味を表すかを明らかにした上で、一次的、二次的、三次のアスペクト形式それぞれが表す「完了」の意味にどのような特徴が見られるかを考察する。第2に、寺村(1984)が打ち出した日本語のアスペクトに関する体系的な分類の意義を認知言語学的な観点から再検討することを通して、奥田(1977)、工藤(1995)などによって形態論的に規定されている現代日本語のアスペクトの対立「する」と「-ている」は、ほかのアスペクト形式との関係を、どのように統一的に捉えられるかを考察する。第3に、二次のアスペクトの「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」、そして三次のアスペクトの「～切る」、「～抜く」、「～通す」について中国語との対照を行い、両言語の相違点と共通点を考察する。

現代日本語のアスペクト研究に関しては、鈴木(1957)をはじめ、奥田(1977)、工藤(1995)、などは「完成相」を表す「スル」(シタ)と「継続相」を表す「シテイル」(シテイタ)の対立を日本語の形態論的なカテゴリーのアスペクトとして規定し、「-てしまう」

¹本研究は、基本的に寺村(1984)の分類に従うが、「-ておく」について、寺村(1984)は理由を提示していないが、「-ておく」の形式をアスペクトの観点から扱っていない。しかし、本研究の第3章で分析しているように、認知言語学的な観点から、「-ておく」は「隣接する時空間を視野に入れる二次的アスペクト」という点でほかの形式と一緒に分析することによって、その意味・用法が正しく把握できる。従って、本研究では「-ておく」を「-てある」や「-てしまう」と同様に、二次的アスペクト形式として扱う。

のようなテ形補助動詞や、「～切る」のような複合動詞などを機能・意味的カテゴリーとしてのアスペクチュアリティの中で扱っている。こうした立場とは異なり、寺村(1984)は現代日本語のアスペクトを一次のアスペクト、二次のアスペクト、三次のアスペクトに分け、「する」を「未然」を表す形とし、「した」を「已然」を表す形とし、一次のアスペクトとして両者を対立させている。そして、奥田(1977)や工藤(1995)などが排除した「-てしまう」のようなテ形補助動詞を「-ている」と同列に扱い、文法形式化した二次のアスペクトと規定し、更に「～切る」のような複合動詞を三次のアスペクトとしている。

このように、「完了」か「継続」かの対立を中心とする「出来事の時間的展開性(内的時間)の把握の仕方の相違」(工藤 1995: p.8)を表すアスペクトについて、現代日本語において、基本的な規定から体系的な捉え方まで意見が分かれていることが伺える。その原因が「完了」(または「継続」)の意味をどのように捉えるかにあると考え、先行研究に言及されている「完了」の意味の捉え方を(1)の3タイプにまとめる。

(1)①過程をもつ出来事の内部構造に注目すると、「起点」、「途中」、「終点」の3つの局面を認めることができる。この「終点」の完了概念を指す。日本語学では「完結相」と呼ばれているものにあたり、「～終わる」や「～切る」や「-てしまう」などがこのタイプに含まれる。

② ‘perfective’の完了概念を指す。一般的に「完了相」(perfective)と呼ばれているものである。Comrie(1976)は ‘perfective’を次のように説明している。「the whole of the situation is presented as a single unanalyzable whole, with beginning, middle, and end rolled into one; no attempt is made to divide this situation up into the various individual phases」(p.3)。

③パーフェクト(perfect)の完了概念を指す。パーフェクトとは「the continuing relevance of a previous situation」(Comrie 1976: p.57)であり、結果パーフェクト、経験パーフェクトなどが含まれている。

このように、一口に「完了」と言っても、視点が異なれば「完了」の意味の捉え方も変わってくる。そのため、日本語のように、個別言語のアスペクトの体系を構築するのに混乱を招きかねない。それでは、次に、認知言語学的な観点からどのように「完了」が定義されるかを見てみる。認知言語学ではアスペクトを次のように捉えている。「動

詞に関する完結(perfective)／非完結(imperfective)」という区別が名詞に関する加算／不加算の区別と類比的であり、事物を有界／非有界的に捉える話者の認知能力にその基盤が求められる…(略)…モノの有界／非有界的把握を示す文法範疇が数だとしたら、コトの有界／非有界的把握を示す文法範疇がアスペクトだと言える。」(野村 2007: pp.6-7)。そして、出来事全体をまるごと見るのか、中に入ってみるのかという「視点」について、ピンカー(2009)²は次のように述べている。「ズームイン、ズームアウトすることで境界が曖昧な場合を含め、出来事全体を一つの塊に圧縮することができる。ズームインは「未完成相」(imperfective)と呼ばれ、…(略)…ズームアウトは「完成相」(perfective)と呼ばれ…(略)…」(p.95)。

本研究は、上記の先行研究を踏まえ、認知言語学的な観点から、「完了」の意味を(2)のように規定する。

(2)出来事を見る視点によって、ズームアウトし、出来事を全体として捉える、または、ズームインし、出来事の時間的内部構造に入り込み、終結部分の「境界線」に注目する。

その上で、寺村(1984)の分類を(3)のように捉え直し、本項の冒頭で挙げている本研究の研究対象をその中に位置づけ、考察していく³。

²ピンカーはノーム・チョムスキーの生成文法の影響を受けた心理学者だが、近著ピンカー(2009)では認知よりの分析を展開しており、アスペクトを出来事の<形>と<視点>を時間と関係づける文法としている。

³上記で紹介したように、現代日本語のアスペクト研究に関しては、鈴木(1957)をはじめ、奥田(1977)、工藤(1995)などは「完成相」を表す「スル」(シタ)と「継続相」を表す「シテイル」(シテイタ)の対立を形態論的なカテゴリーのアスペクトとして規定している。工藤(1995)などによると、「-ている」は主に「走っている」のような「進行相」と「死んでいる」のような「結果相」に分けている。本研究は「-ている」を研究対象として扱わないが、次の2つの理由において、「-ている」の主要用法と本研究が考えている(3)の体系との関係を第3章で述べる。第1に、本研究は基本的に寺村(1984)の一次的、二次的、三次的アスペクトの分類に従う。しかし、(1)の②で示した‘perfective’と‘imperfective’の対立は寺村(1984)が主張している「する」と「した」の対立ではなく、工藤(1995)などが主張している「する」と「-ている」の対立だと考える。第2に、「結果相」の用法について、「-ている」と「-てある」が相補的關係にあるため、本研究が考えている(3)のAの②に位置づける。

(3)A.ズームアウトし、全体に焦点を当てる「完了」

- ①ズームアウトし、全体を捉える一次的アスペクト形式：「する」
- ②ズームアウトし、全体を捉え、更に隣接する時空間も視野に入れる二次的アスペクト形式：「ている」（「結果状態」の用法）、「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」

B.ズームインし、最終部分の境界線に焦点を当てる「完了」

- ③三次的アスペクト形式：「～切る」、「～抜く」、「～通す」

このように、寺村(1984)の形態論による、一次的、二次的、三次的アスペクトが表す「完了」の意味特徴が明らかになり、その分類の意義を認知言語学的な観点から与えることができる一方、なぜ日本語には一次的アスペクト形式があり、そして、二次的アスペクト形式もあり、更に、三次的アスペクト形式まであるのかという問いに対する答えを見出すことができる。また、寺村(1984)と異なる立場にある工藤(1995)などが主張している「する」(完成相)と「している」(継続相)の対立は、ほかのアスペクト形式との矛盾を解消し、「する」、「-ている」とほかのアスペクト形式との関係を統一的に説明することができる。更に、(3)のような捉え方が日本語特有なものなのかどうかを中国語との対照を通して検討することによって、現代日本語のアスペクトの特徴をより明確に浮かび上がらせる。また、他言語との共通点を見出すことによって、アスペクトの通言語的な普遍性に示唆を与えることもできる。

1.2 本論文の構成と内容の概略

本論文は全部で6章に分けている。

第1章では、本研究の全体像を提示する。まず、現代日本語のアスペクト研究を概観し、先行研究で言及している様々な「完了」の意味をまとめた上で、本研究における「完了」の意味を認知言語学的な観点から定義する。次に、寺村(1984)の形態論の観点から分類した一次的、二次的、三次的アスペクトを本研究が定義した「完了」の意味に基づき、体系的に捉え直す。そして、本研究の研究対象となる6つの形式、すなわち、補助動詞の「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」及び複合動詞の「～切る」、「～抜く」、「～通す」をその体系の中に位置づける。最後に、このような階層的なアスペクト体系を持つ日本語と言語の系統が異なる中国語との対照を行う目的を述べる。

第2章は、まず、研究対象となる二次的アスペクトの「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」、そして三次的アスペクトの「～切る」、「～抜く」、「～通す」の先行研究の中で代表的なものを取り上げ、概観する。次に、本研究の研究目的から見ると、研究対象と

なる6つの形式にどのような問題点があるのかを提起し、研究方法を述べる。

第3章は、まず先行研究で論じられている「-ている」の用法を中心に、出来事の部分に焦点をあて、「進行」を表す「-ている」が、ひとまとまり性を持ち、「完了」を表す「する」との対立が見られる。一方、「結果状態」を表す「-ている」は、「完了」をベースにした「結果状態」を表す二次的アスペクト形式「-てある」と緊密な関係があり、「過去に実現したことの結果として現在の状態を述べる」(寺村1984: p.147)との意味から、「-ている」には二次的アスペクトの特徴も見られる⁴。二次的アスペクトの「-てある」は「結果状態」の意味で「-ている」と相補的關係にあるが、ムード的な意味「準備」において、「-ておく」との類似性が見られている。しかし、先行研究では、「-ておく」という形式について、「持続」というアスペクトの意味があるか否か、そして、アスペクトの意味とムード的な意味「準備」とどのような関係なのかをめぐって、長い論争が続いてきた。本研究はそれを踏まえ、3.2.1節で「-ておく」の意味分析を行い、区切られた時空間を占めるという事態把握において、「持続」と「準備」の意味は対立するものではなく、一方が他方の付随的な、語用論的な意味でもなく、1つの事態把握の2つの側面であることを明らかにした。そして、「-ておく」の意味分析を踏まえ、「-てある」の意味との比較を行い、「-てある」と「-ておく」は前接動詞の出来事をまるごと捉え、更に隣接する時空間を視野に入れる点が共通しているが、区切られた時空間の関わり方の違いが原因として、両者が表す「準備」の意味が異なる。このように、二次的アスペクトの「-てある」と「-ておく」は、先行研究では直接「完了」形式として扱われていないが、ズームアウトし、全体に焦点を当てる「完了」という点において、一次的アスペクトの「する」と共通している。一方、「-てある」と「-ておく」はズームアウトし、全体を捉えた上で、更に隣接する時空間を視野に入れる点が一次的アスペクトの「する」と異なるため、アスペクト的に「完了」を表すと共に、「準備」などのようなムード的な意味を伴う違いが見られる。

一方、テ形に接続する補助動詞の中で「完了」を表すと言われている「-てしまう」がある。「-てしまう」がどのような「完了」の意味を表すのか、それは一次的アスペクトの「する」が表す「完了」とどのように異なるのか、また、「-ておく」と「-てある」とどのように統一的に捉えられるのかをめぐって、3.2.3節で「-てしまう」の意味を考察する。

第4章では、先行研究で「完了」を表す形式として扱われている複合動詞の「～切る」、

⁴本研究は「-ている」を研究するものではないため、「-ている」の意味をどのように統一的に捉えるのか、また、「動作の進行」と「結果状態」を「継続相」に統一する考え方が合理的かどうかなどについては深入りしない。

「～抜く」、「～通す」は、どのような「完了」の意味を表すのかという点をめぐって、意味分析と意味比較を行う。まず、4.1 節で「～切る」の意味分析を行う。「モノの切断」という基本的な意味を持つ「～切る」は「動作の完遂」というアスペクトの意味への変容は、一足飛びに起こるのではなく、その中間に変化動詞と結合する「～切る」の用法が存在する。変化動詞と結合する「～切る」から動作動詞と結合する「～切る」への意味拡張の中で「変化スケール」が注目され、橋渡しの働きをしている。つまり、動作動詞は目的語と共起することによって獲得した動作対象の「変化スケール」に注目することによって、動作対象がゼロになった時点が、動作の完了時点となる、というのが「～切る」の表す「完了」の意味である。次に、4.2 節で「～抜く」の意味分析を行う。「～抜く」の意味分析では、「～抜く」の基本的意味を「拔出」と「貫通」の2種類に分け、「貫通」の意味は空間での抽象化を起し、「目標物を追い抜く動き」の意味に変容する。そして、更に時間にも拡張し、「目標実現の追求」というアスペクトの意味と結びつく。「目標実現の追求」とは目標に向かって、時間の流れの中で、段階的な動作の実現という意味であり、これが「～抜く」が表す「完了」の意味特徴と考える。最後に、4.3 節で「～切る」、「～抜く」、「～通す」の意味比較を行う。三者の意味比較を行う前に、「～通す」が表す「完了」の意味特徴を検討する。「～通す」は「～切る」、そして「～抜く」と異なり、始点から完了時点までの動作の過程そのものに注目する特徴を持っていることを明らかにする。このように、「～切る」、「～抜く」、「～通す」は「完了」という意味においては同様だが、完了時点に至るまでのプロセスにおける焦点の当て方によって、「～切る」、「～抜く」、「～通す」が表す「完了」の意味合いに違いが出てくる。そして、「完了時点に至るまでのプロセスの違い」という特徴がズームインし、最終部分の境界線に焦点を当てる「完了」であり、「ズームアウトし、出来事を全体として捉える」一次的、二次的「完了」アスペクト形式との違いも明らかになる。

第5章では、以上考察してきた二次的アスペクトの「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」、そして三次的アスペクトの「～切る」、「～抜く」、「～通す」について、中国語との対照を行い、「完了」を表すアスペクト形式に関する両言語の相違点を考察する。そして、両言語に見られる共通点も検討し、認知言語学の意味の観点から中国語のアスペクト体系を見直す可能性を探る。まず、5.1 節で二次的アスペクト形式「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」と中国語との対照を行う。対照を通して、日本語の二次的アスペクトが表す「完了」、すなわち、ズームアウトし、全体を捉え、更に隣接する時空間を視野に入れるという特徴を持つ「完了」の捉え方は中国語では言語化しにくいことを明らかにする。次に、5.2 節で三次的アスペクト形式「～切る」、「～抜く」、「～通す」と中国語との対照を行う。対照にあたって、日本語の三次的アスペクトが表す「完了」

は完了時点とそこに至るまでのプロセスに注目する特徴を持っているのに対して、中国語はその両方を同時に言語化することが難しいことを明らかにする。最後に、5.3節で「完了」の意味をめぐって、日本語と中国語のアスペクトの相違点をまとめ、両言語のアスペクト形式に見られる共通点を検討する。日本語の二次的アスペクトは隣接する空間を視野に入れる特徴、そして三次的アスペクトはプロセスと完了時点の両方に注目する特徴は「なる」型言語の特徴の現れである。それに対して、中国語は「する」型言語の特徴、つまり、「結果の在り方」に注目する特徴を表している。それが原因として、両言語は「完了」を表すアスペクト形式に異なる発想による大きな違いを見せている。しかし、「結果の在り方」に注目するという中国語の特徴もズームインし、出来事の部分に注目する「完了」の捉え方である。そのため、中国語も日本語と同様に、階層的な捉え方でアスペクトを総括的に捉えられると考える。つまり、出来事が発生したかどうかに関心している動態助詞の“了”(LE)と“过”(GUO)はズームアウトし、出来事を丸ごと捉える完了形式である。それに対して、「結果の在り方」に注目する結果補語と方向補語などは出来事を丸ごと捉えるのではなく、ズームインし、出来事の結果に焦点を当てる完了形式である。

第6章は、第2章で提起した問題点の回答を述べ、本研究の意義をまとめた上で、今後の課題を提起する。

第2章 先行研究と問題提起

2.1 先行研究

2.1.1 「-ておく」「-てしまう」「-てある」の先行研究

本項では、「-ておく」、「-てしまう」、「-てある」の先行研究の中で代表的なものを取り上げ、概観する。まず、「-ておく」については、「持続」を表すアスペクト形式であるかどうか、そして、「持続」と「準備」の意味はどちらがより基本的なのかをめぐって様々な議論が行われている。次に、「-てしまう」については、「完了」を表すアスペクト形式であるという点は研究者の間でも意見がほとんど一致しているが、どのような「完了」の意味を表すのかをめぐっては、意味分析が盛んに行われている。最後に、「-てある」については、「-てある」そのものの意味分析、または「-ている」と対立するアスペクト形式として研究されているものが多い。そして、「準備」の意味に関しては、「-ておく」との比較が見られる。

2.1.1.1 「-ておく」の先行研究

1. 高橋(1969)⁵

高橋(1969)は、「-ておく」の基本的な意味を2つ立てている。1つはアスペクト動詞としての「-ておく」、もう1つはムードの意味を表す「-ておく」である。高橋(1969)はアスペクト動詞としての「-ておく」は「あとのことをかんがえにいてするうごきをあらわす動詞」(p.133)とし、更に次の2種類に分けている。1つは「対象を変化させて、その結果の状態を持続させることを表す」(p.133)のものであり、もう1つは「対象にはたらきかけないで、そのままの状態を持続させることをあらわす」(p.134)のものである。そして、ムードの意味を表す「-ておく」は「つぎにおこることがらのために準備的な動作としておこなう動作をあらわす。」(p.146)と説明し、更に次の4種類に分けている。

(高橋 1969: pp.146-148 を参考にまとめ)

- ①つぎにおこることがらのために準備的な動作としておこなう動作をあらわす。

⁵高橋太郎(1969)「すがたともくろみ」教育科学研究会国語部会文法講座テキスト[金田一春彦(編)(1976)。『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房 pp.118-153 所収]。本研究は金田一(編)(1976)を参照する。下記の「-てしまう」、「-てある」の高橋太郎(1969)も同様に、金田一(編)(1976)を参照するため、ページ数表示は金田一(編)(1976)のものを指す。

②体験する動きをあらわす。

③ことさらにする動作、しかたなくする動作をあらわす。

④「しておいて」「しておきながら」の形で、「したにもかかわらず」の意味をあらわす。

高橋(1969)は、アスペクト的意味とムード的意味をそれぞれ「-ておく」にある基本的な意味としておきながら、この2つの基本的な意味がお互いに付きまとい、完全に切り離すことができないと指摘している。「すがた動詞のばあいも、準備のニュアンスのあることがあるが、その基礎に、状態つくりとその保持の意味がある。こちらのばあいは、準備が基礎としてある。」⁶(p.146)。しかし、このように、元々切っても切れない2つの意味を切り離し、それぞれを基本的な意味として認めるのが妥当かどうかについてはまだ検討の余地がある。

2. 吉川(1973)⁷

吉川(1973)は、「-ておく」の基本的な意味を「持続」を表すアスペクトの意味とし、「準備」や「一時的処置」などのようなムード的意味を派生的な意味とし、次のような7分類を挙げている。この7分類では、①～④はアスペクト的なものだと説明され、⑤～⑦はアスペクトの意味にある種のムード性が加わった派生的なものだと述べられている。

(吉川 1973: pp.267-279 を参考にまとめ)

①対象の位置を変化させ、その結果の状態を持続させることを表す。

②対象を変化させ、その結果の状態を持続させることを表す。

③ある時までに対象に変化を与えることを表す。

⁶高橋(1969)の言うすがたとは、本研究におけるアスペクトと同じものを指す。

⁷吉川武時(1973)「現代日本語動詞のアスペクトの研究」[金田一春彦(編)(1976)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房 pp.118-153 所収]。本研究は金田一(編)(1976)を参照する。下記の「-てしまう」、「-てある」の吉川武時(1973)も同様に、金田一(編)(1976)を参照するため、ページ数表示は金田一(編)(1976)のものを指す。

④放任を表す:「ほうる」のような放任の意味を表す動詞から作られている。

⑤準備のためにする動作を表す。

⑥一時的処置を表す。

⑦いくつかの特例:例えば:「お安くしておきます」

吉川(1973)は、これらの7つの意味分類が明確に決まることがなく、文脈によってはアスペクトの意味としてもムードの意味としても解釈できると述べている。また、「-ておく」の先行研究の中では、吉川(1973)が「-ておく」の基本的な意味はアスペクトであり、ムードの意味は派生的なものであるという立場に立つ代表的なものである。しかし、笠松(1993)が指摘しているように、「-ておく」の基本的な意味をアスペクトとする考え方には問題がある。「もくろみ性は「しておく」のすべてをおおっているが、アスペクト性はばあいによってぬけおちることがある。」⁸(笠松 1993: p.119)。つまり、吉川(1973)が主張している「持続」を表すアスペクトの基本義で「-ておく」のすべての用法を統一的に説明することには無理が見られる。

3. 森田(1977)

森田(1977)は、「-ておく」の意味特徴を動作や行為の目的性に求め、事後を予想して前もって行為すると述べ、「その動作が自己のためか他者のためかによって分かれる」(p.124)と、次のように説明している。

(森田 1977: p.124 を参考にまとめ ※下線は作成者による)

- ①自己のために、事後を予測して事前にその事を行う。「下見しておいたから安心だ」のように、おこなった結果の状態が後まで消えずに続く。動作性の他動詞に付くのが普通であるが、「寝ておく」のように、行為の蓄積が可能な場合、自動詞にも付く。

⁸高橋(1969)は「動詞のあらゆる動作がなんのためにおこなわれるかをあらゆる文法的な意味をもくろみという」(p.141)。高橋(1969)の言うもくろみとは、本研究におけるムード的意味と同じものを指す。

②他者を前提とした行為で、他者がある状態にし、その状態をいつまでも続けさせる放任の意となる。例:「思うようにやらせておく」、「言いたい奴には言わせておけ」

このように、森田(1977)は「-ておく」にある「目的性」と「結果性」を強調し、ほかの補助動詞と区別している。そして、事後を予想して前もって行為するという「目的性」は、「準備」の意味を中心とするムード的意味に相当するものであり、森田(1977)でも最も重要視されている意味特徴である。

4. 笠松(1993)

笠松(1993)は、「-ておく」の基本的な意味をもくろみ性に求め、アスペクトの意味との関係を次のように説明している。

「しておく」は《もくろみ動詞》であり、予想される出来事にそなえて、なんらかの《結果的な状態》をのこす、意図的な動作を表している。もくろみ動詞にさしだされる動作は、つづく場面にそなえて、まえもっておこなわれる動作である。その、つづく場面がおこっているまえに、終了していて、なんらかの《結果的な状態》をのこす動作である。したがって、この動作には《おわりの限界の達成》というアスペクト的な意味がつきまどっている。「しておく」は動作のし方そのもののなかにおわりの限界をもっていて、完成相のかたちしかとらない限界動詞である。

(p.123)

笠松(1993)をはじめとするムード的意味の基本義説は、現在「-ておく」の意味の全体像を解明する研究では優勢のように思われる。しかし、のちほど、大場(2004、2005)も菊地(2009)も含め、「-ておく」の意味の統一性・体系性から見ると、この立場を取っている研究は次の問題点をクリアしていないように思われる。すなわち、「準備」⁹の意味が基本と考えると、(4)のような本動詞「置く」の基本義がまだ残っている例との繋がりを説明することが難しい。

⁹「-ておく」のムード的な意味の中で、「検査前日の7時までに晩ご飯を食べておいてください。」(由井 1997: p.103、例 28)のような「準備」を表すものが最も典型的な用法とされている。

(4)おさらには、千一郎のすきなあじのひものが、三びきそろえておいてあったのです。

(吉川 1973: p.270)

つまり、どうして「空間を占める」を表す「置く」は、補助動詞になったとたん「準備」の意味が基本となるのかという疑問である。

5. 谷口(2000)

谷口(2000)は「-ておく」には「準備」の意味とは相反する「終結」の意味に注目し、議論を展開している。谷口(2000)は「終結」の意味を次のように3分類し考察した上で、「準備」の意味との関連性に言及している。

(谷口 2000: pp.1-7 を参考にまとめ ※下線は作成者による¹⁰)

①事後処置を表す場合: (5)のように、あとのことのための準備というより、眼前の出来事、事態を完了させるというような一種の終結的な行為を表す。

(5)(郵便局の窓口で)

A:これ、速達でお願いします。

B:240 円ですね…。では、こちらで出しておきますから。

(p.2、例 2)

②心理的な充足行為を表す場合: (6)のように、行為自体が話し手(行為者)の心理的な充足(完結)的行為となっており、典型的には、行為者自身にとって重要な意味を持つ事柄、あるいは自分の人生にとってのひとつの節目となるような出来事に関して多く見受けられる。

(6)もうこの町に来ることもないだろうから、よく見ておこう。

(p.4、例 8a)

③結語として用いられる場合: (7)のように、まとまった文章や談話の結語として用いられ、「結び」の機能を持っている。

(7)最後に、以上論じてきたような観点から、「ハ」と「ガ」の機能をここでまとめておこう。

(p.5、例 12a)

¹⁰(5)～(7)の例文の下線は谷口(2000)によるものである。

「準備」の意味との関連について、谷口(2000)は文脈上の違いによるものとし、(8a)と(8b)が示すように、「あとのことが前提となっている場合には、準備性を色濃く持つが、逆に、あることのア後に続く動作として位置づけられると、その事柄の終結的動作としての機能が前面に出てくるといえる。」(p.7)と説明している。

(8)a. きょうは午後から来客があるから、部屋を片付けておこう。 (p.7、例 18b)

b. お客さんが帰ったら、部屋を片付けておこう。 (p.7、例 19b)

このように、「終結」の意味に着目している谷口(2000)の研究は重要な意義を持っている。「-ておく」の研究では、従来「準備」を表すムード的意味と「持続」を表すアスペクト的意味の関係をめぐって議論されてきたが、谷口(2000)が論じている「終結」の意味が重要視されていない。しかし、「-ておく」の全体像を解明するには、「終結」の意味と「準備」の意味、そして「持続」の意味をどのように統一的に説明できるのかが重要な問題提起となる。この問題点について、谷口(2000)では詳しく議論をなされていない。

6. 大場(2005)

大場(2005)は「-ておく」のアスペクト的意味と「準備」の意味を統一的に捉えようとし、「-ておく」の中心的意味を「行為によって生じる事態を見込んだ上で、その行為を行うことを表す」(p.19)と規定している。そして、「生じる事態」の意味によって次のように分類し、<生じる事態 1>の用例群 A と B を従来のアスペクト的用法、<生じる事態 2>の用例群 C と D を従来のムード的用法と関連づけ、議論を進めている。

(大場 2005: pp.23-31 を参考にまとめ ※下線は作成者による¹¹⁾)

<生じる事態 1>: 当該の動作に伴って生じる直接の結果

用例群 A: 「動作終了後の状態の保持」を表すとされるもの

(9) もうすぐ夫が帰ってくるので、味噌汁を温めておく。(p.24、例 19)

用例群 B: 「動作中の状態の保持」を表すとされるもの

(10) 家事をしている間は、息子にテレビを見させておく。(p.24、例 20)

¹¹⁾(9)~(12)の例文の下線は大場(2005)によるものである。

＜生じる事態 2＞: 当該の動作に伴って生じる間接的な効果・効力
用例群 C: 「状態の保持」を表さず、準備性が顕著に見て取れるもの
(11) 帰りが遅くなると母が心配するから、家に電話をしておこう。

(p.25、例 22)

用例群 D: 「状態の保持」を表さず、準備性が極めて希薄なもの
(12) 別におなかは空いていないけど、もう 12 時だからお昼をたべておこう。

(p.25、例 24)

このように、大場(2005)は＜生じる事態 1＞と＜生じる事態 2＞の違いを挙げ、「効力のあり方」に注目し、「-ておく」の意味を統一的に記述しようとする点が評価できる。しかし、「直接の結果」と「間接的な効果・効力」は何を基準に分けるのか、そして、「状態の保持」と定義されている「-ておく」の中心的意味との関係については論じられていない。

7. 菊地(2009)

菊地(2009)は「-ておく」の中心的な意味特徴を「後の時点における効力の発現を見越して、意図的にその行為を行う」(p.1)とし、「-ておく」の意味を次のように記述している。

(菊地 2009: pp.1-16 を参考にまとめ ※下線は作成者による)

① 「-ておく」の中心的な意味特徴を「後の時点における効力の発現を見越して、意図的にその行為を行う」ことである。具体的には(a)～(h)のような特徴が見られる。

(a) t1、t2 という二つの「時」を問題にしている。

(b) t1 = 「行為の時」、t2 = 「行為の効力が発現する時」である。

(c) 行為者は、t1 の「行為の時」において、「その行為の結果として、後の時 t2 において何らかの効力が発現するであろうこと」を見越している。

(d) 行為者は、この点を見越した上で、t1 の行為を意図的に行う。

(e) 行為者は、(d)の行為の意図性の有無を話し手が認定できる人物でなければならない。典型的には、話し手自身である。

(f) 話し手は、以上のことを、(t2 ではなく)t1 の時に立って述べる。

(g) 以上の場合に、t1 に行われる行為をあらゆる動詞に「-ておく」を付す。

(h)t2 における実際の効力の発現の有無にはかかわらず使われる。

②この意味特徴の一部が緩められた、多少とも周辺的な用法もある。この周辺的な用法を更に「効力の発現を見越して」が単により措置だと考える場合」と「会話の「切り上げ」機能」の2種類に分けている。

菊地(2009)は「-ておく」の中心的な意味特徴を規定した上で、谷口(2000)が述べている「終結」の用法をその周辺的な用法として位置づけており、「-ておく」の意味を体系的に記述している点が評価できる。しかし、谷口(2000)が述べている「終結」の用法を単に周辺的な用法であるとの説明は説得力を欠けている。つまり、どうしてこのような周辺的な用法が「-ておく」という形に出ているのかについては、十分に論じられていない。更に、①(a)はいきなり「二つの「時」を問題にしている」と説明しているが、それでは(4)のような「置く」の基本義がまだ残っている例との繋がりとの説明が難しく、「-ておく」の全体像を描くという目的を考えると考察がまだ不十分である。

(4)おさらには、千一郎のすきなあじのひものが、三びきそろえておいてあったのです。

(吉川 1973: p.270)(再掲)

2.1.1.2 「-てしまう」の先行研究

1. 金田一(1955)¹²

金田一(1955)は、「-てしまう」を「動作相のアスペクト」と呼び、「ある動作・作用が完全に行われる」つまり「完了する」という意味を持つ」(p.48)と説明している。そして、具体的にどのような動作・作用を表すかについて、金田一(1955)は「瞬間的な動作・作用」と説明し、次のような2分類をしている。1つは「読む」のような継続動詞に後接し、読み終わるといような最後の一瞬だけを表す「終結態」であり、もう1つは「死ぬ」のような瞬間動詞に後接し、動作・作用の実現を表す「既然態」である。

「-てしまう」形式を完了アスペクト形式として扱い、前の動詞の語彙的アスペクトによって更に「終結態」と「既然態」に分けるとい金田一(1955)のこの考え方は、高橋(1969)、吉川(1973)などによって修正されながら、その後の研究に受け継がれている。

¹²金田一春彦(1955)「日本語のテンスとアスペクト」『名古屋大学文学部研究論集』X(文学 4)、金田一(編)(1976)『日本語動詞のアスペクト』所収。本研究は金田一(編)(1976)を参照するため、ページ数表示も金田一(編)(1976)を指す。

2. 高橋(1969)

高橋(1969)は、金田一(1955)の「終結態」と「既然態」のアスペクトの分類を受け継ぎ、更に「期待外」というモダリティの意味を上記の2つの意味と平行し、次のように設定している。

(高橋 1969: pp.131-132 を参考にまとめ)

①[終了]うごきがおわりまでおこなわれることをあらわす。

(13)私はその時にはもうはしごだんをおりてしまっていた。(冬の宿 151)

(p.131、例 109)

②[実現]過程の終わりとしておこなわれる動作が実現する。

(14)しかし、たいがいはしんでしまう。(p.131、例 118)

③[期待外]予期しなかったこと、よくないことが実現するをあらわす。

(15)かれはおもわずわらいだしてしまった。(p.132、例 127)

そして、動詞の意味によって、高橋(1969: p.131)は①の[終了]を更に次の3種類を分ける。

(a)主体または対象に変化を生じる結果動詞。

(16)くれてしまわないうちに (p.131、例 111)

(b)進行性の継続動詞は、動きの量や位置がきまっている場合に、この意味が実現する。

(17)ぶらぶらしているうちに一週間ほどたってしまった (p.131、例 114)

(c)くりかえし動作がぜんぶおわるばあい。

(18)電燈がみんなきえてしまった。(p.131、例 117)

このように、高橋(1969)は「-てしまう」に「完了」の意味だけではなく、マイナスの感情・評価の意味も明確に指摘している点が非常に重要であり、その後の「-てしまう」の研究にも大きく影響している。

3. 吉川(1973)

吉川(1973)は、金田一(1955)、高橋(1969)の考え方を受け継ぎ、「-てしまう」のムード的意味を更に細かく分類し、次のような 5 分類を提示している。

(吉川 1973: pp.228-254 を参考にまとめ ※下線は作成者による)

①ある過程を持つ動作がおしまいまで行われることをあらわす。

アスペクトの一形式として、過程のおしまいの部分を問題にし表現する形式であり、しはじめるーしているーしてしまう、という系列の一員である。「しおわる」とか「しつくす」とかと言い換えできる。

②積極的に動作に取り組み、これをかたづけることをあらわす。

「木を切ってしまう」のように、「切る」過程が問題なのではなく、「切る」ことをするという意味を表す。そのため、上記①の場合、1つの過程が問題であったが、ここでは、一連の動作が問題となる。一連の動作の最後の段階が行われ、つまり、大きな過程の終わりの部分が行われることを表す。

③ある動作・作用が行われた結果の取りかえしが見つからないという気持ちをあらわす。

「倒れてしまった」のように、アスペクト的な面は②と同様である。ムード的な面は、話し手の気持ちを表している。そして、人の意志的な「動作」より、非情物のうごきである「作用」が問題になることが多い。

④動作が無意的に行われることをあらわす。

④は更に 2 種類に分け、1つは「消える」のような元々無意的動作を表す動詞に後接する場合、もう1つは「止める」のような元々意志的動作を表す動詞に後接する場合である。前者は「-てしまう」の働きが弱く、後者は「-てしまう」をつけることによって、無意的動作となる。

⑤不都合なこと、期待に反したことが行われることをあらわす。

⑤の意味になりやすい条件として、非情物主体、現在形が多い。

このように、「完了」、「マイナスの感情・評価の意味」以外に、「-てしまう」に「動作を無意的に行われる」という意味の指摘は重要である。この 3 つの意味特徴は、通時

的に見ると、順番に拡張してきたと梁井(2009)の研究で明らかにされている。

4. 寺村(1984)

寺村(1984)は「-てしまう」について、次の2点において、高橋(1969)や吉川(1973)などと大きく異なっている。

- ① 「-てしまう」は「基本的に、行為・動作、できごとが完了したことを特に強調する表現であると理解することで足りる」(p.152)と述べられている。そして、この「完了」の中心的な意味は(19)のような本動詞の「しまう」の意味を受け継いでいると指摘されている。

(19)仕事ガスンデ、道具ヲ (元ノ場所ニ) シマウ (p.153、例 102a)

- ② 「-てしまう」が表す「完了」の意味特徴について、寺村(1973)は次のように説明している。「完了」というのは、客観的には、ある時間継続した動きが終点に達したこと、完成したことをいうのであるから、瞬間的なできごとや動きを表す動詞についてはいえないわけである。そういう事象を表す動詞に～テシマウが付くと、「その事が起こって、もはや起こる前の状態に戻ることはできない」という心理を表すことになる。(p.153 ※下線は引用者による)

このように、寺村(1984)は「-てしまう」の意味は本動詞「しまう」の意味が抽象化を起し、「完了」を表すようになり、そして、「完了」の意味特徴によるムード的な意味が生まれるという点において、従来の研究と異なる。しかし、ムード的な意味は「完了」の意味からの派生という点は高橋(1969)や吉川(1973)などと同様である。

5. 藤井(1992)

藤井(1992)は「-てしまう」の基本的な意味を「限界達成にともなうところの感情・評価の表現」(p.26)と規定している。すなわち、「話し手の現実に対する感情・評価的な態度」(p.22)というムード的な意味は「-てしまう」の基本的な意味であり、「完了」のアスペクト的な意味は付随的なものであるという主張である。藤井(1992)はアスペクト的な意味はなぜ付随的なものなのかについての説明を次の3点にまとめる。

(藤井 1992: pp.22-23 を参考にまとめ)

- ① 「してしまう」という形が表現する終了あるいは限界の達成は、かならず

しも「してしまう」の「しまう」が表現しているとはいえない。変化動詞が「してしまう」という形を採用する場合には、すでに動詞の語彙的な意味が限界の達成を表現しているため、そのために「してしまう」の形をつかう必要はない。

②自らの語彙的な意味のなかに限界をさししめしていない動詞であっても、「学校まで歩いてしまう」「資本論を ぜんぶ よんでしまう」「五はいも 飯を食べてしまう」というぐあいに、限界の達成は「しまう」がなくても、すでに表現されている。したがって、限界達成を表現するために「してしまう」の形をもちいる必要がない。

③動作や状態が継続している場合でも、「してしまう」を使うことがある。「泣いてしまった」「好きになってしまった」のように、「してしまう」の形を採用しても、実現した動作なり状態がまだつづいている。

このように、「-てしまう」の意味について、ムード的な意味とアスペクト的な意味と、どちらがより基本的なのかという点に関しては、藤井(1992)はムードの意味の基本義説という立場を取っている代表的なものである。アスペクトの基本義説とムードの基本義説の論争点が高橋(1969)で述べられている「実現」の意味である。つまり、両者は「実現」の意味を「完了」の意味として認めるかどうかについて意見が分かれる。一方、もし「話し手の現実に対する感情・評価的な態度」(p.22)が「-てしまう」の基本的な意味とすれば、それは「-てしまう」のほかの意味、たとえば、「限界達成」や「動作・状態の開始」などと、どのように統一的に説明できるのかが問題となるが、藤井(1992)では触れていない。

6.大場(2002)

大場(2002)は「-てしまう」の意味の分析においては、アスペクト的な規定でもなく、話し手の感情を表すという規定でもなく、まったく別の把握が必要である」(p.149)と述べ、「-てしまう」の意味を次のように規定している。

「当該の事態は、上接動詞や発話状況によって示された、それまでに存在していた《拮抗状態》に対する《区切り》である」という話し手の認識を述べる形式。(p.150)

そして、「拮抗状態」について、大場(2002)は以下のように3種類に分け、説明している。

イ:「-てしまう」が指す《拮抗状態》が上接動詞が表す過程によって設定される。

ロ:「-てしまう」が指す《拮抗状態》が文脈によって設定される。

ハ:「-てしまう」が指す《拮抗状態》が文脈以外の発話状況から設定される。

(p.154)

このように、大場(2002)は「拮抗状態」からの離脱という考え方で「-てしまう」の全体像を描こうとしている。しかし、「拮抗状態」という概念について、上記のような3分類に分けても、「過程によって設定される」や「文脈によって設定される」のように、一体どのように設定されるのかについては説明が不十分である。また、「-てしまう」は従来の先行研究で大きくアスペクト的意味とムード的意味が指摘されている。「拮抗状態」からの離脱という考え方は、この2種類の意味とどのようにリンクし、合理的に説明できるかという点に関しても説明が不十分である。

7. 梁井(2009)

梁井(2009)は通時的な観点から「-てしまう」の意味拡張は「完了」から「実現」へ、そして、「マイナス評価」のようなムード的意味へと拡張してきたことを明らかにしている。梁井(2009)の要点を次のようにまとめる。

①テシマウ相当形式は、動詞「シマウ」を語彙的資源として文法化している。この点については、梁井(2009)は木村(2001)の「鎌倉時代以前には確例は乏しい。鎌倉時代では終了・完了のほかは、特に茶道での、決められた手順による片付けを伴う一連の点前の終了を表す用例が見られる。」(木村 2001 p.329)の考え方を支持している。

(梁井 2009 p.19 を参考にまとめ)

②梁井(2009)は江戸語に出ている「死んでしまった」、「食ってしまった」の実例を用い、次のような指摘をしている。

江戸語のテシマウ相当形式は、このように、限界動詞・非限界動詞といった、典型的な運動動詞に後接し、終了限界の達成を表す例が大多数を占めている。

このことから、補助動詞としてのテシマウ相当形式の原初的な機能は、事態の終了限界の達成であると考えられる。(p.20 ※下線は引用者による)

- ③江戸期末から明治期初めにかけて、「-てしまう」は(20)のような状態が実現することを表すようになり、また、「後悔してしまう」のような動的な展開が認めにくい、心理的動詞に後接し、限界達成一般を表す形式として機能するようになった。

(20)朝からうちに居て、つづらの蓋をとって見たり、かぶせて見たり一日そわそわして暮らしてしまいましたが [明>吾輩 11回、434頁] (p.153、例 20)

- ④「異なってしまう」のように、「事態の限界達成という機能はさらに、通常動的に展開することのない静態的な事態にも比喩的に拡張される。戦前のシナリオには静態動詞への後接例が初めて出現する。」(p.21)

- ⑤「-てしまう」のムード的な意味について、梁井(2009)は次のように指摘している。

マイナスの感情・評価的意味は、当初、話者が動作主と一致しない場合に限って生じていたが、テシマウ相当形式の語彙的意味に焼き付けられて、それ以外の場合にも生じるようになっていったということになる。(p.24)

梁井(2009)が明らかにしている「-てしまう」の意味拡張、すなわち、広義の「完了」を表すアスペクト的意味から「マイナス評価」への拡張は、吉川(1973)や寺村(1984)などの先行研究の裏付けとなっている。しかし、梁井(2009)が最初の段階の拡張として挙げている「食ってしまった」、「死んでしまった」などのように、「-てしまう」に「限界達成」というアスペクト的な意味しか持っていないという考え方についてはまだ検討の余地がある。つまり、「食った」と「食ってしまった」、「死んだ」と「死んでしまった」は、完了の意味に関しては同様である。そのため、「-てしまう」をつけることによって、どのような限界達成を表すのか、それはアスペクトという概念で処理するのか、それともムード的な意味で考えるのかによって、梁井(2009)が挙げている「-てしまう」のアスペクト的意味からムード的な意味への拡張という結論が変わってくる。

2.1.1.3 「-てある」の先行研究

1. 吉川(1973)

吉川(1973)は「-てある」の意味を「動作の終わった後の結果の状態を表す」(p.254)

と説明し、次のような 5 分類をしている。

(吉川 1973: p.257 を参考にまとめ)

①対象の位置が変化した結果の状態を表す。

(21) 炉に炭火がいれてある。(傷 24) (p.257)

②対象が変化した結果の状態を表す。

(22) わたしの家は、ひとに貸してある。(p.257)

③動作が終わったことを表す。

(23) アパートを建てるということは十ヶ月も前に発表してある。(p.257)

④放任を表す。

(24) 机の上には、読みさしの本をひらきっぱなしにしてある。(p.257)

⑤準備のためにした動作を表す。

(25) 燃料も用意してあるぞ。(キスカ 118) (p.257)

そして、②の意味から「準備的動作」と共に「結果の状態」の意味も強く現れ、また、③の意味から「準備的動作」の意味に派生するのが多いと述べられている。「準備的意味」が強く現れる条件として次の 3 点を挙げられる。

(吉川 1973: p.266 を参考にまとめ)

①語彙的条件: 「用意する」のように、語彙そのものが準備の意味を持つ場合。

②構文的条件: 目的を示す「～ように」という句がある場合。

③その他: 「ちゃんと」などの文脈による場合

このように、吉川(1973)は「-てある」をアスペクト形式の 1 つとして扱い、その意味を具体的な空間の意味から抽象的な「準備」の意味へと変化していると説明している。しかし、①～⑤までの意味はそれぞれどのようなつながりを持ち、どのように変化しているのかを述べていない。また、「準備的動作」の指摘については、「-てある」はどのような「準備」の意味を表すのか、それは「-ておく」が表す「準備」の意味とどのような共通点と相違点があるのかについても言及していない。

2. 寺村(1984)

寺村(1984)は「-てある」を「処置の結果の存在」という意味を表すアスペクト形式として扱っている。寺村(1984)は「-てある」は「-ている」と比較し、両者は「過去に実現したことの結果として現在の状態を述べる」(p.147)という点において同様だと説明し、「その現状が誰か人の行為によってもたらされた」(p.147)という点では異なると述べている。

そして、寺村(1984)は処置行為の主体と意志性についても触れている。まず、処置行為の主体について、寺村(1984)は次のように説明している。

処置行為の主体が不明または不問のまま、眼前の状態をそのように客観的に描く場合…(略)…処置が自分自身の行為、または自分の差配による誰かの行為である場合…(略)…後者の場合には、その処置が、あることに対する準備という意図であるものであるという意味合いが強くなる。…(略)…前者の場合は、ある目的のための準備という意味合いは、ある場合もあるが、ない場合のほうが多いようである。(p.151)

次に、「…と書いてある」や「…と署名してある」のような用法は、意志的処置という意味がほとんどないと説明している。

寺村(1984)は日本語のアスペクト形式を一次的アスペクト、二次的アスペクト、三次的アスペクトに分けている。工藤(1995)などと異なり、「-ている」を「する」と対立する形ではなく、「-てある」となぞらえ、二次的アスペクトとして分類している観点が重要である。そして、「-てある」と「-ている」の相違点については「意志性」を中心に論じられており、「-てある」の意味分析を詳しくなされていない。「-ている」はほとんどの動詞につけることができ、「継続」や「結果状態」や「経験」など様々な意味を持っている。そのため、「意志性」以外に「-てある」とどのように異なるのかを明らかにするため、より詳細な「-てある」の意味分析が必要になると思われる。

3. 益岡(1987)

益岡(1987)は「-てある」の意味を統一的・体系的に解明しようとするものである。益岡(1987)は「-てある」の意味特徴を意志的行為の結果に重点が置かれる「結果相」とまとめ、統語的観点から「-てある」の意味を大きく受動型のA型と能動型のB型に分ける。そして、A型を更に広義の存在表現の一種と見なすA1型と何らかの状態の存続を表すA2型に分け、B型を更に結果の事態の存続を表すB1型と行為の結果の有効性

を示す B2 型に分ける。

益岡(1987)の分類(益岡 1987: pp.219-235 を参考にまとめ)¹³

A 型(受動型):意志的行為の結果生じる、対象の存在その他の状態が、視覚でとらえられる形で存続している。

A1:広義の存在表現の一種、行為の結果としての物の存在の状態を記述する。

(26)飲みかけのコーヒー茶碗が、受け皿から離れて置いてある。

(高橋三千網「五月の傾斜」)(p.221、例 7)

A2:行為の結果もたらされる、対象の何らかの状態が、視覚可能な形で存続している。

(27)入口に近い片すみが一畳余りの広さだけあけてある。

(本多勝一「カナダ・エスキモー」)(p.223、例 19)

B 型(能動型):行為の結果もたらされる事態の、基準時における存続性や有効性を表す。

B1:行為の結果もたらされる、対象の何らかの状態が、基準時において引き続き存在している。

(28)住宅は 11 棟で、ベッドルーム 150 室を確保してあります。

(読売新聞 1983.8.26)(p.225、例 27)

B2:行為の結果が基準時(及び、それ以降)において何らかの有効性を示す。

(29)それで、京都府警に鑑定をたのんであるの。

(山村美紗「ガラスの棺」)(p.225、例 29)

「-てある」の意味分析について、益岡(1987)は優れた、代表的なものである。金水(2000)は益岡(1987)の意味分類が通時的研究の結果とほぼ一致しているとコメントしている。

「補助動詞構文は本動詞の用法から順次派生し、意味を拡張してきたと見るのである。益岡の場合、このことは共時態における「内的連関」として作業仮説的に述べられているのだが、これはある程度通時的变化として確認することができる」(金水 2000: p.50)。

4.原沢(1998)

原沢(1998)は「-てある」の意味を「-ている」との関わりの中で分析している。原沢

¹³(26)～(29)の下線は本論文の筆者によるものである。

(1998)は「-てある」は「行為の結果の状態」を表すと説明し、①「ある目的の為になされた行為の有効性(能動型)」と②「行為によって生じた変化の状態(受動型)」の2種類に分けている。①は(30)が示すように、「ある行為が終わった状態を表すテイル・テアル文は、その行為に意図性を感じるか感じないかという点で相補関係にある」(p.15)と述べている。

(30)a.部屋の中がムンムンするので、しばらく雨戸を開けっ放してある (p.15、例 6)

b.部屋の中がムンムンするので、しばらく雨戸を開けっ放している (p.15、例 12)

②には2種類があり、1つは(31)が示すような自他動詞が対になる場合であり、もう1つは(32)が示すような、自動詞を持たない他動詞の場合である。前者は①と同様に、意志性があるという点で「-てある」は「-ている」と異なる。後者は「対応する自動詞を持たないテアルは、テイルの用法を兼務する形で、変化の状態を描写している」(p.21)と原沢(1998)は説明している。

(31)a.戸口から見たかぎり、兄の夏宿の影響か十歳程度の少年のわりには本が多く、それがまた整然と片づけてあった。(長野 p.79) (p.18、例 25)

b.戸口から見たかぎり、部屋の中には本が多く、それがまた整然と片づいていた。(p.19、例 29)

(32)おれは名刺を渡す。一定の住所などない。電話サービス社の番号が印刷してある。

おれへの電話を録音し、いつでも再生して聞かせてくれるところだ。(星 p.42) (p.20、例 36)

このように、原沢(1998)は「-てある」の意味を「-ている」との対立する中で分析し、「-てある」の本質を「意志的行為による状態変化」と捉えている。そして、(32)のような、対立する「-ている」を持たない「-てある」は非意志的な変化の状態を表すという点において「-ている」の働きを兼ねるという考えを示している。しかし、この種類の「-てある」は状態変化を表すというより、益岡(1987)が主張している広義の存在表現の一種、「行為の結果としての物の存在の状態を記述する」(p.222)のほうが適切だと考える。そして、原沢(1998)は「テイルとテアルは、お互いを補完する形で、その意味領域を形成するという前提の上に立つ」(p.13)と述べているが、この2つの形が形成した意味領域はどの意味領域なのかを説明していない。従って、なぜ「-ている」が存在し

ない意味領域で「-てある」が「-ている」の意味を肩代わりする働きを持つのかという疑問が残る。

5. 金水(2000)

金水(2000)は「-てある」の用法を大きく「結果」と「準備」に分け、前者は「-ている」の継続相、後者は「-ている」のパーフェクト相になぞらえ、捉えている。「-てある」と「-ている」の相補性について、次のようにまとめられている。

①継続相に相当する「-てある」の用法については、結果は「-ている」は主体変化動詞において発現するのに対して「-てある」は主体動作・客体変化動詞において現れる。したがって、「-ている」は主体という概念は不可欠と同様に、「-てある」は客体中心のアスペクトである。

②パーフェクト相に相当する「-てある」の用法については、「設定時に先行して出来事が達成されていることを表す。出来事は完成的に(すなわちまるごと性において)捉えられる。…(略)…この点ではシテイルのパーフェクト相と同じである。」(p.46)。一方、意志的動詞に後接し、準備の意味を表すようになる点が「-ている」と異なる。

金水(2000)は「-てある」は出来事が完成的に捉えられるというパーフェクトの意味への指摘が重要である。一方、金水(2000)自身も指摘しているように、「-てある」によって表される「準備」の意味が「どのような機構のもとに発生するかは、なお検討を要する」(p.47)という疑問が残っている。

6. 原沢(2005)

原沢(2005)は意図性をめぐって、「-ている」との関係において、「-てある」の意味を考察するものである。原沢(2005)はまず「意図性」について次のように定義している。

行為の結果が何らかの目的のために維持されていると認められる場合であり、結果状態において行為主の意志性を感じ取ることができる。ただし、この場合の行為主は特定される必要はない。(p.23)

この説明に基づき、原沢(2005)は「-てある」が表す結果状態を①意図的行為の結果、②非意図的行為の結果、③非意図的な非行為的状态に分ける。そして、「-ている」との

相補関係は次のようにまとめられている。(33)が示すように、主体がかかわる行為の結果((33a))及び非行為的状态((33b))は、非意図的の場合は、「-ている」によって表されている。

- (33)a.太郎が先生を招待している (p.36、例 30①)
b.表札が曲がっている (p.36、例 30③)

それに対して、「-てある」は(34)が示すような3種類のタイプを表している。①意図的に、主体がかかわる行為の結果((34a))、②意図的または非意図的に、客体にかかわる行為の結果((34b))、③非意図的に、客体にかかわる非行為的状态((34c))である。

- (34)a.太郎が先生を招待してある (p.36、例 30②)
b.テーブルの上に弁当が置いてある(意図的／非意図的) (p.36、例 30④)
c.便せんに青いラインが引いてある (p.36、例 30⑤)

原沢(2005)の考察結果は、益岡(1987)や金水(2000)などが主張する「-てある」は客体変化の結果、「-ている」は主体変化を表すとの観点と一致している。

7.神永(2009)

神永(2009)は通時的な研究である。神永(2009)は中世末期の口語日本語を伝えるという大蔵流狂言台本虎明本に見られる「-てある」の各用法を「-ている」及び「た」と比較している。そして、この3つの形式の競合が中世末期から近世にかけてどのような変化が見られているのかを狂言台本虎寛本との比較を通して考察している。結論として神永(2009)は次の3点を挙げている。

- ①テアル構文の大部分を成す、主語が有生の動作パーフェクトの用法は、テンス的用法のタ構文と競合していたが、タ構文に取って代わられた。
- ②主語(=主体)と目的語(=対象)が無生の、主体・対象変化動詞の変化の結果状態を表すテアル構文は、アスペクト的用法のタ構文と競合していたが、テアル構文で表すようになった。但し、対象がとる格助詞はヲ(または無格)からガに変わっていった。

③主語が有生の主体変化(自)動詞の変化の結果状態を表すテアル構文や、同じく主語が有生の持続(他)動詞の維持状態を表すテアル構文は、テイル構文と競合していたが、テイル構文に取って代わられた。

(p.50)

寺村(1984)の分類では、「-てある」と「-ている」は二次的アスペクトであり、「た」は一次的アスペクトである。しかし、工藤(1995)は「-ている」と「する」(「た」)を対立するアスペクトとし、「-てある」を準アスペクト形式としている。そのため、神永(2009)は「-てある」を「-ている」だけではなく、「た」との比較も視野に入れ、調査したことが有意義である。つまり、神永(2009)が考察しているように、「-てある」と「-ている」と「た」は中世末期から近世にかけて競合する形式であり、緊密に関わっていることが分かり、この3つの形式の意味関係、そして、日本語のアスペクト体系の考察に示唆を与えることができると考えられる。

2.1.2 「～切る」「～抜く」「～通す」の先行研究

本項では、「～切る」、「～抜く」、「～通す」の先行研究の中で代表的なものを取り上げ、概観する。「～切る」の研究については2つの流れに大別することができる。1つは「～切る」の意味と用法の記述的なものであり、もう1つは「～切る」をアスペクトの枠組みの中で捉えようとするものである。そして、「～抜く」と「～通す」の研究については、数が少なく、意味と用法の記述的なものがほとんどである。また、「～通す」そのものをテーマにする研究はほとんど見られず、「～切る」や「～抜く」などとの比較の中で扱われることが多い。

2.1.2.1 「～切る」の先行研究

1. 金田一(1950)¹⁴

金田一(1950)は、日本語の動詞を「状態動詞」、「継続動詞」、「瞬間動詞」と「第四種動詞」の4種類に分けている。この4種類の動詞の後に付属辞がついた場合の意味を考慮し、「～切る」については次のように述べている。

¹⁴金田一春彦(1950)「国語動詞の一分類」『言語研究』15、金田一(編)(1976)『日本語動詞のアスペクト』所収。本研究は金田一(編)(1976)を参照するため、ページ数の表示も金田一(編)(1976)のものを指す。

金田一 (1950: p.17 ※下線は引用者による)

「完全に」の意を有する「きる」「あげる」という動詞がある。状態動詞にはつかない。「ありきる」「出来あげる」(但し可能の「出来る」)など言わない。継続動詞にはつくことがある。「本を読み切る」「絵を書き上げる」など。孰れも「全部」「終わりまで」を意味する。「切る」は瞬間動詞にはあまりつかないが若しつけば継続動詞につく場合と多少異なった意味をもつ。「終りまで」の意ではなくて、「十二分に」の意である。「知りきっている」「分かりきった」など。第四種の動詞にはつかない。」

しかし、姫野(1999)などの主張、そして日本語大規模コーパスを用いた検証の結果によると、この金田一(1950)の「切る」は瞬間動詞にはあまりつかない」という判断は、妥当性に欠けていることが分かる。

2. 寺村(1984)

寺村(1984)は、日本語のアスペクトを大きく①一次的アスペクト(動詞の活用形)、②二次的アスペクト(動詞のテ形に後接する補助動詞の一部)、③三次的アスペクト(動詞の連用形に後接する補助動詞の一部)の3種類に分けている。その中の三次的アスペクトを更に「時間的な相」と「空間的な相」に分けている。空間的相には「～ヌク、～キル、～コム、～トオス、～ツメル、～ツクス」があり、程度や密度や強さや完成などの意味を表すと指摘され、「～切る」が「空間的な相」の中に位置づけられている。

寺村(1984: p.182 ※下線は引用者による)

空間的な相を示す補助動詞の中には、それがその元来の働きをする場合にはふつうは結びつかない動詞について、その動作をするのにかけられた努力の特別な強さとか、特別な完成、達成の感じとかを比喩的に表すものがある。

寺村(1984)では、「～切る」のような空間的な相は、動詞の意味に基づき、「～切る」の動作が「完成」や「達成」の意味を比喩的に表すという指摘が重要である。しかし、これらの空間的な相は、動詞の意味に基づき、どのように比喩的に「完成」や「達成」を表すようになったのかについては論じられていない。

3. 森田(1989)

森田(1989)は、複合動詞「～切る」の意味を本動詞「切る」の意味と関連づけ、考察

している。「切る」は複合動詞の後項動詞になる場合、前項動詞が表す意味に応じていくつかの段階に分かれ、その意味拡張を森田(1989)は次のような順番で挙げている。

森田(1989)の分類

(森田 1989: pp.378-380 を参考にまとめ ※下線は作成者による)

- ① 本動詞の意味そのままであり、先行動詞¹⁵が、物を切る方法を表す動作動詞の場合、“切り離す”行為そのものを表す。(例:「掻っ切る」、「噛み切る」)
- ② 「切る」本動詞の意味の一つ、連続した事柄を分離させる意識は、区切りを表す行為となって現れ、それが結果として、どこまでも続き得る行為や事柄にけりを付け、打ち切る、終結を表す行為ともなる。(例:「電話を切る」、「ちょっと言葉を切る」)。この意味を表すところから、他の動詞に付いた場合、完全にその事柄を終える、“完了”の意となる。(例:「打ち切る」、「思い切る」)
- ③ 「打ち切る、思い切る」のような終止行為そのものから「数え切れない、持ち切れない」など、多く打消表現となる。
- ④ 「やっとな読み切った」、「戸を締め切る」、「戸がたて切っている」など“全部すっきり……する”という意識であるが、この意識はさらに“完全に……し尽くす”のような“ストックを全部……する”という意識へと広がっていく。(例:「売り切る」、「買い切る」)
- ⑤ それ以上付け加える必要はない、これで完全だ、その行為を自信を持って行うのだという、強い言い方となる。(例:「はっきり言い切った」、「思い切って行う」)
- ⑥ 終了意識が、それ以上進まないという限界意識、完全に行き着く限度まで達したという強調意識となり、“非常に”“完全に”の意を添えることにもなる。(例:「みな反対を押し切って強行する」、「澄み切った秋空」)

¹⁵森田(1989)で、言う先行動詞とは、本研究における前項動詞と同じものを指す。

森田(1989)では、「～切る」が表す意味とその派生順について体系的な説明を試みているが、次のような問題点が見られる。1.「～切る」の前項動詞が表す意味に応じていくつかの段階に分けられると述べているが、上記の①～⑥の「～切る」はどのような意味の前項動詞と結合し、どのような意味が生じるのかについては論じていない。2.上記の①～⑥の順番で挙げている「～切る」の意味の段階性は、何を根拠にし、これらの段階をこのような順番で挙げたのかについても論じていない。3.上記の②で挙げている“完了”を表す「思い切る」だが、同じ前項動詞との組み合わせが、上記の⑤の“強い言い方”となる所でも「思い切って行う」という例が挙げられているため、「思い切る」が複数の個所に分類されることになってしまう。4.「終止行為そのものから「数え切れない、持ち切れない」など、多く打消表現となる。」という説明が何を指すのか、明らかではない。

4. 影山(1996)

影山(1996)は語形成の観点から、語彙概念構造を用いて、複合動詞を論じる著作である。その中で、「切っても切れない」について、影山(1996)は以下のような指摘をしている。

影山(1996: pp.288-289 ※下線は引用者による)

英語と日本語が基本に据える視点の位置によって、両言語の構文に拡張性の方向が正反対になることを述べた。…略…日本語の視点は逆に下位事象から上位事象を眺める視点である。…略…日本語は BECOME のところから上位事象(左側)に眼を向けているとすると、結果状態は視野から外れてしまい、行為のほうに注意がそそがれることになる。その結果として、池上(1981、1988)が指摘する「燃やしても燃えない」という表現ができるわけである。

…略…

(27) d. 切っても切れない縁

…略…ところが極めておもしろいことに、日本語でも、状態変化動詞の前に ACT を表すような動詞を複合させると、もはや(27)のような「矛盾文」は許されなくなる。…略…

(28) d. *断ち切っても切れない縁

…略…結果の到達が含意されるようになる

つまり、本動詞「切る」が複合動詞の後項動詞「～切る」として使われる場合、複合

動詞全体の中には有限性(Telic)が含意されているということである。

5. 姫野(1999)

姫野(1999)は、「～切る」に含まれている興味深い意味特徴を指摘し、「～切る」の意味と用法を詳しく記述している。姫野(1999)では、まず「～切る」について次の①と②の2つの特徴を指摘している。

姫野(1999: p.173 ※下線は引用者による)

①「～きる」が本義「切断」の意味を表すのは、20数語に限られており、完了の意で用いられる場合がほとんどである。

②「～きれない」についてだが、「～きれない」は可能動詞の中に「～かねる」や「～得る」に劣らぬ働きをする。「死にきった」とか「断りきった」とは言わないが、「死にきれない」とか「断りきれない」というような表現はよく用いられる。このように「～きる」の形はとらないが、「～きれない」の形でなら用いられるという語は非常に多い。これは、他の後項動詞には見られぬ特徴である。

そして、「～切る」の意味と用法について、姫野(1999)は影山(1993)の「語彙的複合動詞」と「統語的複合動詞」の概念を利用し、まず、本動詞「切る」の意味で用いられる語彙的複合動詞と接辞的に用いられる統語的複合動詞との2つのグループに分ける。更に、そのうちの接辞的な用法を、前項動詞が継続動詞である場合と瞬間動詞である場合という2つに分けている。姫野(1999)の分類を次の表1にまとめる。

表 1 姫野(1999)の分類(姫野 1999: pp.174-182 を参考に作成)

「～切る」	前項動詞	意味	代表例	
語彙的 複合動詞	切断の方 法と様相	切断	断ち切る、食い切る	
		終結	振り切る、押し切る	
統語的 複合動詞	継続動詞 (完遂)	行為者の予定ど おり(質、量とも に)完全に行われ ること	自動詞	走り切る、燃え切る
			他動詞	使い切る、隠し切る
	瞬間動詞 (極度)	それ以上はない というほどの究 極まで達するこ とを表す	自然現象	枯れ切る、腐り切る
			生理的現象	疲れ切る、冷え切る
感情や精神の働き			忘れ切る、決まり切る	

このように、姫野(1999)は前項動詞の違いに基づき、「～切る」を分類している。そして、それぞれのグループが表す意味特徴を次のように説明している¹⁶。

①語彙的複合動詞の意味の共通点は「人が目的を完遂するため、余分なことは切って捨て、決断したことに踏み出すという意味を共通に持っている。」(p.176)である。

②継続動詞と結合する場合、「話者の視点は継続の部分ではなく、最後の状態変化の一点、完全な状態に達するか否かの一点に絞られる。したがって、複合動詞「～きる」は、瞬間動詞となり、「～きっている」の形は、結果状態を表すことになる。そして、命令や誘いの形はあまり現れない。」(p.180)のである。

③瞬間動詞と結合する場合、状態性が強い。「～切る」が「～きっている」の形になる場合が多い。連体法では、「～た」の形が多く使われる。前項動詞は無意志動詞が多いが、「締める、頼る、信じる」等意志動詞も一部含まれている。しかし、「きる」がつくと、その意志性は失われてしまう。(pp.180-183)

姫野(1999)では、「終結」の意味が前項動詞の語によって異なると述べている。しか

¹⁶③については、説明が多ページにわたるため、本論文の筆者が要点をまとめた。

し、前項動詞の個々の語によって意味がどのように異なるのかについては詳しく説明されておらず、「終結」と「完遂」がどのように異なるのかについても論じていない。また、「食べ切る」という行為が、主体者の積極的な意図に支えられていると述べるのに対して、「分かる」や「決まる」のような、元々は評価を伴わない語でも、「切る」がつくと、良くないというニュアンスを帯びるようになると説明している。しかし、「切る」がついた場合、なぜ前項動詞によって評価が変わるのかという点についても説明をされていない。

6. 青木(2004)

青木(2004)は、通時的な観点から現代語における複合動詞「～切る」の意味と用法及び「～切る」の文法化を論じている。青木(2004)の研究を次の表 2 にまとめる。

表 2 青木(2004)の考え方(青木 2004: pp.37-40 を参考に作成)

時期	史的展開	例
古典語 (中古～中世)	「～切る」動作の対象が、「物体→空間→時間」と、抽象化する形で連続的に展開される。	射切る 立て切る 言い切る
中世後期後	①変化動詞に付接した場合に、「極度状態」というべき意味を表す語は、中世においてはじめて見られる。 ②調査した限り、中世において、動作動詞、非限界動詞に「～きる」が付接し、動作の完遂を表した例は見られない。	澄み切る 静まり切る
近世以降 ¹⁷	「完遂」を表す用法は近世以降に発生した比較的新しい用法である。	

そして、森田(1989)に対して、青木(2004)は次のように批判している。

「森田(1989)では、現代語の意味の関係について、「動作の完了」が「強調」や「極度状態」といった意味を生み出したと記述されている。現代語では「完遂」の用法が中心的であるから、右のような解釈も生まれようが、歴史をふ

¹⁷ 「完遂」の用法は原文には例が挙がっていなかった。

まえるならば、若干の訂正を要しよう。」(p.40)

更に、「～切る」の意味の本質について、青木(2004)はこのように指摘している。

「文法化した「～キル」の本質は<十分・完全な状態へ至る>ことを表すものであり、これが「変化動詞-極度状態」「動作動詞-動作完遂」という分布を生み出しているものと考えられる。」(p.40)

青木(2004)では「食い切る」→「立て切る」→「思い切る」のように、「切る」動作の対象が、「物体→空間→時間」と抽象化する形で連続的に展開していると考えられよう」(p.38)と指摘されている。しかし、発話・思考動詞が前項動詞である「言い切る」、「思い切る」などにおける「～切る」の対象が時間への展開であると考えられるのであれば、動作動詞と結合し、アスペクトを表すタイプの「～切る」との区別の説明が必要である。また、青木(2004)は「文法化した「～キル」の本質は<十分・完全な状態へ至る>」(p.40)と結論づけているが、複合動詞「～切る」の基本義「切断する」と文法化した「～切る」の本質「十分・完全な状態へ至る」とが、どのように繋がっているのかという点についても議論が不十分である。

7. 杉村(2008)

杉村(2008)は①本動詞「切る」の切断の意味が残っているかどうか、②「～し切った」後に前項動詞で表される動作や変化が持続しているかどうか、③「～し始め」てから「～し切る」までの間の状態を「～している」というかどうか、といった3つの基準によって、「～切る」の意味を「切断」、「終結」、「行為の完遂」、「変化の達成」、「極限状態」の5つに分類している。

杉村(2008)の分類(杉村 2008: p.78を参考にまとめ ※下線は作成者による)

[A]本動詞「切る」の持つ切断の意味が生きているもの

①切断: 食い切る、叩き切るなど

②終結: 打ち切る、振り切るなど

[B]切断の意味があまり感じられず、接辞化したもの

③行為の完遂: 走り切る、食べ切るなど

④変化の達成: 信じ切る、治り切るなど

⑤極限状態: 疲れ切る、冷え切るなど

杉村(2008)は複合動詞「～切る」の従来の研究について、「終結」の意味を表す「思い切る」と「完遂」を表す「走り切る」の区別が明確ではないと指摘している。しかし、杉村(2008)は自ら指摘したこの問題点について、「突っ切る」、「振り切る」、「思い切る」などは前項動詞の意味を知っているだけでは全体の意味を把握しにくいと述べるに止まり、「終結」と「完遂」の意味の違い、そして繋がりについては論じていない。また、のちほど5.1節の「～切る」の意味分析に詳しく検討する問題点だが、③の「行為の完遂」、④の「変化の達成」、そして⑤の「極限状態」の説明に問題がある。たとえば、「走り切る」は目的語と共起し、「～切る」をつけなくても、行為の完遂を表す。また、「治り切る」も「～切る」をつけない「治る」だけで「変化の達成」を表す。そのため、これらの動詞は、「～切る」をつけることによって、どのような意味が付け加えられたのかについては、更に検討する必要がある。

8.その他：李(1997)、グループ・ジャマシイ(1998)、田中(2004)、大友(2005)

そのほかの先行研究ではそれぞれ異なる視点から複合動詞「～切る」を考察している。

李(1997)は、本動詞「切る」と前項動詞「切る」、後項動詞「～切る」とを関連づけ、複合動詞「切る」の意味と用法を研究している。「前項動詞+切る」の分類基準は特徴的であり、「前項動詞+切る」という複合動詞を含む文から「切る」という形態のみを除去し、その後でできた文が非文になるか否かを基準にし、分解可能である場合は統語的複合動詞とし、分解不可能である場合は語彙的複合動詞としている。

グループ・ジャマシイ(1998)は、「～切る」が付くことにより生じる意味を「切断」、「完了」、「十分」、「きれない」のように4分類し、説明している。4分類の中に「きれない」を単独で1つの項目として立て、ほかの意味と並列に扱うのが特徴的である。

田中(2004)は「終了」を表す「～おわる／おえる」、「～きる」、「～あげる」の3つの後項動詞を比較し、「～あげる」は「前項動詞の動作が完了した時、その動作の結果として、目に見える形で何かが残っていることを表す」のに対して、「～切る」は「前項動詞の動作が完了した時、その動作の対象であった物は何も残っていないことを表す。」(p.77)と述べている。

大友(2005)は、事象を表す要素と共起する英語の‘cut’と日本語の複合動詞「～切る」のアスペクトの類似点と相違点について考察している。大友(2005)によると、‘cut’と「切る」は事象を表す要素と共起し、動詞句全体でその事象の遂行を表す働きがあるという点で共通している。しかし、「‘cut’+事象名詞句」は継続性を表す副詞句と共起できないため、アスペクトに関する特徴としては一時性(temporality)が見られると指摘している。

2.1.2.2 「～抜く」の先行研究

1. 柴田(1976)

柴田(1976)は、「引き抜く」のような「～抜く」の意味を基本的な意味とし、そこから「完全分離」の意味が生まれると述べている。そして、「完全分離」の意味から「やりぬく」のような、ある限界を超えて、更に少しでもその限界から離れていくという意味に変容すると説明している。柴田(1976)が説明している「～抜く」の各意味を次のようにまとめる。

(柴田 1976: pp.153-155 を参考にまとめ)

- ①「机の引き出しをヌク」のように、ヌクに完全分離の意味が含意されている。
- ②「朝食をヌク」や「塩漬の魚の塩をヌク」のように、ヌクに緊密な構成体の一部を欠くことを指すことができる。
- ③「競争相手をヌク」や「難しい仕事をやりヌク」のように、普通ならば通り過ぎることの難しいある限界を超えて、更に少しでも離れていくことを意味している。
- ④「風呂の湯をヌク」や「釘を踏みヌク」のような多少派生的な用法が生まれる。

柴田(1976)は「完全分離」という点に着目し、本動詞の「抜く」及び複合動詞の「～抜く」の各意味の関連性を説明している。柴田(1976)の研究では、次のような問題点が見られる。まず、姫野(1999)でも指摘されているが、「～抜く」の基本的な意味は上記の①のような「拔出」だけではなく、「射抜く」のような「貫通」を表すものもある。しかし、柴田(1976)では「貫通」の意味の位置づけについて言及していない。次に、柴田(1976)は上記の④で挙げている「風呂の湯をヌク」や「釘を踏みヌク」のような用法はなぜ派生的な用法なのか、どのように派生したのかについて論じていない。最後に、柴田(1976)はある限界を超えて、さらに少しでも離れていくという意味から「守り抜く」のような意味と結びつくと説明しているが、何の限界を越えるか、そして「～抜く」に含まれている時間のプロセスの意味にどうやって一貫した説明を加えるかについても議論が不十分である。

2. 森田(1989)

森田(1989)は、複合動詞「～抜く」の意味を本動詞「抜く」の意味と関連づけ、考察している。複合動詞「～抜く」の意味をいくつかの段階に分け、次のような順番で挙げている。

(森田 1989: pp.901-902 を参考にまとめ ※下線は作成者による)

- ①<抜き取る>うろ抜く(=おろ抜く)、引き抜く、ひっこ抜く
 <除き去る>切り抜く、くり抜く、染め抜く
 <選び出す>えり抜く、より抜く、書き抜く、すっぱ抜く
 <貫く>打ち抜く、突き抜く、踏み抜く
 <越えて前へ出る>追い抜く、出し抜く

- ②「勝ち抜く」のように、動作性の動詞に付いて“その動作を最後まで完全に行う”意を添え

- ③さらに状態性の動詞に付いて、「困り抜く」のような“非常に……する”強調意識へと高まる。

森田(1989)は、上記の①で挙げている「～抜く」の基本的な意味と思われるものはどのように②の「動作の完了」を表すようになり、更に、③の「極度の意味」を表すようになったのかについて説明していない。そして、③で述べている「非常に…する」の意味にどのような特徴があるのかについても説明されていないため、「困り切る」との違いは明らかではない。

3. 姫野(1999)

姫野(1999)は、本動詞「抜く」の基本的な意味は「貫通」だと述べ、本動詞「抜く」の意味に応じて、複合動詞「～抜く」の基本的な意味を次の4つに分類し、提示している。

- [貫通]: 射抜く　うがちぬく　突きぬく　踏みぬく　打ちぬく　ぶちぬく
 ぶんぬく　ぶっこぬく／見ぬく
- [抜出]: くりぬく　挟りぬく　彫りぬく　染めぬく　引きぬく　引っこぬく
 切りぬく

[選抜]: えりぬく よりぬく 書きぬく 選びぬく

[抜駆]: 追いぬく 出しぬく 駆けぬく

(pp.185-186)

そして、姫野(1999)は文法化を起こした「～抜く」の意味は「貫徹」と「極度」の2種類に分け、次のような意味特徴があると指摘している。

(姫野 1999: pp.186-189 を参考にまとめ ※下線は作成者による)

- ①「貫徹」を意味する「～ぬく」には意志を「つらぬく」という意味が含まれており、行為がある期間にわたることを前提とするのは「～ぬく」の特徴である。
- ②「ぬく」のつく前項動詞は、人の意志的行為を表すものである。単純な動作などにはつかない。ある目的をもって貫徹することに意味のあるような行為に限られる。
- ③「極度」を表す「～ぬく」は「非常に、とことんまで」という強い程度を表す。前項動詞は人の精神状態に関するもので、マイナス評価を表す語が多い。「～ぬく」は状態を表すのであるから、無意志動詞となる。

上記のように、「貫徹」の分類に「信じ抜く」と「走り抜く」を挙げられている。「信じ抜く」は「信じ抜いていく」のように、「完了」というより「継続」の意味が考えられる。それに対して、「走り抜く」は「100km を走り抜く」のように、100km を走り終わった時点が動作の完了時点となる。そのため、同じ「貫徹」の意味に分類されているものが意味の違いが見られるのはなぜなのかが問題となる。

2.1.2.3 「～通す」の先行研究

1. 森田(1989)

森田(1989)は、「～通す」を「～抜く」と比較し、「最後まで…する」という意味が同様だと述べ、異なる点について次のように説明している。

「ぬく」が行為・状態の程度が極大限界に到達しているさまを表すのに対し、「とおす」は、時間的に最終段階に至るまで同じ状態を続けることを表す。

(p.902)

森田(1989)の説明では、前項動詞は程度を表す「困る」のように、「～抜く」と結合することによって、状態の程度が極大限界に到達している。それに対して、「～通す」は同じ状態を続けることに焦点が当たっているため、「困る」のような前項動詞と結合することができないという言語現象の説明になる。しかし、「100kmを走り抜く」と「100kmを走り通す」のように、客観的な事実として、両方とも100kmを走ることを表す。そのため、「完了」の意味について、「～抜く」と「～通す」はそれぞれどこに焦点が当たっているのかが明らかではない。

2. 姫野(1999)

姫野(1999)は、「～通す」の意味を2種類に分けている。1つは、「刺し通す」や「突き通す」のような本動詞「貫通」の意味を表し、前項動詞は手段を表すものである。もう1つは、「走り通す」や「隠し通す」のような文法化を起し、「一貫継続」を表すものである。

「一貫継続」を表す「～通す」の意味特徴は、「～抜く」との比較を通して説明されている。「生き通す」のような継続行為を表すもの、そして、「かよい通す」のような繰り返し行為を表すものは、行為者の強い意志を表す文脈では「～抜く」と言い換えられると述べられている。しかし、「ブーツをひと冬はき通した」のような単に最後まで続けていたという意味のみ強調される場合、「～抜く」が表すニュアンスにそぐわないと指摘されている。更に、「～通す」は、「震える」のような非対格自動詞とも共起できるため、「～抜く」より意志性が弱いと説明されている。

このように、姫野(1999)は「～通す」と「～抜く」の相違点について「抵抗性」と「意志性」を挙げ、一部の言語現象を合理的に説明している。しかし、森田(1989)が言及している行為・状態の程度の問題があるように、姫野(1999)は「～通す」と「～抜く」の相違点を全て記述しているとは言えない。そして、姫野(1999)は「～通す」と「～抜く」の相違点の指摘だけに止まり、どうして「抵抗性」と「意志性」に違いが見られるのかについては触れていないため、「～通す」と「～抜く」の意味分析や意味比較についてまだ検討の余地がある。

2.2 問題提起と研究方法

本項は、上記 2.1 節の先行研究を踏まえ、現代日本語のAspectについて下記の 3 つの問題点を提起する。第 1 に、(35)が示すように、日本語には、動詞と動詞を結合する場合、「走ってしまう」のようなテ型で接続するものと、「走り切る」のような動詞の連用形に続くものがある。寺村(1984)は前者を二次的Aspectとし、後者を三次的Aspectとしている。しかし、一定の距離を走るという「完遂」の意味において、両者は(35a)の一次的Aspect形式の「る」形と変わらない。では、(35b)と(35c)は(35a)と比べ、それぞれ、どのような「完了」の意味を表すのかが問題提起となる。

そして、寺村(1984)は形態論の観点から、「る」形の一次的Aspect、テ形の二次的Aspect、連用形の三次的Aspectを分けているが、この 3 分類は意味の観点から見ると、それぞれどのような意味特徴を持っているのか、すなわち、日本語には一次的、二次的、三次的Aspectのような分類にはどのような意義があるのかが第 2 の疑問である。

(35)a. スキー大会をめざし、酷寒の中、毎日毎日、6km のコースを走った。

『防衛白書::昭和 54 年版』(BCCWJ)¹⁸

b. バタヴィアはこれをやすやすと駆けて、真っ先にゴールにはいり、さらに余力で二周も走ってしまった。

『文久元年の万馬券::日本競馬事始め』(BCCWJ)

c. そしていま目の前に広がる四二・一九五キロという道を、自分の足で走りきることができる。

『わたしたちの革命::be proud of yourself』(BCCWJ)

第 3 に、(36)が示すように、(36b)の「作っておく」と(36c)「作ってある」は(36a)の「作った」と同様に、「作る」動作の「完了」を含意している。しかし、(36b)と(36c)は積極的に「完了」の意味を表さず、「準備」といったムード的な意味¹⁹が発達している。では、なぜ二次的Aspect形式にムード的な意味が発達しているのか、ムード的

¹⁸ 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』Web アプリケーション中納言 1.1.0 を利用し、抽出したデータである。本論文では「BCCWJ」と略し、引用している「BCCWJ」の例文中の下線は全て引用者によるのである。

¹⁹ 一般的に、ムードとは「事態の捉え方、文の述べ方を表すモダリティが述語の位置に現れる語類(いわゆる「用言」)の形態に体系的に顕現したものであり、語論における形態的なカテゴリーである。」(益岡 2007 : p.1)。本研究で言うムード的な意味は、テンスやAspectとは異なり、高橋他(1969)が述べている「もくろみ」を指す。高橋他(1969)が述べている「もくろみ」とは、「動詞のあらゆる動作がなんのためにおこなわれるかをあらわす文法的な意味」(p.141)である。

な意味とアスペクトの意味とどのような関係があるのかが問題点である。

(36)a. 栄はミギちゃんのために弁当を作った。

『文人暴食』(BCCWJ)

b. つけ合わせに使うものなども常に作っておいていつでも使えるようにしておかなくてはならないが、それも出盛りの安いときに作っておく。

『和食の力』(BCCWJ)

c. 味は美味しいが、大量に作ってあるシチューを見て、今週の献立が一目で分かるのが何とも哀しいところ(涙)。

『実録鬼嫁日記::仕打ちに耐える夫の悲鳴』(BCCWJ)

一方、(37)と(38)が示すように²⁰、日本語は二次的アスペクト((37a)²¹)と三次的アスペクト((38a))の区別があるのに対して、対応している(37b)と(38b)の中国語は両者とも日本語の前項動詞のみ訳されている。つまり、中国語は日本語の一次的、二次的、三次的アスペクトの分類を区別していないことになる。では、日本語の二次的アスペクトの「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」、そして三次的アスペクトの「~切る」、「~抜く」、「~通す」はそれぞれ中国語とどのように対応しているのか、日本語のアスペクトと中国語のアスペクトはどのような相違点と共通点を持っているのかも本研究の疑問点として提起する。

(37)a. 警告しておくけど、今私の中にはね、一ヵ月ぶんくらいの何やかやが絡みあって貯ってもやもやしてるのよ。

b. 我 警告 你, 我心里现在

私 警告 あなた 今私の中にはね、

乱糟糟的, 乱得很, 足足一个月攒下的东西全都憋在里边。

一ヵ月ぶんくらいの何やかやが絡みあって貯ってもやもやしてるのよ。

『ノルウェイの森』(CJCS)

²⁰例文(37)と(38)は『中日対訳コーパス』(第一版)から抽出したものである。『中日対訳コーパス』(第一版)に収録されているデータについてだが、文学作品は中国語原文のものは23篇、日本語原文のものは22篇とその訳本を合わせて105篇(ほぼ1130.3万字)である。また、文学作品以外は中国語原文のものと日本語原文のものはそれぞれ14篇あり、日中共同のものが2篇とその訳本を合わせて全部で45篇(ほぼ574.6万字)である。本研究は『中日対訳コーパス』(第一版)にある日本語が原文のもののみを調査の対象とする。

²¹a が原文、b が対応している中国語の訳文である。そして、本研究で使用している『中日対訳コーパス』(第一版)の例文の下線はすべて本論文の筆者によるものである。

(38)a. うまく始められた死は、大学の建物の地下でアルコール漬けになったまま何年も
耐えぬき、解剖を待っている。

b. 而开端很好的死就在大学的建筑物的地下浸泡在酒精的溶液里

うまく始められた死は、大学の建物の地下でアルコール漬けになったまま

常年 忍受 和 等待着解剖。

何年も 耐える と 解剖を待っている

『死者の奢り』(CJCS)

上述の問題点、そして、第1章で述べている研究目的から、本研究は、研究対象となる形式が表す「完了」の意味特徴に注目し、意味分析と意味比較を行う。意味分析に関しては、実際の使用例に基づくアプローチを取り、大規模コーパスを用いて意味を記述する。記述にあたっては、認知言語学的な観点から意味と意味の間のリンクを考察し、実質的な意味を表す動詞の用法から「完了」の意味に至るまでの文法化プロセスを考察する。また、利用するコーパスについては、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を中心に用例を収集するが、用例数の少ない分析対象に関しては、『中日対訳コーパス』(第一版)(本論文では「CJCS」と略する)²²の日本語原文の作品、『青空文庫』、『新潮文庫』及び『朝日新聞』朝刊オンラインデータのデータも利用する。そして、第5章の日中対照についても実際の使用例に基づくアプローチを取るため、第一版の『中日対訳コーパス』を利用し、対訳を収集した上で対照を行う。

²²第5章の日中対照は『中日対訳コーパス』のみを利用し、対訳例を収集するため、第5章の対訳例の「CJCS」表記を省略する。

第3章 ズームアウトし、全体に焦点を当てる「完了」

寺村(1984)は現代日本語のアスペクトを「する」と「した」の対立を成す一次的アスペクト、テ形に接続する補助動詞の二次的アスペクト、そして、動詞連用形+動詞の三次的アスペクトに分けている。寺村(1984)は一次的、二次的、三次的アスペクト形式について、次のように述べている。

アスペクトの一次的形式は、明らかに文法的形式であるが、二次的、三次的形式は、元来が動詞として使われたものが、本来の語彙的意味や文法的特徴を失なうか、あるいは薄めるかして、文法形式化したものである。そのうち二次的形式、すなわち動詞のテ形に後接するイル、アルなどは数の限られた closed class であるが、三次的形式は、結びつく本動詞の種類が相当な数になるものから、極めて限られたものにしか付かないものまで、文法形式化の度合いに大きな開きがあり、種類や数の限定もむつかしい。形式化の低いものは、つまり語彙の海にそのままつながっていくわけである。(p.118)

本研究では、第1章の(3)で挙げているように、寺村(1984)が挙げている一次的、二次的アスペクトをA類「ズームアウトし、全体に焦点を当てる完了形式」、三次的アスペクトをB類「ズームインし、最終部分の境界線に焦点を当てる完了形式」として捉え直し、まず第3章でA類を検討していき、次に第4章でB類を検討する。

(3)A.ズームアウトし、全体に焦点を当てる「完了」:

- ①ズームアウトし、全体を捉える一次的アスペクト形式:「する」
- ②ズームアウトし、全体を捉え、更に隣接する時空間も視野に入れる二次的アスペクト形式:「ている」(「結果状態」の用法)、「-ておく」、「-てしまう」、「-てある」

B.ズームインし、最終部分の境界線に焦点を当てる「完了」:

- ③三次的アスペクト形式:「～切る」、「～抜く」、「～通す」

(再掲)

第3章は3節に分ける。まず、3.1節で「-ている」をめぐる論争を概観した上で、「-ている」を一次的アスペクト形式と二次的アスペクト形式の接点として述べる。「走る」のような動作動詞の場合は、一次的アスペクトの「走る」はひとまとまり性を持ち、全体の部分を表す進行形の「走っている」と対立している。一方、「死ぬ」のような変化

動詞の場合は、「動作・変化の完了をベースにした結果状態」という意味で、「-ている」は二次的アスペクト形式の「-てある」と対立している。

次に、3.2 節で「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」の意味分析と意味比較を行う。「-ておく」は従来、アスペクト形式であるかどうか、そして、「持続」の意味と「準備」のムード的な意味はどちらがより基本的なのかをめぐって論争が続いてきた。本研究は「場を占める」という意味を中心に、「-ておく」のすべての用法を統一的に説明し、区切られた時空間を占めるという事態把握において、従来言われている「持続」と「準備」の対立は、1つの事態把握の2つの側面であることを明らかにした。それを踏まえ、隣接する時空間を視野に入れるという二次的アスペクト形式の特徴を検討し、「-てある」と「-ておく」の意味比較を行う。一次的アスペクトの「る」形が表す「完了」は出来事全体に焦点を当て、ひとまとまり性という特徴を持つものに対して、二次的アスペクト形式が表す「完了」は出来事全体をまるごと捉え、更に隣接する時空間を視野に入れるという特徴が見られる。同じ「完了」の意味をベースとして含意されていても、動詞本来の意味による文法化が故に、隣接する時空間の異なる部分に焦点が当てられ、「完了」以外に様々な意味が生じている。一方、二次的アスペクト形式の中で「完了」を意味すると言われている「-てしまう」の位置づけも問題となるため、「-てしまう」が表す「完了」の意味も検討する。「-てしまう」は隣接する時空間を視野に入れ、事態の「実現」を表すという意味特徴を持つため、「る」形が表す「完了」と異なり、そして二次的アスペクト形式の「-てある」や「-ておく」との統一性が見られる。

最後に、3.3 節で第3章の内容をまとめる。

3.1 「-ている」－ 一次的アスペクトと二次的アスペクトの接点

3.1.1 「完成相」と「継続相」の対立－日本語のアスペクトをめぐる論争

3.1.1.1 「完成相」－ひとまとまり性を表す「る」形

アスペクトは元々ロシア語を含むスラブ諸語にある概念であり、一つの動詞は「完了体」と「不完了体」のペアとなる形態的な対立を持ち、テンスとは別に形態論的なカテゴリーの1つを成す。しかし、日本語はスラブ諸語と同様な形態論的なアスペクトのカテゴリーを持たない。そのため、スラブ諸語にある、一般化されたアスペクトの概念に基づき、日本語ではアスペクトがどのように言語化されているかをめぐって議論されている。

寺村(1984)は「する」と「した」の対立がアスペクトの対立を成し、それぞれ、「す

る」は「未完了」、「した」は「完了」を表すことを²³、次のようにまとめている。

既然・未然は、ある幅をもつ事態を背景として、あることの実現を問題にするのであって、点としての事態の前後関係を問題にするテンスとは異質のものである。時間に関わる陳述において、テンスは不可欠のものであるが、アスペクトはそうではない。一方、テンスに関係のない(無時間的)陳述においても、アスペクトの別はありうる。(p.120)

しかし、「する」と「した」の対立について、須田(2007)は現代日本語において、「する」も「した」も「完了」を表す形式であると述べ、次のように批判している。

一回的な動作に関しては、たとえば、「到着した」の表す完了に対して、「到着する」は、未来のある時点において実現する動作を表していて、未完了というより、未来における完了を表すと言える。…(略)…スルが現在において進行する動作を表すならば、現在において完了していない過程として、それを未完了と呼ぶこともできるのだが、現代語では、シテイルの存在により、スルは、特殊な例以外に、そのような現在の動作を表すことができなくなっている。したがって、シタと比べて完了性が弱いとしても、シテイルとの対比においては、完了を表すものとしてシタとスルをまとめることができるだろう。(p.17)

また、「した」が表す「完了」について、工藤(1995)はそれが単純な「完了」ではなく、アスペクトとテンスの複合体を表す「現在パーフェクト」であると主張し、次のように説明している。

シタ形式は、シテイル形式と同様に、＜パーフェクト性＞(正確には、後述するように、＜現在パーフェクト＞)を表す。この用法は、従来「完了」と言われることが多かったものである。しかしながら、完了という用語は、正確な規定をしないままあまりに曖昧に使われてきているばかりでなく、「過去」という用語と対をなして、アスペクト的把握とテンス的把握との相互排除性(切断性)を、根底において認めている。だが、後述するところであるが、こ

²³寺村(1984)の用語は「する」は「未然」であり、「した」は「既然」である。本研究は用語を統一するため、「未然」を「未完了」、「既然」を「完了」で表す。

の意味の本質は、「現在時に結果・効力が存続する、過去の運動」という、アスペクト的であると同時にテンス的な把握の〈複合性〉にあると思われるのである。(p.40)

つまり、スラブ諸語にある、一般化されたアスペクトの概念「アスペクトとは、基本的に、完成相と継続相の対立によって示される、〈出来事の時間的展開性(内的時間)の把握の仕方の相違〉を表す文法的カテゴリーである。」(工藤 1995: p.8)に基づき、日本語のアスペクトを考えると、寺村(1984)が提起している「する」と「した」の対立に「継続相」が欠けることになり、「する」と「した」の対立を日本語のアスペクトの対立として扱うのは問題がある。

一方、寺村(1984)の観点と異なり、日本語のアスペクトの対立について、工藤(1995)を代表とするもう1つの観点がある。すなわち、「完成相」を表す「する」と「継続相」を表す「-ている」の対立である。鈴木(1957)をはじめ、奥田(1978)、工藤(1995)などは「る」形の「ひとまとまり性」を根拠に、「る」形は「完成相」を表すと主張している。「る」形が表す「ひとまとまり性」の意味について、奥田(1978)は次のように述べている。

suru というアスペクチュアルなかたちが表現するアスペクチュアルな意味は、基本的には、《分割をゆるさない globality のなかに動作をさしだす》ことである。このように理解しなければならない根拠は、なによりもまず、suru という完成相の動詞は、その現在形において、《アクチュアルな現在》をあらわすことができないという事実にある。…(略)…動作のテンスとしての《アスペクチュアルな現在》は、はなしのモメントに進行する動作をさししめすわけだが、完成相の動詞は過程を表現する能力がかけているので、このような動作をさししめすことができない。(pp. 100-101)

このように、「完成相」と「継続相」の対立を成すアスペクトの対立においては、「する」は「未完了」ではなく、奥田(1978)などが主張している「ひとまとまり性」を持つ「完成相」に相当するものとして捉えるほうがより説得力があり、本研究はこの立場に従う。一方、先行研究では、「する」に対立するものは「した」と「-ている」に分かれているものの、「する」は日本語のアスペクトの片方を担っているという点について、意見が一致している。そのため、本研究は、「する」を「ひとまとまり性」を持ち、全体を捉える一次的アスペクト形式と考える。

3.1.1.2 「継続相」－「-ている」をめぐる論争

「-ている」は日本語研究史上での大きな論争点の1つであり、様々な視点から研究がなされている。金田一(1950)は日本語の動詞は「-ている」と結びつくと、どういう意味を表すかによって、(39)の動詞4分類を提示している。

(39)a.状態動詞(e.g. ある、いる)

b.継続動詞(e.g. 読む、泣く)

c.瞬間動詞(e.g. 死ぬ、消える)

d.第4種動詞(e.g. そびえる、すぐれる)

(39a)の状態動詞は「-ている」を用いることができないのに対して、(39d)の第4種の動詞は常に「-ている」がついている形で使用される。そして、「-ている」と結びつくことで、(39b)の継続動詞は「動作の継続」を表し、(39c)の瞬間動詞は「結果状態」を表す。そこで、大きな論争点となったのは、「-ている」が表す「動作の継続」と「結果状態」の2つの意味がどのように統一的に捉えられるかである。

寺村(1984)は「-ている」をテ形で接続する補助動詞の二次的アスペクト形式とし、存在・所有を意味する本動詞「いる」の基本的な意味から「-ている」が表す「動作の継続」と「結果状態」の2つの意味を「既然の結果の存在」という意味に統一し、両者の共通点を次のように説明している。

～テイルという形は、現在五官で(典型的には視覚で)捉えた事態を、現在より以前のいつかに実現したと結びつけて理解するところから生まれる表現の形である。その「実現」を、線(幅のある事象)の始めの点と見、それが現在につながり、つづいていると見るか、現在とは切りはなされた点と見、現在の何らかの状態をその点と結びつけて考えるか…(略)…(pp.127-128)

一方、寺村(1984)と異なり、奥田(1978)は「-ている」を完成相を表す「する」と対立させ、「動作の継続」と「結果状態」の2つの意味を「継続」という意味に統一し、次のように述べている。

あるばあいには《動作の継続》であり、あるばあいには《結果の継続》であって、《継続》ということではひとつである。したがって、この site-iru というアスペクトのかたちを《継続相》と名づけて、これらのアスペクチュアル

な意味を、ひとつのかたちもっている、意味上の、ふたつのヴァリエントだとみなすことができる。(p.110)

このように、「-ている」の本質について、「既然の結果の存在」を主張する寺村(1984)と「動作・結果の継続」を主張する奥田(1978)とでは一見、見方が異なっているように思える。しかし、両者の説明は矛盾することなく、統一性がある。「走っている」のように、奥田(1978)が述べている「動作の継続」と寺村(1984)が述べている「線(幅のある事象)の始めの点と見、それが現在につながり、つづいて見ると見る」(p.128)は両者とも「走る」動作の進行として理解できる。そして、「死んでいる」のように、奥田(1978)が述べている「結果の継続」と寺村(1984)が述べている「現在より以前のいつかに実現したと結びつけて理解する」(p.127)は両者とも「死ぬ」変化が完了(「実現」)した後の状態の継続として理解できる。

しかし、「-ている」が表す「結果状態」の意味を「動作の継続」と同様に「継続相」として扱うという奥田(1978)の主張には問題が見られる。「継続相」は「非完結相」の1つであり、認知言語学的な観点から見ると、「開始点と終止点によって境界づけられた完結的事態にズーム・インし、内側から見ることによって、その開始点と終止点が視野から消え、事態を非完結的に捉える」(野村 2007: p.8)ということである。しかし、「結果状態」は「内側からの視点をとることは不可能となり、そのため変化の後の局面に焦点をあてた結果状態の意味しかとれない。」(p.83)と白井(2004)は説明している。従って、「-ている」が表す「結果状態」の意味は内側から見た視点という「非完結相」の特徴を備えていないことが分かる。また、白井(2004)が指摘している「変化の後の局面」は内側からの視点をとることは不可能ということを前提とすれば、1つの変化イベントの最終段階として考えられない。従って、「結果状態」を表す「-ている」を「継続相」として「完結相」を表す「する」に対立させるのはまだ検討の余地があると考え²⁴。

以上を踏まえ、本研究は、「結果状態」を表す「-ている」を「現在より以前のいつかに実現したと結びつけて理解する」(p.127)という寺村(1984)の主張に従う。すなわち、「結果状態」を表す「-ている」を一次的アスペクトの「する」と同列に扱うことなく、テ形で接続する補助動詞の二次的アスペクト形式とし、ズームアウトし、全体を捉え、「完了」をベースにした結果状態を表すものとする。

²⁴本研究は「-ている」を研究対象として扱わないため、「-ている」が表す「動作の継続」と「結果状態」を「継続相」に統一することが妥当かどうかについては、これ以上深入りをしない。

3.1.2 完了をベースにした結果状態 - 「-ている」と「-てある」²⁵

「結果状態」を表す「-ている」を一次的アスペクトの「する」と同列に扱うのではなく、テ形で接続する補助動詞の二次的アスペクト形式として扱うもう1つの理由は、「-ている」は「完了」をベースにした結果状態を表す二次的アスペクト形式「-てある」との相補的關係が見られるためである。

「-ている」と「-てある」の相補的關係について、金水(2000)はこのように述べている。

シテイルの<結果>は主体変化動詞において発現するのであったが、シテアルの場合は、主体動作・客体変化動詞において現れる。その点で、シテイルと相補的であると言える。…略…シテアルは客体中心のアスペクトであり、シテイルと一体となって体系をなしていると見るべきである(pp.44-45)

また、益岡(2000)は「-ている」と「-てある」の意味が似ていることや互いに入れ替え可能であることなどを根拠に、「-ている」を「第一継続相」と呼び、「-てある」をそれと並ぶ形態論的な形と位置づけ、「第二継続相」と呼ぶ。このように、「-ている」と「-てある」は「結果状態」を表すという点では共通しており、寺村(1984)は「-ている」と「-てある」のこの共通の意味を「過去に実現したことの結果として現在の状態を述べる」(p.147)とまとめている。そして、「-ている」が表す結果状態の意味について、寺村(1984)は「金魚が死んでいる」、「財布が落ちている」、「家が倒れている」を例にし、次のように説明している²⁶。

話し手は(ふつう)金魚の死ぬところを見たわけではない。眼前にあるのは、金魚鉢中で、動かずに浮かんでいる、そういう状態があるだけである。…略…人はそれら眼前の現象を、ある過去に起こった事象(死ンダ、落ちタ、倒レタ)の痕跡と解釈し、それを上のように表現するわけである。…略…いわゆる結果の状態(つまり事象の完了の結果の存在)の場合は、眼前の状態を、ある過去の事件の結果の痕跡であると解釈する思考が介在している。

(pp.135-136)

また、益岡(2000)で「第二継続相」と呼ばれている「-てある」が表す「結果状態」

²⁵ 「-てある」と「-ている」の「結果状態」についての実例は付録の[96]～[100]を参照。

²⁶ 下線の「痕跡」と「解釈する」は寺村(1984)の原文では下線ではなく、下の傍点である。

について、益岡(1987)で行われている「-てある」の意味分析を通してその意味特徴が伺える。益岡(1987)は「-てある」を広義の存在表現の一種のA型と抽象化が進んでいるB型の2種類に分けている。A型の意味特徴を「意志的行為の結果生じる、対象の存在その他の状態が、視覚でとらえられる形で存続している」(p.224)と説明している。そして、B型の意味特徴を「行為の結果もたらされる事態の、基準時における存続性や有効性」(p.229)と説明している。つまり、「-てある」は「-ている」と同様に、事態の「完了」をベースにした「結果状態」を表している。

上記の3.1.1.2節ですでに挙げているように、「動作の継続」は「開始点と終止点によって境界づけられた完結的事態にズーム・インし、内側から見ることによって、その開始点と終止点が視野から消え、事態を非完結的に捉える」(野村 2007: p.8)という特徴を持つため、1つの事象の内部に入り込み、事態を把握するものである。しかし、「結果状態」を表す「-ている」と「-てある」は、過去の出来事の「完了」をベースにするため、過去の出来事を完結的に捉え、現在との繋がりを視野に入れるアスペクト形式という点において、「動作の継続」と異なる。従って、「-ている」は「動作の継続」を表す場合、ひとまとまり性を持つ「する」と対立しているが、「結果状態」を表す場合、客体変化の「結果状態」を表す「-てある」と対立し、二次的アスペクト形式の特徴を持つと考える。

3.2 二次的アスペクトが表す「完了」- 隣接する時空間を視野に入れる

「-ている」と「-てある」が表す「結果状態」の意味は単なる、眼前にある結果の描写ではなく、過去に完了した出来事をベースにするため、「完了」の視点から見ると、過去の出来事を完結的に捉え、更に現在との繋がりを視野に入れる特徴が見られる。この点がひとまとまり性を持ち、出来事全体をまるごと捉える「完了」の一次的アスペクト形式「する」と異なる。

一方、客体変化の結果状態を表す「-てある」は、主体の処置の結果であるため、動作の意図性からムード的な意味「準備」とよく結びつけられている。たとえば、金水(2000)は「-てある」の「準備」の意味について次のように述べている。

描かれる出来事は設定時における視点者の意志的行為であり、その行為は設定時以降に起こる事態を予期し、それによりよく対処するためのものであった、ということを表すのである。(p.47)

そして、「意図性」や「準備」の意味において、「-てある」は「-ておく」との類似性

が見られるため、高橋(1969)、吉川(1973)、益岡(1987)、金水(2000)などの先行研究では両者の意味がよく比較されている。たとえば、金水(2000)は「シテオクは、シテアルとかなり並行した性質を持っており、意味的にも深く連関している…略…意志的な行為を表すすべての動詞に付き、〈準備〉の意味を表す。」(p.69)と述べている。つまり、これらの先行研究では、「-てある」も「-ておく」も「準備」などの意味を認めながら、アスペクト形式として扱っている。しかし、寺村(1984)は「-てある」を二次的アスペクト形式に分類しているが、「-ておく」をアスペクト形式として扱っていない。つまり、先行研究では「-ておく」をめぐる、意見が分かれている。

そこで、本研究はまず 3.2.1 節で認知言語学的な意味関連の観点から「-ておく」の意味分析を行う。次に、3.2.2 節で「-ておく」は完結した出来事をまるごと捉え、更には後のこととの繋がりを視野に入れるという二次的アスペクト形式の特徴を持つことを考察する。最後に、それを踏まえ、「-てある」との関係性を再検討する。

3.2.1 「-ておく」の意味分析²⁷

動詞テ形に接続する補助動詞の1つ「-ておく」について、(40)のような「持続」を表すアスペクト的な意味と、(41)のような「準備」を表すムード的な意味と、どちらがより基本的なのかをめぐる、様々な議論が行われてきたが、未だに統一した見解は得られていない。

(40)わたしの家では、見かねて、このあいだ、「ごみをすてないでください。」と、立てふだを立てておきました。(六上 51)

(吉川 1973: p.269)

(41)検査前日の7時までに晩ご飯を食べておいてください²⁸。

(由井 1997: p.103、例 28)

本項は、認知言語学的な観点から両者の意味を、「場を占める」という空間概念を表す「置く」²⁹の意味拡張のネットワークに位置づける。これによって、「持続」、「準備」を含め、「-ておく」の様々な意味が「場を占める」という基本的な意味からの拡張によ

²⁷3.2.1 節の中で分析のために使用している用例のほか、付録の実例[1]～[35]も参照。

²⁸(41)の下線は本論文の筆者によるものである。

²⁹『日本国語大辞典』(第二版、第二巻: p.1058)によると、「-ておく」の本動詞「お・く」の漢字表記は【置・措・擱】である。他動詞の場合、「人や物を、ある位置・状態にすえる」を表す。本論文では「置く」という漢字表記を使う。

るネットワークの中に位置づけられることを示す。

3.2.1.1 「-ておく」の意味分析の問題点

「-ておく」の研究に関しては、高橋(1969)、吉川(1973)、笠松(1993)、大場(2005)、谷口(2000)、菊地(2009)などがあり、吉川(1973)を代表とする「持続」の基本義説と笠松(1993)をはじめとする「準備」の基本義説に大別することができる。(40)のような「持続」とされている用法であっても、「～のために」や「あらかじめ」などをつけ、文脈を作れば「準備」の意味として解釈することが可能であるため、「持続」を基本義とした場合、「準備」の意味とどのように統一的に説明するかが大きな問題点となる。そのため、現在、「-ておく」の意味の全体像を解明する研究では、「準備」説³⁰を基本義とする立場を中心に進められている傾向が見られる。しかし、「準備」説を基本義とする場合にも、次の2つの大きな問題点を抱えている。

第1に、ムード的な意味「準備」を基本義と考えると、なぜ「モノを置く」のような「置く」は補助動詞になったとたん、「準備」の意味が中心的な意味になるのかという疑問が生まれる。つまり、ムード的な意味「準備」を基本義とすると、(42)のような、モノが空間的位置を占めるという「置く」の基本義がまだ残っている用例³¹との繋がりの説明が難しい。

(42)こうしてまとめておくと、うるのにもかうのにも、べんりなのです。(二下 81)

(吉川 1973: p.270)

第2に、「終結性」を表すと言われる用法の位置づけの問題である。谷口(2000)は、(43)のような「-ておく」を挙げ、それは「あとのことのための準備というよりも、むしろ、そのこと自体を終結させるというはたらきを持っている」(p.3)と説明し、「-ておく」には一種の終結性を持つような用法があると主張している。

(43)(郵便局の窓口で)

A:これ、速達でおねがいします。

³⁰本研究は、「後の時点での有効な状況を作り出すための行為」(益岡 1992: p.525)のような、「準備」の意味に近い記述も含め、説明の便宜上「準備」という用語を使用する。

³¹(42)の「-ておく」は「準備」の意味として解釈できないことはない。吉川(1973)は「うるのにもかうのにも、べんりなようにあらかじめまとめておく。」と考えれば「準備」ととれる」(p.271)と説明している。しかし、「-ておく」を削除した「まとめる」だけなら、「モノが空間的位置を占める」という意味が消えるため、この意味が「-ておく」によって表されている点が重要である。

B:240 円ですね...

では、こちらで出しておきますから。

(谷口 2000: p.2、例 2)

それに対して、菊地(2009)は「「ておく」に終結感が感じられるという印象は、否定できない面がある。」(p.15)と認めながら、その「終結」の意味を「準備」の周遍的な用法とし、「会話の切り上げ」という談話上の語用論的な効果としてまとめている。しかし、「終結」を表すものを単に「準備」の周遍的な用法とするだけでは、「-ておく」の意味拡張の繋がりが十分に説明されていないことになり、谷口(2000)で議論されている「終結」の意味の位置づけが問題点となる。

3.2.1.2 「場を占める」を中心とする意味のネットワーク

本項は、上記の先行研究を踏まえ、「-ておく」の意味を、本動詞「置く」の「対象物が場を占める」という基本義からの拡張と捉え、対象物や効力が占める場のタイプによって、(44)が示す A から D への意味拡張のネットワークを想定し、検討していく。

(44) 「-ておく」の意味の 4 分類

A:具体的な空間の場を占める

B:時空間の場を占める

C:心理的境界線で閉じた時空間の場を占める

D:経験の場を占める

3.2.1.2.1 A.具体的な空間の場を占める

具体的な空間の場を占める「-ておく」は上記の(42)、そして次の(45)、(46)が示すように、「置く」の基本義が残り、「～をして、置く」として解釈できる。そして、前接動詞を削除した「～を置く」の形でも文が成立し、モノが具体的な空間の場を占めるという意味が「-ておく」によって表されている。(42)の「まとめておく」の「まとめる」や(45)の「ならべておく」の「ならべる」は置き方として捉えられ、(46)は刃を外にして、剣と柄を正座の場に置くことを表す³²。

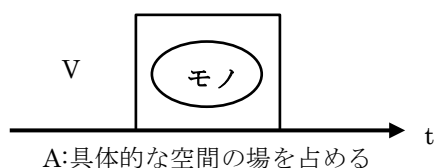
³²(45)と(46)も「準備」の意味として解釈できないことはない。吉川(1973)は(45)は「「ならべておくと、とりだすのにべんりです。」と考えれば「準備」ととれる」(p.271)と説明している。(46)は戦いに向けての準備として解釈することもできる。しかし、(45)と(46)は上記の(42)と同様に、「-ておく」を削除した「ならべる」と「刃を外にする」だけののであれば、「モノが空間的位置を占める」という意味が無くなるため、この意味が「-ておく」によって表されている点が重要である。

(45)そのほかのものは、木のはこに入れて、ならべておきます。(二下 80)

(吉川 1973: p.270)

(46)腰の一剣を抜くとその場に正座した。そして、剣を左に、柄を前に刃を外にして置いた。
『極意::密命・御庭番斬殺 長編時代小説』(BCCWJ)

図 1



このタイプの意味を図で示すと、図 1 のようなイメージを想定する。図 1 は横軸が時間軸を、楕円がモノを表し、長方形が具体的な空間を表す。具体的な空間の場を占める「-ておく」というのは、V が表した動作「~して、置く」

の後、モノが具体的な空間の場をある時間(期間)占めるという意味を表す。たとえば、(45)を図 1 に当てはめて考えると、「そのほかのもの」を並べた後、「そのほかのもの」が木の箱という場所をある時間(期間)占めることを表す。また、(46)は剣の刃を外向きに置いた後、剣というものが地面という具体的な空間の場をある時間(期間)を占めることを表す。

3.2.1.2.2 B.時空間の場を占める

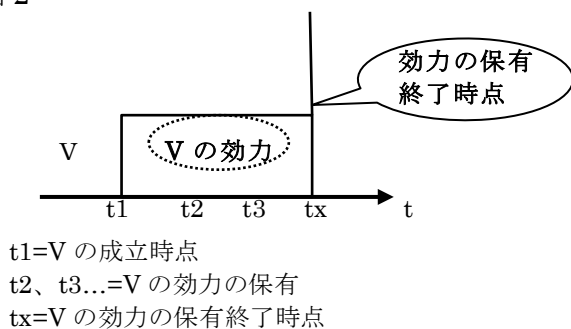
時空間の場を占めるタイプは具体的な空間の場を占めるタイプより文法化が進んでおり、前接動詞を削除した「~を置く」の形では文が成立しない。このタイプの「-ておく」は図 2 が示すように、前接動詞の動作 V をした結果(効力)が何らかの形で長方形が表す時空間に残り、時点 t_x まで効力が保有され、「時空間の場を占める」という意味を表す。このような捉え方が「持続」と「準備」の意味に繋がる。

まず、「持続」の意味について検討する。上記の(40)、そして下記の(47)と(48)は先行研究で述べられている「持続」の用法である。吉川(1973)は(40)の例文を用いて「持続」の意味をこのように説明している。「立てふだを立てておきました。」は「立てふだを立てた」こと、つまり対象の空間的状態の変化を意味すると同時に、その結果として「立てふだが立っている」こと、つまり対象の結果の状態が持続することをも意味するのである。」(p.269)

(40)わたしの家では、見かねて、このあいだ、「ごみをすてないでください。」と、立てふだを立てておきました。(六上 51)

(吉川 1973: p.269)(再掲)

図 2



このような「持続」の意味を図2で考えると、つまり、前接動詞の動作Vの効力が効力の保有終了時点txまで保有され、効力の保有終了時点が状態変化の時点となる。たとえば、(40)を図2に当てはめて考えると、立てふだを立てた状態(時点t1)を持

続させ、その立てふだをしまわない限り(時点t2、t3...)、人に注意する効力を保有する(時点t2、t3...)。そして、その立てふだをしまう時点txが立てふだの位置変化の時点となり、立てふだを立てた効力の保有も同時に終了となる。また、次の(47)と(48)も同様に考えられる。(47)は屋根の箱の中にくみ上げた水を夕方使うまで位置状態をキープすることによって、温度が保たれる効力が保有されている(時点t1、t2、t3...)。そして、(47)は文脈では時間が明示されているが、夕方水を風呂に引き入れる時点(時点tx)が水の位置変化時点であり、温度が保たれた効力の保有終了時点でもある。(48)は雨戸を開けている状態をキープさせ、雨戸を閉めない限り、梅の木の姿と鶯のはっている木の塀が見える効力がずっと保有されている(時点t1、t2、t3...)。そして、効力の保有終了時点、つまり、梅の木の姿と鶯のはっている木の塀が見えなくなる時点txというのは、雨戸の位置変化の時点、雨戸を閉める時点である。

(47)ところが、その家の人の話によると、朝、水を屋根の箱の中へくみ上げておくと、夕方、お風呂の中へその水を引き入れるときには、相当熱くなっているので、ちょっとだけ沸かせばいいということだった。(中一 90)

(吉川 1973: p.274)

(48)視界に入ってくるのは、梅の木の姿と鶯のはっている木の塀だけです。夜でも雨戸を開けておくと、庭園灯に照らされてそれらが見える。

『知的生活・楽しみのヒント』(BCCWJ)

次に、「準備」の意味について検討する。(49)～(51)は先行研究で述べられている「準

備」の用法である。大場(2005)は(49)と(50)を挙げ、「準備」の意味を「行為によって生じる事態を見込んだ上で、その行為を行うことを表す。」(p.19)と説明している。

(49)もうすぐ夫が帰ってくるので、味噌汁を温めておく。

(大場 2005: p.23、例 14)

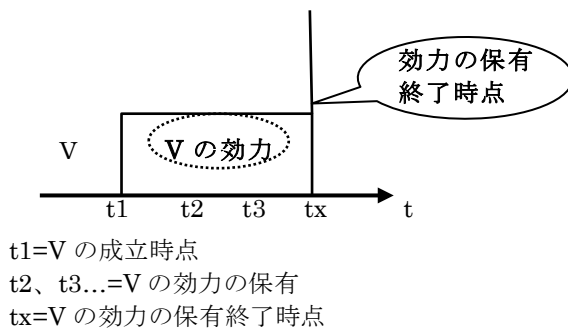
(50)明日はテストがあるから、一応教科書に目を通しておこう。

(大場 2005: p.28、例 33)

(51)東南アジアあたりから安く手に入る網をたくさん買って置いて、破られたらもうそれをどんどんかえていくというような対応をされている方もいらっしゃるようです。

『国会会議録』(BCCWJ)

図 2(再掲)



このような「準備」の意味を図 2 で考えると、つまり、前接動詞の動作 V をした効力が効力の保有終了時点 tx まで保有され、効力の保有終了時点が効力の発揮時点となる。たとえば、(49)を図 2 に当てはめて考えると、(49)は味噌汁を温める動作 V を行った後、その効力、つまり、味噌汁が温まった状態にあることが時空間に保

有される(時点 t1、t2、t3...)。そして、夫が食べる時点 tx が味噌汁の効力の保有終了時点となる。(50)は教科書を復習した効力(時点 t1、t2、t3...)が次の日のテストの時点 tx まで保有されるという意味である。また、(51)は破られた網を換える時点(時点 tx)が買ってからそのままにしていた網に対する処置であり、破られた網を換えるまで、いつでも換えられるという買った網の効力(時点 t1、t2、t3...)がずっと保有されているということである。このように、動作をした効力が効力の保有終了時点まで時空間の場を占めるという事態把握において、「持続」と「準備」を統一的に捉えることができる。しかし、効力保有のあり方について、「持続」と「準備」には異なる振る舞いが見られる。

最後に、効力保有のあり方について、「持続」と「準備」はどのように異なるのかを

論じる。「持続」の効力保有のあり方について、(48)を例にし、考察すると、効力の保有終了時点 tx では、雨戸を閉め、外の風景が見えなくなる。そのため、効力の保有と効力の発揮が同時であり、効力の保有終了時点 tx まで、効力の発揮を伴う保有というあり方である。それに対して、「準備」の効力保有のあり方を(51)を用いて考察すると、破られた網を換える時点 tx までに、買った網の効力が時空間に保有されるため、効力の保有終了時点 tx が効力の発揮時点となる。従って、「準備」は効力の保有終了時点 tx まで、効力の発揮を伴わない保有というあり方である。以上のように、「-ておく」にある「持続」と「準備」の意味は対立するものではなく、1つの事態把握の2つの側面であることが明らかになった。

3.2.1.2.3 C.心理的境界線で閉じた時空間の場を占める

次の(52)～(54)が示すように、「-ておく」には「持続」とも「準備」とも解釈できない意味を表すことがあると言われている。たとえば、菊地(2009)は(52)を「結語」の用法として挙げ、山本(2005)は(53)を「放置」の用法としている。そして、吉川(1973)は(54)を「一時的処置」の用法として挙げている。

(52)授業時間の終わりが近づいて教授者があ、そろそろ時間ですね。では、今日は、
ちょっとキリが悪いけど、12ページの3行目までにしておきましょう。

(菊地 2009: p.13、例 42)³³

(53)糖尿病をそのままにしておくと、大変な事になります！

(山本 2005: p.213、例 21)

(54)鶉飼「……それじゃまァ、あの絵はいただくか、お返しするか、一応預かって
おこう」(白い巨塔 49)

(吉川 1973: p.290)

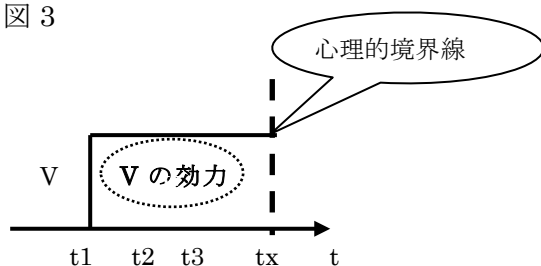
これらの用法は、下記の図 3³⁴が示すように、本研究で B タイプとしている「持続」と「準備」と比較すると、動作をした効力が効力の保有終了時点まで時空間の場を占めると同様に捉えることができる。しかし、B タイプと異なり、これらの用法では、効力の保有終了時点 tx を客観的に判断しにくく、いつか効力の保有終了時点が来るだろう

³³用例(52)の下線は本論文の筆者によるものである。

³⁴図 3 と次の図 4 にある t1,t2,t3,tx の意味は図 2 と同様である。

という心理的に時空間に区切りをつける特徴が見られる。たとえば、(53)は糖尿病をそのままにしておくのが危険なので、いつか治療を受けることを想定する。(54)は「一応」

図 3



C:心理的境界線で閉じた時空間の場を占める

すると明らかだが、両者は授業の内容を終わりにするという意味では同様であり、いわゆる、「結語」の意味である。しかし、前者を使う場合、12 ページの 3 行目までにするだけでなく、後のことを視野に入れ、後のこととの繋がりの可能性を捨てずにいる。たとえば、「そのすぐ後に難しい箇所があるため、その前でとどめるほうがよいと考えて、そうした」(菊地 2009: p.14)の解釈のように、様々な可能性が考えられる。このように、動作をした効力が後のこととの繋がりの可能性を捨てずにいるということは、動作の効力の保有終了時点がいつか来だろうということを意味している。

従って、本研究は心理的に定められる区切りのことを「心理的境界線」と呼び、図 3 では破線で示す。そして、この特徴を有する「-ておく」の意味を心理的境界線で閉じた時空間の場を占める C タイプとする。C タイプは効力の保有終了時点は明確ではない心理的なものであるため、B タイプの「持続」はいつ処置を施すかがわからない「放置」の意味と繋がり、「準備」は目的が曖昧になる「一時的処置」や「結語」などの意味と繋がる。

3.2.1.2.4 D.経験の場を占める

次の(55)～(57)が示す「-ておく」は、谷口(2000)で述べられている「終結」の用法の 1 つ「心理的な充足行為」を表すものである。

(55)元気なうちに、富士山へ登っておきたい。

(谷口 2000: p.4、例 7b)

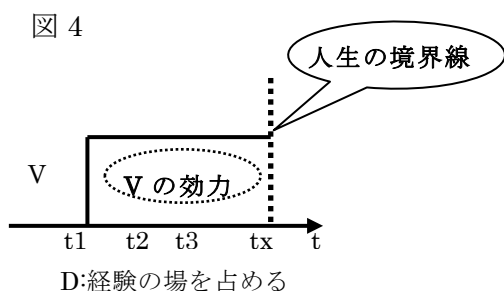
(56)こんなうまい酒はめったに飲めないから、しっかり味わっておこう。

(谷口 2000: p.4、例 8b)

(57)何て言っても今世紀最大の事件だもの、自分の目で見ておいて損はないわよ

『第 11 幕への序曲「浮輪をしたハチ公」』(BCCWJ)

(55)の「富士山へ登ること」や(56)の「酒を味わうこと」や(57)の「事件を見ること」などのように、このタイプは、後のこととの繋がりを視野に入れ、これらの動作をするというより、これらのことを経験として所有することに意義を認めるものである。たとえば、(55)は元気なうちに富士山に登ることを経験しないと、後で登れなくなる可能性があるため、元気なうちに富士山に登る経験を所有することに意義がある。(56)も文脈から明らかなように、こんなうまい酒を味わうチャンスはほとんどなく、今回のチャンスを逃したら、二度と味わうチャンスはないかもしれない。そのため、今その酒を味わう経験を所有することが重要である。(57)も同様だが、今世紀最大の事件を見ることは



いつでも経験できることではないため、その経験を所有することに価値がある。

経験の所有は図 4 を借りて考察すると、つまり、動作 V の効力が経験者が死ぬ時点までずっと続くことであるため、時空間の場を占める B タイプに示した効力の保有終了時点 tx が経験者

の死ぬ時点となる。死はだれにでも訪れるため、明示的ではあるが、いつ死ぬかは予測できず、非特定のでもあり、図 4 では点線で示す。この区切りのことを本研究では「人生の境界線」と呼ぶ。このタイプの「-ておく」は、動作 V の効力を人生の境界線まで保有する点では B、C タイプと共通しており、経験者の死とともに、動作 V の効力が消失する点では B タイプの「持続」の意味と繋がる。しかし、「持続」の場合は、動作 V の効力が結果状態をキープすることによって保有されるため、効力の保有終了時点 tx が状態変化の時点である。それに対して、「心理的な充足行為」を表す「-ておく」は動作 V の効力が出来事の経験を所有することによって効力を獲得し、効力の保有終了時点 tx が「人生の境界線」、すなわち、経験者の死である。そのため、経験者にとって、人生の経験の場を占めること自体が焦点化されることが考えられ、本研究ではこのタイプの「-ておく」を経験の場を占める D タイプとする。

3.2.2 隣接する時空間を視野に入れる「完了」

3.2.2.1 隣接する時空間を視野に入れる「-ておく」

3.2.1 節では「-ておく」の意味を、本動詞「置く」の実空間における具体的な意味か

ら、抽象的な拡張例への繋がりを見ることによって、「持続」、「準備」、「終結」などの用法がすべて「場を占める」という意味での統一的な説明を試みた。そして、先行研究で長く議論されてきた「持続」と「準備」の関係について、区切られた時空間を占めるという事態把握において、両者は対立するものではなく、一方が他方の付随的な、語用論的な意味でもなく、1つの事態把握の2つの側面であることを明らかにした。

そして、上記の図2が示すような「-ておく」の意味把握において、図5が示すように、3つの時空間を跨ることが分かる。図5の①の時空間は図2のVの動作の部分に相当し、②の時空間はVの効力が占める時空間に相当する。そして、③の時空間はVの効力との繋がりで見られる時空間である。

図2(再掲)

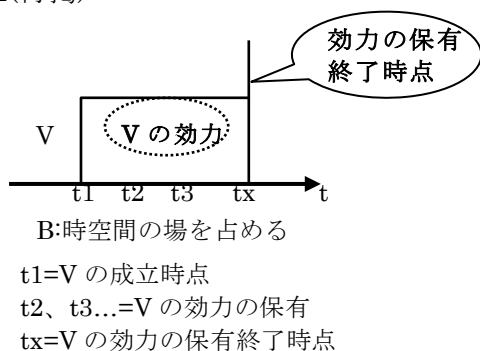


図5 「-ておく」の時空間関係



たとえば、次の(58)を図5に当てはめて説明すると、「イタリア語を習う」という時空間①での行為によって、習ったイタリア語の知識が時空間②を占める効力が生じる。そして、時空間②を占める効力が「イタリアに行く」という時空間③の出来事に対して発揮される³⁵。3.2.1節の「-ておく」の意味分析で説明しているように、時空間②と③の区切りは効力の保有終了時点 tx であり、「-ておく」の意味のタイプによって、「心理的境界線」と「人生の境界線」への抽象化が見られる。

(58) イタリアに行く前にイタリア語を少し習っておくつもりだ。

(山本 2005: p.207、例 1b)

また、時空間①と②の区切りは、まるごと捉える出来事と出来事による結果(効力)と

³⁵効力の発揮というのは、あくまで時空間③の出来事に対する効力の発揮であるため、習ったイタリア語の知識が効力の保有終了時点 tx で効力を発揮したら、習ったイタリア語の知識を忘れてしまうことを意味しない。

の関係で捉えられる。たとえば、(59a)の「-ておく」は「持続」を表す。それに対して、「-ておく」をつけない(59b)は「その後の立てふだの状態のことには話し手は注意していないことになる」(p.269)と吉川(1973)は説明している。また、「準備」を表す(60a)は、「-ておく」をつけない(60b)との違いについて、長谷川(1998)は後者は動作そのものに注目するのに対して、前者は「そのすぐあとに書かれた内容に結びつけるべく、その前置きの言い方として用いられる」(p.5)と説明している。

(59)a.わたしの家では、見かねて、このあいだ、「ごみをすてないでください。」と、立てふだを立てておきました。(六上 51) (吉川 1973: p.269)

b.わたしの家では、見かねて、このあいだ、「ごみをすてないでください。」と、立てふだを立てた。

(60)a.もちろん他の大学にも傑作なサークルが数多くあるのだが、惜しいことに紙幅が尽きた。そこで明大と日大から一つずつ紹介しておく。(二)

(長谷川 1998: p.4、例 15)

b.もちろん他の大学にも傑作なサークルが数多くあるのだが、惜しいことに紙幅が尽きた。そこで明大と日大から一つずつ紹介する。

以上のように、「-ておく」をつけない一次的アスペクトは、時空間①の出来事に注目するのに対して、「-ておく」をつけた二次的アスペクトは、時空間①の出来事が完了した後のことを視野に入れながら、時空間①の出来事を完結的に捉えるという特徴が見られる。そして、この特徴が完了をベースにした、客体の結果状態を表す「-てある」にも見られる。

3.2.2.2 「-ておく」と「-てある」の比較³⁶

次の(61)が示すように、「-てある」は「-ておく」と同様に、「完了」の意味をベースにしながらか、「準備」の意味を表すと言われている。一方、益岡(1992)は「-てある」と「-ておく」の違いについて、「行為の面に焦点を置いて表現したものがテオク」、「テオクという行為を結果の状況に焦点を置いて表現したものがテアルである」(p.535)と述べている。こうした考え方は山崎(1996)、杉村(2003)、金水(2009)などの先行研究でも広く認められている。

³⁶付録[101]～[105]の実例を参照。

(61)a.ビールを買っておこう

b.ビールなら、もう買ってある

(山森 2010: p.107、例 1)

しかし、山森(2010)がすでに指摘しているように、「-てある」と「-ておく」の違いは、動作主の表示可能性や意志性など個別に指摘されていても、なぜ両者はこのような相違点と類似性があるのかについて、まだ統一的に説明する提案がなされていない。そこで、本項は意味論の観点に立ち、隣接する時空間の関係から「-てある」と「-ておく」との比較を試みる。

「-てある」の意味を研究する代表的なものとして益岡(1987)が挙げられる。(62)³⁷は益岡(1987)の分類とその実例を示すものである。

(62)A1 型:広義の存在文

a.飲みかけのコーヒー茶碗が、受け皿から離れて置いてある。

A2 型:視覚で確認できる対象の状態の存続

b.入口に近い片すみが一畳余りの広さだけあけてある。

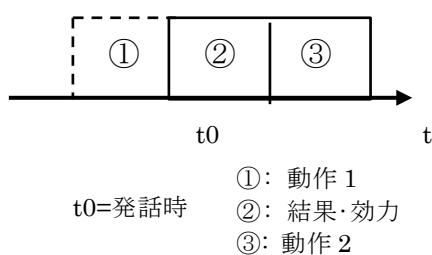
B1 型:行為の結果もたらされる対象の状態が、基準時において引き続き存在している。

c.住宅は 11 棟で、ベッドルーム 150 室を確保してあります。

B2 型:行為の結果が基準時(及び、それ以降)において何らかの有効性を示す。

d.それで、京都府警に鑑定をたのんであるの。

図 6 「-てある」の時空間関係



このような「-てある」の意味を図で考えると、図 6 を想定する。図 6 が示すように、「-てある」は「-ておく」と同様に、3 つの区切られた時空間が関わり合い、「-てある」の意味領域を成している。「-てある」は視覚で確認できる結果状態を表すため、発話時 t_0 の時空間②がそれを表す。また、

「過去に実現したことの結果として現在の状態を述べる」(寺村 1984: p.127)という「-てある」の意味特徴から、破線が示すような動作を行った時空間①が読み込まれる。このように、「-てある」は「-ておく」と同様に、動作を行う時空間①、動作の結果(効力)

³⁷(62)の下線は本論文の筆者によるものである。

が占める時空間②、そして、動作の結果(効力)が発揮する時空間③から意味領域を成すため、両者は完了の意味をベースにししながら、「準備」の意味を表すという共通する意味を持つことになる。

しかし、(63)と(64)が示すように、一口に「準備」と言っても、「-てある」と「-ておく」は入れ替えできない場合もあるため、両者が表す「準備」の意味がどのように異なるかを時空間の考え方を用いて考察する。

(63)a. 今年は初詣に行って「おみくじ」もひいたよ。「中吉」だった。まあ、いいことばかり書いてあった。こういうのは信じておくことにする。

(杉村 2003: p.108、例 51)

b. *今年は初詣に行って「おみくじ」もひいたよ。「中吉」だった。まあ、いいことばかり書いてあった。こういうのは信じてあることにする。

(64)a. 私たちが生活している社会の法律を知っておくことは損ではないはずです。

(杉村 2003: p.108、例 54)

b. *私たちが生活している社会の法律を知ってあることは損ではないはずです。

上記の図 5 と図 6 が示しているように、発話時 t_0 において、「-ておく」は動作を行う前の時空間①であるのに対して、「-てある」は結果状態を表す時空間②である。これは先行研究で述べられているように、「-ておく」は行為に、「-てある」は結果に焦点が当たっているという違いである。この違いが故に、「-ておく」が表すいわゆる「準備」の意味は 3.2.1 節で分析しているように、動作 V (時空間①)をした効力(時空間②)が効力の保有終了時点 tx (時空間②と③の境界線)まで保有され、効力の保有終了時点が効力の発揮時点となる。つまり、「-ておく」は 3 つの区切られた時空間①、②、③が関わり合い、意味領域を成しているが、「準備」の意味の本質がこの 3 つの時空間の関わり方によって「-てある」と異なる。

「-ておく」は、図 5 が示すように、動作 1 を行う前に、時空間③の出来事を視野に入れ、結果の効力の保有終了時点(時空間②と③の区切り)に焦点が当たっているのである。即ち、時空間③の出来事を視野に入れるのを前提に、時空間②と③の境界線までの時空間②に結果を置く(時空間①の動作を行う)ことである。それに対して、「-てある」が表す「準備」は異なる。発話時 t_0 において結果状態がすでに存在している「-てある」は、意志的動作の結果として時空間①の動作 V と関連し、存在する結果の効力の有効性において時空間③と繋がっている。しかし、結果状態が焦点化されるため、時空間①

と時空間③は直接関わることはない。そのため、「-てある」は「-ておく」のように、時空間①において、時空間②と③の境界線までの時空間②に結果(効力)を置くという「準備」を表すことはなく、あくまで時空間②の「結果」と「結果がもたらされた有効性」の中で「準備」の意味を捉えている。

このような「-ておく」と「-てある」の時空間に関する捉え方は、(62c)と(62d)のような用例において、大きな意味の違いが見られない。つまり、動作の結果が何らかの形で時空間②に残り、そして、時空間③の出来事との関わりを視野に入れ、動作の結果の有効性を見る場合、「-てある」を「-ておく」と入れ替えが可能である。

(62)c.住宅は11棟で、ベッドルーム150室を確保してあります。(再掲)

d.それで、京都府警に鑑定をたのんであるの。(再掲)

しかし、上記で挙げている(63)の「信じる」や(64)の「知る」などのような動詞の場合は、「-ておく」と「-てある」は入れ替えができないほど大きな違いを見せている。その違いを(64)を借りて考察する。(64)の「知る」は一般的に、一度知ってしまったことが知識として脳の中に永遠に蓄積されるため、①と②の時空間は「知る」という行為の完了によって区切られている。そして、(64b)の「知ってある」は結果に焦点が当たるため、知識がすでに結果として存在する。結果の効力は知識を獲得した時点から消えることなく存在するため、「知ってある」の場合は、結果の存在の時空間②と結果の効力が発揮する時空間③との区切りがなくなり、「知ってある」は成立しない。一方、「-ておく」が表す「準備」は時空間③を視野に入れることが結果の存在を先行し、動作の結果の効力を求めるという捉え方であるため、その法律の知識が必要とされるまでに(時空間②と③の境界線)行為の結果が存在すれば、(64a)のような文は成立する。

つまり、「-ておく」と「-てある」は「結果」→「結果の効力」の意味構造が同様であっても、その結果の現れ方(時間)によって意味が変わる。「-てある」は「結果」の存在を前提に「結果の効力」を考える。それに対して、「-ておく」は「結果の効力」を先に考え、「結果」を出現させる(動作をする)という点において、両者の「準備」の意味が大きく異なる。

3.2.3 「完了」を表す二次的アスペクト「-てしまう」

以上見てきたように、一次的アスペクト形式の「する」は「ひとまとまり性」を持ち、ズームアウトし出来事全体に焦点を当てることによって「完了」を表す。それに対して、テ形に接続する補助動詞の「-ておく」と「-てある」は完了した出来事をベースにする

点、すなわち、ズームアウトし全体を捉える点が一次的アスペクト形式「する」と同様である。しかし、二次的アスペクト形式の「-ておく」と「-てある」はズームアウトし全体を捉えた上で、更に隣接する時空間を視野に入れる点が一次的アスペクト形式の「する」と異なるため、アスペクト的に「完了」を表すとともに、「準備」などのようなムード的な意味も伴う。

一方、テ形に接続する補助動詞の中で「完了」を表すと言われている「-てしまう」がある。たとえば、金田一(1955)は、「-てしまう」を「動作相のアスペクト」と呼び、「ある動作・作用が完全に行われる」つまり「完了する」という意味を持つ (p.48)と説明している。そして、「完了」の意味だけではなく、「-てしまう」にはマイナス評価のようなムード的な意味を持っている点も広く認められている。では、「-てしまう」がどのような「完了」の意味を表すのか、それは一次的アスペクト形式の「する」が表す「完了」とどのように異なるのか、また、上記で見えてきた二次的アスペクト形式の「-ておく」と「-てある」と同様な特徴を持っているかどうか問題となる。

そこで、本項は「-てしまう」の意味を考察した上で、「-てしまう」が二次的アスペクト形式の特徴を有するかどうか、そして、一次的アスペクト形式の「する」との違いを検討する。

3.2.3.1 「-てしまう」の意味分析の問題点

(65)が示すように、「-てしまう」の意味について、金田一(1955)、寺村(1984)、藤井(1992)、守屋(1994)、鈴木(1998)、梁井(2009)などの先行研究は、「完了」の意味とムード的なマイナス感情・評価の意味を何らかの形で認めている。しかし、「-てしまう」がどのような「完了」の意味を表すのか、その「完了」の意味がマイナス感情・評価の意味とどのように繋がっているのかについては2つの立場に大別することができる。

(65)「あの火事のあと、何もかもだめになってしまいましたよ。牧場も人手に渡ってしまいましたし、他の幾つかの事業も全部だめになって、私は完全に破産してしまいました」

(ジョーク) (守屋 1994: p.60、例 25)

1つは、金田一(1955)、高橋(1969)、吉川(1973)などに代表される、「-てしまう」の基本義をアスペクトの「完了」に求め、「完了」の意味からムード的なマイナス感情・評価の意味へと拡張している考え方である。また、アスペクトの「完了」の意味は、前

接動詞の語彙的アスペクトによって、次のように、「終結」³⁸と「実現」の2種類に分けられている。

[終了]うごきがおわりまでおこなわれることをあらわす。

(13)私はその時にはもうはしごだんをおりてしまっていた。(冬の宿 151)

[実現]過程の終わりとしておこなわれる動作が実現する。

(14)しかし、たいがいはしんでしまう。(暗夜行路 132)

(高橋 1969: p.131)(再掲)

もう1つは、藤井(1992)、鈴木(1998)、一色(2011)などを代表とする考え方である。「-てしまう」を「話者の事態に対する感情・評価的な判断・態度を表す形式であると明確に位置付ける。」(鈴木 1998: p.48)と述べ、「完了」の意味を様々な条件による付随的な意味としている。これは、「完了」の意味が「-てしまう」によって表されているとは言えないことを根拠に主張されたものである。たとえば、藤井(1992)は「死んだ」と「死んでしまった」の例を挙げ、次のように述べている。

「してしまう」という形が表現する終了あるいは限界の達成は、かならずしも「してしまう」の「しまう」が表現しているとはいえない。変化動詞が「してしまう」という形を採用する場合は、すでに動詞の語彙的な意味が限界の達成を表現しているので、そのために「してしまう」の形をつかう必要はない。(p.22)

また、継続動詞について、藤井(1992)は「学校まで歩いてしまう」や「五はいも飯を食べてしまう」などの例を挙げ、「限界の達成は「しまう」がなくても、すでに表現されている。」(p.22)と説明している。

しかし、この2つの立場にはそれぞれ問題が見られる。「-てしまう」の基本義をアスペクトの「完了」に求める立場について、上記で挙げている藤井(1992)の批判以外に、鈴木(1998)は更に次の2つの問題点を指摘している。鈴木(1998)は、第1に、「終結」と「実現」について、動的な展開がある動詞の最終局面に焦点が当てられている「-てしまう」は、「動きの展開の局面を取り出すことのできない動詞にもなぜ「-てしまう」が後接することができるのかが説明できなければならない。」(p.49)と述べている。第2

³⁸金田一(1955)が言う「終結」は高橋(1969)が言う「終了」である。

に、「実現」の意味について、鈴木(1998)は「事態の「終わり」と「始まり」とも言うべき両極に位置するこの2つの意味について、その多義的別義間の関連を明確に示す必要がある。」(p.49)と説明している³⁹。

一方、「-てしまう」の意味を話者の事態に対する感情・評価に求める立場については、なぜ「終了」や「収納」を意味する本動詞の「しまう」は補助動詞になったとたん、話者の事態に対する感情・評価の意味になるのかが問題である。そして、この意味といわゆる付随的な「完了」の意味とどのような内在的な関連性があるのかが両方の立場に対する問題提起となる。

3.2.3.2 隣接する時空間を視野に入れた「実現」

本項は、「-てしまう」はどのような「完了」の意味を表すのか、その「完了」の意味はなぜマイナス感情・評価の意味を帯びるのかという問題点をめぐって、「-てしまう」の意味を考察する。結論を先取りにすると、本研究は梁井(2009)の通時的研究の成果を踏まえ、「-てしまう」が表す「完了」の意味特徴はコントロール不能な事態の実現と考える。

梁井(2009)は「-てしまう」の通時的な意味拡張について、(66)のような言語事実を提示し、次のように説明している。「江戸語の当該形式は、<終了>という「シマウ」の意味を色濃く残していたため、事態の終了限界の達成を表す標識として機能していたが、その使用領域が拡大するにつれて語彙的意味も希薄になっていき、終了・開始によらず事態の限界達成を表す標識へと変化していった」(p.22)。

(66)段階 1: 事態の終了限界の達成(死ぬ、食べる⁴⁰など)。

段階 2: 文脈に支えられる形で開始限界の達成をも表せるようになった⁴¹。

段階 3: 開始の実現を表すようになると同時に、感情動詞にも後接するようになり、
事態の実現一般を表す形式となった(暮らす、疲れるなど)。

段階 4: 静態動詞に後接するようになった(異なる、違うなど)。

(梁井 2009: pp.20-25 をまとめ)

³⁹瞬間動詞の「実現」、そして継続動詞の「終了限界の実現」または「開始限界の実現」の実例は付録の[106]～[115]を参照。

⁴⁰家内の者は朝飯を食ってしまった跡だ。[<滑> 浮世床 初編下、298 頁] (梁井 2009: p.20、例 17)。この「食べる」は「食べ始める」の「実現」ではなく、「食べ終わる」の「終了限界の達成」を表すものである。

⁴¹天窓から塩を付けて、かぢつてしまふぞヲ[<滑> 七偏下 五編中、下巻 136 頁] (梁井 2009: p.20、例 19)。「(19)は「頭をかじる」という動作に着手すること、つまり、開始限界の達成と解釈することも可能である…(略)… (19) のような例は、終了限界の達成という原初的な機能からの逸脱という点で重要な意味をもつ。」(梁井 2009: pp.20-21)

そして、なぜマイナス感情・評価の意味を帯びるのかという問題について、梁井(2009)は動作主と話者の関係に注目する解釈をしている。

マイナスの感情・評価的意味は、当初、話者が動作主と一致しない場合に限って生じていたが、テシマウ相当形式の語彙的意味に焼き付けられて、それ以外の場合にも生じるようになっていったということにある。(p.24)

しかし、梁井(2009)は調査した言語事実に基づき、自らの解釈に対して、2つの問題点を指摘している。1つは「-てしまう」が表す「完了」の意味に関する問題点である。

完遂から実現へという意味機能の拡張が、継続動詞から瞬間動詞へという前接動詞の拡大と連動していることが想定されている。しかし、文献上は…略…前接可能な動詞が継続動詞から瞬間動詞に拡大していく過程を見出すことはできなかった。(p.25)

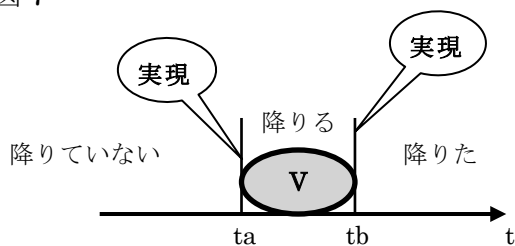
つまり、「-てしまう」の前接動詞は、継続動詞と瞬間動詞は歴史上同時に出現しており、「完遂」の意味から「実現」の意味への拡張という想定に問題がある。更に、この問題点は共時的に見ても問題がある。すなわち、3.2.3.1節「-てしまう」の問題提起の部分で挙げている「完遂」と「実現」の意味の矛盾である。この問題については、すでに鈴木(1998)でも論じられている。鈴木(1998)は次の①～⑤を根拠に、「-てしまう」は前接動詞が表す事態の内部構造に入ることがなく、前接動詞が表す事態をまるごと捉えることを主張し、「-てしまう」が表す「完了」の意味を「事態をひとまとまりにとらえ、その事態の実現を表す。」(p.50)と規定している。

- ① 事態の展開の開始、継続、終了のいずれの局面を示す表現とも共起可能である。
- ② 事態の展開の局面を取り出すことのできない動詞とも共起可能である。
- ③ 変化が漸次的に進むようすを表す副詞とは共起できないため、事態が展開する過程を逐次的に捉えては表せないことがわかる。
- ④ 「ある」や「要る」と共起できない。
- ⑤ 否定の事態を表す「～ない」との共起は不自然である。

(鈴木 1998: pp.51-52 のまとめ)

このように、事態をひとまとまりに捉えると考えることによって、歴史的に「完遂」と「実現」の用例が同時に出ていたこと、そして、「完遂」と「実現」の意味の矛盾の問題が合理的に説明できる。「死ぬ」や「消える」のような瞬間動詞の場合は、出来事は過程を持たないため、事態を内側から見るができない。そのため、事態を外側からまるごと捉え、「実現」を表す。「降りる」や「食べる」のような継続動詞の場合は、出来事は過程を持ち、「降り始める→降りている→降り終わる」という段階に分けられる。「完遂」を表すと言われている用法は、「降り終わる」という一段階のみ取り出されるため、「降りる」という事態の内側から見た視点となる。これは事態を内側から捉えるができない瞬間動詞と統一的に捉えるができない。また、「開始限界の実現」については、「降りていない」状態から「降り始める」状態への変化が「開始限界の実現」であるため、「降り始める」を「降り始める→降りている→降り終わる」の一段階として捉えるのではなく、「降りていない」状態に対して「降り始める」であり、事態

図 7



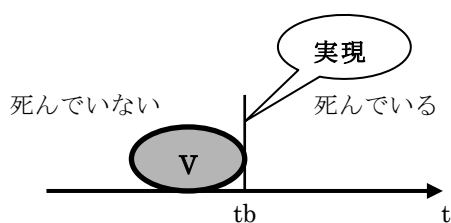
を外側から見る視点であることが明らかである。従って、本研究は「-てしまう」が表す「完了」の意味について、基本的に鈴木(1998)に従うが、「開始限界の実現」についてはまだ検討の余地があると考えられる。

図 7 は継続動詞に後接する「-てしまう」を表すものである。横軸がテンスを表し、楕円が前接動詞の出来事 V を表す。上記で考察しているように、「-てしまう」が表す「完了」は出来事の内部構造に入ることがなく、外側の視点から事態をまるごと捉えるため、図 7 では楕円を灰色の塗りつぶしで表す。継続動詞に後接する「-てしまう」は「開始限界の実現」または「終了限界の実現」を表すため、ta の時点が開始限界を表し、tb の時点が終了限界を表す。終了限界の実現 tb の場合は、「降りた」時空間で「降りる」事態をひとまとまりに捉え、その実現を表すことができるが、開始限界の実現 ta の場合は、「降りる」事態の内部構造に入ることがなくとも、「降りる」動作が後で続くため、「降りる」事態をひとまとまりに捉えるのではなく、「降り始める」事態をひとまとまりに捉えることである。そのため、「開始限界の実現」については、鈴木(1998)の「事態をひとまとまりにとらえ、その事態の実現を表す。」(p.50)という規定を更に厳密に規定し直す必要があると考えられる。以上を踏まえ、本研究は鈴木(1998)の定義を「前接動詞は文の中で表す事態をまるごと捉え、その事態の実現を表す。」のように修正し、「-てしまう」が表す「完了」の意味特徴を次の(67)のようにまとめる。

- (67)①事態の内部構造に入ることがなく、外側からの視点で事態をまるごと捉える。
 ②事態実現の境界線に焦点を当てる。
 ③事態は実現する前の状態を視野に入れ、実現した後の状態との対比の中で事態の「実現」を述べる。

図7では、たとえば、継続動詞「降りる」は、開始限界の実現を表す場合、「降り始める」の実現は「降りていない」段階との対比の中で捉えてはじめて開始限界の実現を表す。また、終了限界の実現を表す場合、終了していない段階との対比の中で捉えるが故に、終了限界の実現であることが分かる。

図8



更に、「死ぬ」のような瞬間動詞の場合は、図8が示すように、楕円が示す前接動詞の出来事Vをまるごと捉え、状態変化の境界線が出来事Vの実現時点tbと重なる。そのため、「死んでいる」状態という客観的な事実からすると、一次的アスペクトの「死ぬ」と

二次的アスペクトの「死んでしまう」が同様である。しかし、両者は「完了」に対する捉え方が異なる。一次的アスペクトの「死ぬ」は「死ぬ」という出来事をひとまとまりに捉えることに焦点が当たっている。それに対して、二次的アスペクトの「死んでしまう」は「死ぬ」事態の実現を表すため、「死んでいない状態」と「死んでいる状態」の対比をベースに「死んでいる」ことを表す。

また、「疲れる」のような開始限界の実現しか表さない前接動詞の場合は、瞬間動詞と同様な捉え方で捉えられる。すなわち、一次的アスペクトの「疲れる」は、ひとまとまりに捉えた出来事そのものに注目する。それに対して、二次的アスペクトの「疲れてしまう」は「疲れていない」状態との対比の中で「疲れる」事態の実現に焦点を当てる。いわゆる、開始限界の実現である。

このように、「-てしまう」が表す「完了」の意味を(67)のように捉えることによって、継続動詞に見られる「開始限界の実現」と「終了限界の実現」、そして、瞬間動詞の「実現」を統一的に捉えることができた。そして、隣接する時空間を視野に入れる事態の実現という意味特徴を持つ「-てしまう」が表す「完了」と、一次的アスペクトの「る」形が表す「完了」との違いも明らかになった。更に、「-てしまう」は「-てある」や「-ておく」と、前接動詞が文の中で表す事態をまるごと捉え、更に隣接する時空間を視野に入れるという特徴において、統一的に捉えることができた。

さて、最後に、梁井(2009)が提起している2つ目の問題点について考察する。すなわ

ち、なぜ「-てしまう」にマイナス感情・評価の意味を帯びるのかに対する解釈に見られる問題点である。梁井(2009)の話者と動作主の一致関係に着目する解釈は、「-てしまう」という動詞の意味、そして、意味拡張といった内的要因に関係ないところでなされたものである。つまり、「-てしまう」が表す「完了」の意味と直接関係のないところで解釈していることになり、「-てしまう」の意味に統一的な解釈を与えたとは言えない。

そこで、本研究は、なぜ「-てしまう」にマイナス感情・評価の意味を帯びるのかという問題点について、(66)で挙げている「-てしまう」の意味拡張の言語事実、そして、(67)で挙げている「-てしまう」の「完了」の意味特徴に基づき、次のような考えを提示する。

(66)段階 1:事態の終了限界の達成(死ぬ、食べるなど)。

段階 2:文脈に支えられる形で開始限界の達成をも表せるようになった。

段階 3:開始の実現を表すようになると同時に、感情動詞にも後接するようになり、
事態の実現一般を表す形式となった(暮らす、疲れるなど)。

段階 4:静態動詞に後接するようになった(異なる、違うなど)。

(梁井 2009: pp.20-25 をまとめ) (再掲)

(66)が示すような「-てしまう」は意味拡張の段階 3 では、開始の局面に入り、開始の実現を表すようになると同時に、感情動詞にも後接するようになり、事態の実現一般を表す形式となった。この段階で現れていた感情動詞は「疲れる」、「後悔する」、「困る」などが梁井(2009)によって挙げられている。「食べる」のような動詞と異なり、これらの動詞が表す状態変化や心理的变化などを意志的にコントロール不能という意味特徴を共通し、持っている。たとえば、一般的に、「疲れる」は体が勝手に疲れた状態になり、意志的にコントロールできる変化ではない。そして、「後悔する」や「困る」も同様だが、後悔したくないから、または、困りたくないから、「後悔」や「困る」といった感情に陥ることを意図的に抑えることができるわけではない。

そのため、「疲れる」のように、元々このような意志的にコントロール不能という意味特徴を持つ前接動詞は、どの時点で疲れたのかという状態変化の境界線を客観的に定めることができなく、「疲れる」事態がいつ実現するのかも客観的に判断できない。しかし、「-てしまう」が後接することによって、「疲れていない」状態から「疲れている」状態への変化の実現の境界線を心理的に浮き彫りにするため、いわゆる開始限界の実現を表すということである。この場合の「-てしまう」は、コントロール不能な事態の実現を表すようになったと考えられる。

一方、「疲れる」や「困る」などのように、元々マイナス的な意味を持つ動詞に対して、コントロール不能な事態の実現という意味特徴は、マイナス的な感情・評価の意味に繋がるが、「驚く」や「笑う」のようなマイナス的な意味を持っていない動詞に対しては、「意外」や「予想外」などの意味に繋がると考えられる。

3.3 まとめ

第3章は「完了」の意味特徴をめぐって、日本語の一次的アスペクト形式の「る」形、そして二次的アスペクト形式の「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」を考察した。

一次的アスペクト形式の「る」形はひとまとまり性を持つということで、ズームアウトし、出来事全体を捉える「完了」形式として、「走っている」のような「動作の進行」を表す「-ている」と対立している。そして、ズームアウトし、出来事全体を捉えるという「完了」の意味において、二次的アスペクト形式の「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」が一次的アスペクト形式の「る」形と同様である。しかし、ズームアウトし全体を捉えた上で、更に隣接する時空間を視野に入れるという特徴が一次的アスペクト形式の「る」形と異なる。そのため、これらの二次的アスペクト形式は一次的アスペクト形式の「る」形と異なり、「完了」の意味をベースにしながら、「準備」や「意図的な行為」などのようなムード的な意味を伴う。

第4章 ズームインし、最終部分の境界線に焦点を当てる「完了」

第4章では、「ズームインし、出来事最終部分の境界線に焦点を当てる」三次的完了アスペクト形式「～切る」、「～抜く」、「～通す」を考察する。

寺村(1984)は三次的アスペクトの中で、「時間的相」に分類されている「～はじめる」や「～終わる」に対して、「～切る」、「～抜く」、「～通す」を「空間的相」に分類し、その意味特徴を「その元来の働きをする場合には、ふつうは結びつかない動詞について、その動作をするのにかげられた努力の特別な強さとか、特別な完成、達成の感じとかを比喩的に表す」(p.182)と述べている。しかし、これらの動詞の実質的な意味はどのように「完了」の意味と結びついたのか、そして、どのような「完了」の意味を表すのかについては論じられていない。そこで、本研究は、第4章でこれらの「空間的相」が表す「完了」はどのような意味特徴を持っているのかに着目することによって、「～切る」、「～抜く」、「～通す」が表す「完了」の意味の違いを検討する。そして、三次的アスペクト形式の「～切る」、「～抜く」、「～通す」が表す「完了」と第3章で考察した「ズームアウトし、出来事を全体として捉える」一次的、二次的「完了」アスペクト形式との違いを明らかにする。

第4章は4節に分ける。まず、4.1節で「～切る」の意味分析を行う。「モノの切断」という基本的な意味を持つ「～切る」では「動作の完遂」というアスペクトの意味への変容は、一足飛びに起こるのではなく、その中間に変化動詞と結合する「～切る」の用法が存在する。変化動詞と結合する「～切る」から動作動詞と結合する「～切る」への意味拡張の中で「変化スケール」が注目され、橋渡しの働きをした。つまり、動作動詞は目的語と共起することによって獲得した動作対象の「変化スケール」に注目することによって、動作対象がゼロになった時点が、動作の完了時点となる、というのが「～切る」が表す「完了」の意味である。次に、4.2節で「～抜く」の意味分析を行う。「～抜く」の意味分析では、「～抜く」の基本的意味を「拔出」と「貫通」の2種類に分け、「貫通」の意味は空間での抽象化を起し、「目標物を追い抜く動き」の意味に変容する。そして、更に時間にも拡張し、「目標実現の追求」というアスペクトの意味と結びつく。「目標実現の追求」とは目標に向かって、時間の流れの中で、段階的な動作の実現という意味であり、これが「～抜く」が表す「完了」の意味特徴と考える。続いて、4.3節では、「～切る」、「～抜く」、「～通す」の意味比較を行う。まず、「～通す」が表す「完了」の意味特徴を検討する。「～通す」は「～切る」、そして「～抜く」と異なり、始点から完了時点までの動作の過程そのものに注目する特徴を持っている。このように、「～切る」、「～抜く」、「～通す」は「完了」という意味において同様だが、完了時点に至るまでのプロセスの違いが故に、「～切る」、「～抜く」、「～通す」が表す「完了」の

意味合いが異なる。そして、「完了時点に至るまでのプロセスの違い」という特徴がズームインし、最終部分の境界線に焦点を当てる「完了」であり、「ズームアウトし、出来事を全体として捉える」一次的、二次的「完了」アスペクト形式との違いが明らかである。最後に、4.4 節で第 4 章の内容をまとめる。

4.1 「～切る」の意味分析 – 「変化スケール」に注目する⁴²

本項は、複合動詞「～切る」⁴³について、(68)が示すような「モノの切断」という基本的な意味を表す「～切る」と、(69)、(70)が示すような文法化を起こし、アスペクト用法を持つようになった「～切る」の拡張義との関連性を大規模コーパスを用い考察する。考察にあたっては、「～切る」は「モノの切断」(例文(68))というイメージから、「極限状態」(例文(69))の意味を介して、「動作の完遂」(例文(70))の意味に拡張してきたという青木(2004)の通時的研究を支持し、認知言語学的な観点からその動機付けを明らかにする。

(68)延べ約三千人の参拝者が見守る中、本殿前の舞台に立った僧兵姿の若者十人は「丹波座」「近江座」の二組に分かれて、「えいっ、えいっ」とかけ声を響かせ、長さ四メートルの竹を五つにたたき切った。

『朝日新聞』朝刊 1999-06-21⁴⁴

(69)それから太陽、太陽、太陽を撮るんだよとも言われたけれども、カメラを太陽に真っ正面から向けてはとても撮れないので困りきった。

『淀川長治ぼくの映画百物語』(BCCWJ)

(70)自分のいいように読んでいるのかもしれないが、私などは、冷蔵庫にあるものを食べ切ってから買い物をしようと…

『朝日新聞』朝刊 2000-07-05

⁴²4.1 節で分析のために使用している用例のほか、付録の実例[36]～[60]も参照。

⁴³語彙化している「思い切る」、「割り切る」、「言い切る」、「張り切る」などは本研究では扱わない。

⁴⁴朝日新聞社がオンラインで提供する全文検索型の記事データベース『聞蔵Ⅱビジュアル・フォーライブラリー』を利用。「～切る」の用例の収集について、アクセス日は 2010-10-8。4.2 節の「～抜く」の用例の収集について、アクセス日は 2011-12-17。なお、本研究で使用している『朝日新聞』の例文の下線は本論文の筆者によるものである。

4.1.1 「～切る」の意味分析の問題点

「～切る」の意味分析について、森田(1989)、姫野(1999)、青木(2004)、杉村(2008)などが挙げられる。杉村(2008)は、従来の研究を踏まえ、「～切る」の意味と用法を(71)が示すような分類を提示しているが、その中に3つの問題点が見られる。

(71)杉村(2008)の分類 (杉村 2008: p.78 を参考に作成 ※下線は作成者による)

[A]本動詞「切る」の持つ切断の意味が生きているもの

①切断: 食い切る、叩き切るなど

②終結: 打ち切る、振り切るなど

[B]切断の意味があまり感じられず、接辞化したもの

③行為の完遂: 走り切る、食べ切るなど

④変化の達成: 諦め切る、治り切るなど

⑤極限状態: 疲れ切る、冷え切るなど

第1に、(71)に挙げている②の「終結」と③の「行為の完遂」の意味の関連性の問題である。石井(1988)は「「けりをつけ、打ち切る」と「最後まで完全に行う」とは相反する行為であり、これらの中に意味の変容を見ることができない」(p. 292)という問題提起をしているが、まだ未解決の問題点として残っている。

第2に、(71)に挙げている④の「変化の達成」の意味の問題である。杉村(2008)は、「治る」のような変化動詞と結合し、「変化の達成」を表す「～切る」の意味について、次のように説明している。

「変化の達成」は当該の変化が最後まで滞りなく生じることを表す表現で、当該事態の裏の事態が100パーセント消滅することを含意する。前項動詞には「諦める」や「治る」のような変化動詞が来る。「諦める」の裏の事態とは諦めずに頑張ることであり、「治る」の裏の事態とは傷病が残っていることを指す。…略…変化の終結点が明確なものが来る。(pp.74-75)

しかし、「治る」は一次的アスペクト形式として、「～切る」と結合しなくても、「変化の達成」を表すため、「変化の達成」は「～切る」と結合することによって生じた意味ではない。そのため、「治る」のような変化動詞と結合する「～切る」の意味を再検討する必要がある。

第3に、(71)で挙げているA類とB類の関連性の問題であり、それは「～切る」は

どのような「完了」の意味を表すのかという問題でもある。青木(2004)の通時的研究によると、(71)で挙げている⑤の「極限状態」が③の「行為の完遂」より早く出現した。それに基づき、青木(2004)は森田(1989)に対して、次のように批判している。

森田(1989)では、現代語の意味の関係について、「動作の完了」が「強調」や「極度状態」といった意味を生み出したと記述されている。現代語では「完遂」の用法が中心的であるから…略…歴史をふまえるならば、若干の訂正を要しよう。(p.40)

つまり、(71)で挙げている「～切る」の各意味の関連性、そして、青木(2004)の通時的研究で示されている「モノの切断→変化動詞(「極度」)→動作動詞(「完遂」)」という「～切る」の意味拡張の動機付けが問題提起となる。

4.1.2 「～切る」の意味拡張の動機付け

本項は、上記の先行研究を踏まえ、「～切る」は「モノの切断」という基本的なイメージから、なぜ「冷え切る」のような「極限状態」の意味へと、更には「食べ切る」のような「動作の完遂」の意味に拡張したのかという疑問点を出発点とする。この問題関心から、「～切る」の意味と用法を次の(72)が示すようなⅠ～Ⅲの3段階、5つの意味に分類し、「～切る」の各意味の関連性及び意味拡張の動機付けをめぐる議論を展開する。

(72) 「～切る」の意味分類

Ⅰ 「切る」動作主と「切る」対象で捉えられるもの

- ①モノの切断(「軟骨をたち切る」)
- ②コトの切断(「番組を打ち切る」)

Ⅱ 「心理的境界線」－ 変化動詞との結合

- ③心理的境界線の生成(「冷え切る」)
- ④心理的境界線の浮き彫り化(「治り切る」)

Ⅲ 「変化スケール」に注目する「完了」－ 動作動詞と結合する「～切る」

- ⑤動作の完遂(「食べ切る」)

4.1.2.1 I 「切る」動作主と「切る」対象で捉えられるもの

4.1.2.1.1 ①モノの切断

「モノの切断」を表す「～切る」は、(73)～(76)が示すように、前項動詞が動作動詞であり、どのように切断するかという切り方を表し、具体的なモノを切断する。この場合、「前項動詞で示した動作で切る」と言い換えることができる。

(73)駒子は三の糸を指ではじき切って付け替えてから、調子を合わせた。

『雪国』(CJCS)

(74)CGの鉄人やオックスは、シンプルな形でボリューム感が出ていた。冒頭、オックスが東京タワーをねじ切るシーンはワクワクさせられた。

『朝日新聞』朝刊 2005-03-31

(75)家の柱という柱に鋸を入れ、八割がた挽切って棟木に太綱をつけ、二十人三十人の者が引張って倒すのである。

『黒い雨』(CJCS)

(76)白いガーゼを取ると、のどを真横にかき切ったような傷跡と、一円玉ほどの大きさの赤く暗い穴が開いている。

『朝日新聞』朝刊 1998-02-06

図 9-a

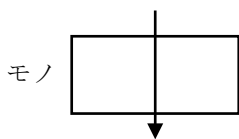


図 9-b

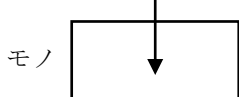
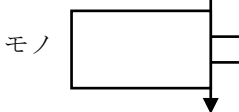


図 9-c



切る動作を行った後の結果状態を見ると、(73)と(74)は、動作の対象物が分割されている状態を表している。完全に分割されている状態を表す「～切る」を典型例だと考え、図 9-a のイメージを想定する。これに対して、(75)と(76)のように、まだ完全に分割されていない状態を表す「～切る」の用法もあり、イメージとしては図 9-b を想定する。また「切る」動作を行った結果、図 9-a の分割されている状態と図 9-b の分割されていない状態の区別だけではなく、次の(77)と(78)が示すように、モノを切断するというより、付着しているモノを V1 動詞の表す方法で全体から離すということを表す場合がある。図 9-c はこのような付着状態にあるものを全体から離

すというイメージを表す。

(77)甘辛の気取らぬ味つけ、小粒のイモの皮をぶちっと歯でかみ切ったときの青い香り。

『朝日新聞』朝刊 2008-04-02

(78)お雪は炉辺の食卓の上に豆の莢を置いて、一つずつその両端を摘切った。

『家』(青空文庫)

4.1.2.1.2 ②コトの切断

上記で挙げている用例と異なり、次の(79)の「断ち切る」は具体的なモノを切断するという意味を表すだけではなく、(80)のような場所目的語を取る用例および(81)のようなコト目的語を取る用例も見られる。(79)の「軟骨部分を断ち切る」は①の「モノの切断」を表す。それに対して、(80)の「輸送路を断ち切る」は経路となる空間を切るという意味を表す。そして、(81)の「断ち切る」は「リベンジ」という抽象的な目的語と共に起す。リベンジを断ち切ったというのはリベンジするという考えを断ち切ったという意味であるため、「切る」対象はモノからコトへの拡張が見られている。

(79)広げると肉の下にうっすらと関節が見えるので、軟骨部分を断ち切る。

『ダッチオープン料理入門』(BCCWJ)

(80)開戦以降同艦は北海の哨戒任務に就いており、ベルギーへのイギリス軍の輸送路を断ち切るべく、9月20日にヴィルヘルムスハーフェンを出港した。

『死闘の海::第一次世界大戦海戦史』(BCCWJ)

(81)原爆を二発も投下されていながら、この国に復仇の兆しはついに現われなかった。

リベンジを断ち切ったのは、まさにこのときである。

『カミカゼの真実::特攻隊はテロではない』(BCCWJ)

コトは時間の流れの中で起きており、そのコトをモノとして捉え、続いていこうと想定される出来事のある時点で切断するという把握がなされている。これによって、「～切る」ははじめて「終結」という、時間と関係のある意味と結びつき、「けりをつける、終結」という意味を表すようになる。そして、(79)～(81)が示しているように、「～切る」は「モノの切断」から「空間の切断」を経て、「コトの切断」を表すように

図 9-a(再掲)

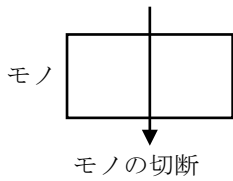
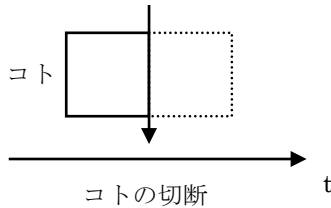


図 10



なるというプロセスを通じ、抽象化が起きている⁴⁵。「モノの切断」を表す典型的なイメージ図 9-a から「終結」の意味に拡張している「～切る」のイメージを図 10 で説明する。図 10 が、図 9-a と異なる点として、第 1 に、コトは時間の流れの中で起きているため、図 10 にはテンスを表す時間軸が加わっている。第 2 に、点線を用い、出来事の時間の流れの中での継続性を表し、継続している出来事を切ることだけりをつけるという意味へ変容することを表す。一方、図 10 はあくまでも「切る」動作主と「切る」対象との関係として捉えられており、話者の視点はコトの外にあるという点で、典型

的な「モノの切断」を表す図 9-a と共通している。

4.1.2.2 II 心理的境界線 — 変化動詞との結合

4.1.2.2.1 ③心理的境界線の生成

杉村(2008)は、「～切る」が変化動詞と結合する場合、変化動詞の語彙的な意味に到達点が含まれるかどうかによって、「極限状態」を表す「疲れ切る」、「冷え切る」などと「変化の達成」を表す「諦め切る」、「治り切る」などに分かれることを指摘している。その中で「極限状態」を表す「～切る」について、杉村(2008)は次のように述べている。

「極限状態」はすでに成立している状態が質的にさらに深まってそれ以上は進まない限界に達していることを表す表現で、当該事態がそれ以上進展する余地が 100 パーセントないことを含意する。前項動詞には「疲れる」や「冷える」のような状態動詞が来る。(p.75)

さて、杉村(2008)のこの解釈を次の(82)に当てはめて考えると、「冷え切っている」は「冷える」の「極限状態」であり、この極限状態を超えることはできず、且つ、「冷

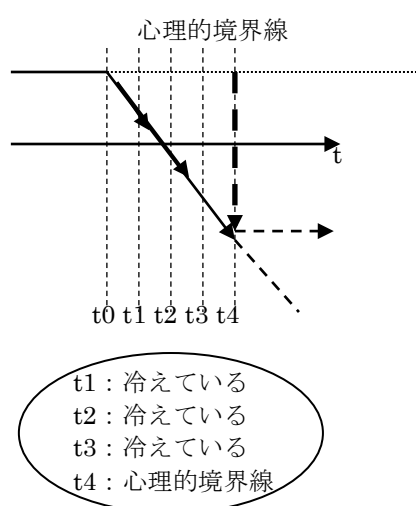
⁴⁵例文(81)のように、コトにけりをつけるという「終結」の意味は、語彙的にコトが完了するという意味を表す。しかし、それは「～切る」そのものが、時間と関係するようになるのではなく、「～切る」の目的語であるコトが時間と関係することが原因となり、「完了」の意味を表すようになる。そのため、「終結」が表す「完了」の意味は意味Ⅱ、そして意味Ⅲの文法化した「～切る」が表しているアスペクトの意味と異なる。従って、「終結」の意味は、あくまで、Ⅰの「切る」動作主と「切る」対象で捉えられるものの下位分類として見ており、意味Ⅱと意味Ⅲの文法化した「～切る」のアスペクトの意味として扱わない。

え切っている」という極限状態に達する前には、「冷えていない」状態ではなく、「冷えている」という状態の成立が前提となっている。しかし、「冷える」のような変化動詞は意味の上で限界となる達成点が語彙に含まれていないが、達する限界が一体どういう意味での限界なのか、杉村(2008)では明確に論じられていない。

(82)薄いネグリジェをまとっただけの体は、氷のように冷えて切っていた。けれども、風邪をひく心配をする必要などなかった。

『4人の食卓』(BCCWJ)

図 11



そこで、本研究は、「冷えて切る」のような「極限状態」という限界は、前項動詞の語彙に含まれていない「心理的境界線」として考える。すなわち、「冷える」は「～切る」と結合することによって、「心理的境界線」が生じるということである。「冷える」のような変化動詞は「少し」、「かなり」、「たいへん」などの程度副詞と共起することができるため、動詞そのものに変化プロセスが含意されている。図 11 は、横軸で表された時間の流れに対して、右下がりの矢印が「冷える」という変化プロセスを表したものである。

この変化プロセスの中で、時点 t_0 は「冷えはじめる」状態、時点 t_1 は「少し冷えている」状態、時点 t_2 は「かなり冷えている」状態、時点 t_3 は「たいへん冷えている」状態だと仮定する。そして、右下がりの矢印の先は点線で示している。この点線の部分は、客観的に温度が何度に達すれば、「冷えて切っている」という極限状態に達したと判断できる客観的な基準がなく、「冷える」という変化は理論的にずっと続いていく事態として存在すると考えられる。一方、縦の点線が示すように、「冷える」の変化プロセスの中で、人間は自分の感覚で判断し、恣意的に変化プロセスの中の任意の時点を取って「冷える」の終結点として認識する(図 11 では t_4 の縦の点線の矢印で示す)。この終結点は「冷える」の語彙的アスペクトには含まれない、「～切る」をつけることによって、実際には存在しない任意の「心理的境界線」が話者の心理に生じるものであると考える。そして、この種類の「～切る」の意味を本研究では「心理的境界線

の生成」と呼ぶ⁴⁶。

「心理的境界線の生成」を表す図 11 は、「コトの切断」を表す図 10 と比較すると、ずっと続けていくだろうと思われる出来事の任意の時点を取って「けりをつける」とい

図 10(再掲)

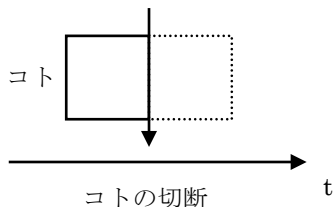
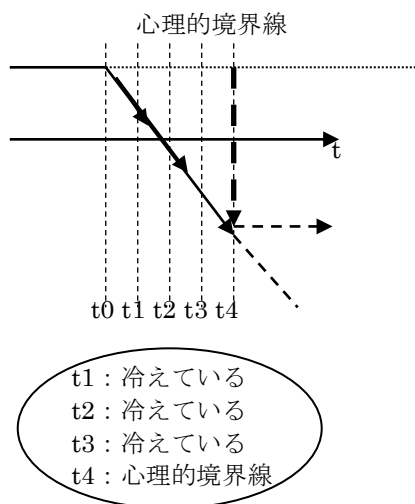


図 11(再掲)



う点では共通性が見られる。しかし、「コトの切断」がアスペクトの用法にややシフトしているとは言っても、出来事をモノに見立てて意図的に設定された終結点においてその対象物を「～切る」のに対して、「心理的境界線の生成」では、変化イベントの時間的内部構造に入り込み、終結点を心理的に設定しており、「～切る」がアスペクト用法に大きくシフトしている点異なる。

4.1.2.2.2 ④心理的境界線の浮き彫り化

同じ変化動詞でも、「冷え切る」と異なり、次の(83)の「治り切る」は、語彙の意味の中に変化の到達点が含まれている場合は、「～切る」をつけることによって、「変化の達成」を表すと言われている。

(83)ぼうこう炎を繰り返す人は、以前の症状が治り切る前に再発を起こしていることが少なくありません。

『朝日新聞』朝刊 1999-04-04

「変化の達成」の用法について、杉村(2008)は次のように述べている。

「変化の達成」は当該の変化が最後まで滞りなく生じることを表す表現で、当該事態の裏の事態が 100 パーセント消滅することを含意する。前項動詞には「諦める」や「治る」のような変化動詞が来る。「諦める」の裏の事態とは

⁴⁶ 「冷え切る」のように、現実は何度まで冷えれば、それ以上冷えることはないという客観的な判断基準がないため、「心理的境界線」という名称をつけている。つまり、ここで言っている「心理的」というのは、客観的な判断基準に対して言うものである。一方、何度まで温度が下がれば、「冷え切る」というのか、人によって格差が見られても、人間の共通する感覚としての常識的な基準があると考えられる。

諦めずに頑張ることであり、「治る」の裏の事態とは傷病が残っていることを指す。…略…変化の終結点が明確なものがある。(pp.74-75)

また、「治る」に「～切る」をつけることによって、どのようなアスペクト的な振る舞いをするのかについて、杉村(2008)は「諦める」の例を用いて、「「変化の達成」は「諦めていない→諦めようとしている(まだ諦めていない)→諦め切る→諦めている」という過程をたどり…」(p.74、下線は引用者による)と説明している。

このように、杉村(2008)は「冷える」と「治る」のように、前項動詞の語彙の意味に状態変化の境界線が存在するかどうかという点に着目し、「～切る」の用法を分けている点が評価される。しかし、「治る」のような変化動詞と結合する「～切る」は「変化の達成」を意味するという考え方について、2つの問題点が見られる。第1に、「治り切る」と一次的アスペクト形式「治る」との意味の違いの問題である。(84)と(85)が示すように、「治っている」は「すでに」や「完全に」のような、すでに状態変化が100パーセント起きていることを意味する副詞と共起できる言語事実から、「治る」は「～切る」と結合しなくても、「変化の達成」を表しており、「変化の達成」は「～切る」と結合することによって生じた意味ではないことが分かる。

(84)25～56歳の男女14人が吐き気や下痢などの食中毒症状を訴えたと発表した。全員軽症ですでに治っているという。

『朝日新聞』朝刊 2011-06-04

(85)怪我(けが)は完全に治っている、と主治医は言明した。

『朝日新聞』朝刊 2004-10-13

第2に、「～切る」のアスペクト的な特徴を提示するには、「諦め切る」の前の段階は、杉村(2008)が言っている「諦めていない」ではなく、厳密に言うと、「諦め切っていない」状態である。次の(86)～(88)が示すように、状態変化の境界線に到達していない段階の「～切っていない」の意味には、「もうだいぶ…している」という、かなりの程度まで達したという意味が含意されている。(86)は骨折したすねが折れた状態からかなり回復しており、まだ痛みが残っているため完治していると言えないが、だいぶ治っているという状況である。(87)の「拉致と信じ切っていない」は、発話者はまだ心のどこかで拉致されていないことを期待している。しかし、「何度も拉致ではないかと思っても」という発話者自らの言葉から、発話者は実のところは拉致されていることをかなり信じ

ているということが読み取れる。(88)は今年度4%の成長が達成できなかったため、基本的には来年度も4%の成長をすることは諦めているが、「来年度も4%成長を目標にしたいが」という発話から、また完全に諦めたわけではないということが分かる。要するに、(86)は「だいぶ治っているが、治り切っていない」、(87)は「かなりの程度信じているが、まだ信じ切っていない」、(88)は「ほぼ諦めているが、まだ諦め切っていない」というふうに言い換えられる。

(86)予選を通過した北風沙織選手(24)も左足に痛みがあり、準決勝を棄権した。疲労骨折したすねが治りきっていないため、秋まで治療に専念する。

『朝日新聞』朝刊 2009-06-29

(87)「私自身、拉致と信じ切っていない部分があった。なのに、25年たって騒がれても…。そんな戸惑いがあった。…略…それまで、何度も拉致ではないかと思っても、行動するすべはなかった。

『朝日新聞』朝刊 2002-12-01

(88)近藤経企庁長官などはまだ来年度4%成長目標の設定をあきらめ切っていないようだ。16日の定例閣議前、同長官は天野建設相に対して、「来年度も4%成長を目標にしたいが」と持ちかけたところ、同建設相から「今年度だって4%成長を達成できないのに」とたしなめられるひと幕があった。

『朝日新聞』朝刊 1986-12-17

このように、変化動詞「治る」⁴⁷は、「治っていない」というのは「まったく治っていない」状態から「治っている」状態変化が起きるまでのスコープの中で、どんな程度でも可能である。それに対して、「治り切っていない」の裏を読み返せば、「ほとんど治っている」という意味が含意されていることが分かる。そのため、「治り切っていない」と「治っていない」は状態変化が起きる前の段階にあるという点では共通している。しかし、「治り切っていない」は「ほとんど治っている」という意味が含意され、「治っていない」のスコープに含まれ、且つ、すでにかかなり高い達成度を有する時点、つまり、状態変化が起きる状態に近い状態であることが分かる。従って、達成度の高い段階から状態変化が起きるまでのプロセスが、「～切る」をつけることによって焦点化され、こ

⁴⁷「治る」は「諦める」や「信じる」と比べると、意志性無しの客観的な変化を表すため、本研究では「治る」を用いて考察を進める。

の段階に注目するのが「～切る」のアスペクト的な特徴の1つだと考える。

続いて、上記の考察を踏まえ、図12を用いて、「治る」と結合する「～切る」の意味を検討する。図12-①は「治る」の変化プロセスの中で、時点 t_3 と t_4 の間で、且つ時点 t_4 に近い時点、つまり、状態変化が起きる状態に近い状態の時点 t_x と仮定する。そ

図12-①

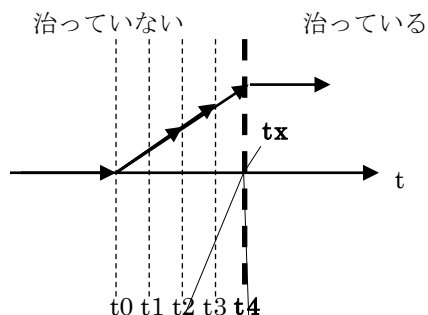
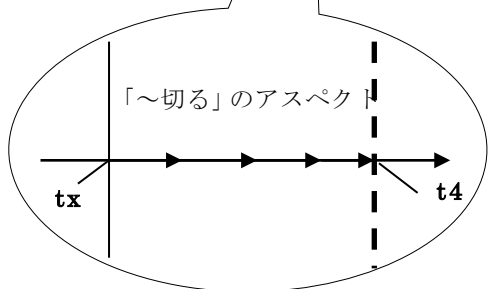


図12-②



して、 t_x で示される達成度の高い段階から状態変化(図12-①では、 t_4 の時点で示す)が起きるまでのプロセスを拡大し、図12-②で示す。この拡大している部分が、「～切る」をつけることによって焦点化され、その段階に注目することによって、「～切る」の次の拡張の用法と繋がる。「治る」や「暮れる」のような変化動詞は、「死ぬ」のような瞬間的変化動詞と異なり、順を追って次第に移り変わる変化を表すため、語彙の中に「治っていない」と「治っている」のような状態変化が含意されているとはいえ、その状態変化がどの時点で起きるのかを客観的に判断したり、確かめたりすることが難しい。そのため、状態変化が起き

る時点が明確ではない出来事に「～切る」をつけることによって、その変化が起きる時点を把握できるように心理的に浮き彫りにし、変化の達成を強調する働きが生まれる。図13-②が示すような、前項動詞の語彙の意味に含まれている状態変化の最終局面にズームインすることによって語彙的に内在する、明確ではない状態変化の境界線が心理的に把握されると考える。本研究は「～切る」のこの意味を「心理的境界線の浮き彫り化」と呼ぶ。

このように、意味③(図11)の「心理的境界線の生成」と意味④(図12-①と図12-②)の「心理的境界線の浮彫化」は、どちらも変理事象の時間的内部構造に入り込み、そして、境界線を心理的に把握するという点において共通性が見られる。一方、意味③の「心理的境界線の生成」(「冷え切る」)は、もともと存在しない状態変化の境界線について変化プロセスの中の任意の時点を取り、心理的に変化イベントの限界としているが、意味④の「心理的境界線の浮彫化」(「治り切る」)は元々存在するが特定できない状態変化の境界線を把握できるように心理的に浮き彫りにするという点では異なる。

4.1.2.3 Ⅲ「変化スケール」－ 動作動詞と結合する「～切る」

4.1.2.3.1 「～切る」の通時的意味拡張

「～切る」の通時的意味拡張について、青木(2004)は次のような意味拡張のプロセスを提示している。

「～キル」の意味用法の歴史的展開を示すと、以下の(10)のようになり、これらは(A)→(B)→(C)→(D)の順序で展開していったと考えられる。

- (10) (A)物の切断 一部の動作動詞(射きる、断ちきる、搔ききる…)
(A) 空間の遮断 一部の動作動詞(仕きる、立てきる、せききる…)
(B)終結～強調 発話・思考動詞(言ひきる、思ひきる、振りきる…)
(C)極度の状態 変化動詞、限界動詞(澄みきる、静まりきる、乾ききる…)
(D)動作の完遂 動作動詞、非限界動詞

(p.39)

本研究は、青木(2004)の「～切る」の通時的研究を支持しつつ、なぜ変化動詞と結合する「～切る」が動作動詞と結合する「～切る」より早く出現したのかという問題提起について、変化動詞の意味特徴に原因があると考えられる。その原因に、次の2点が挙げられる。第1に、変化動詞そのものに「変化スケール」が含意されている点である。動作動詞は変化動詞と異なり、直接「変化スケール」と結びつかず、時間の流れの中で理論的にどこまでも継続する動作を表す。第2に、変化動詞の変化プロセスの中に限界点とされる時点が任意であり、心理的なものである。「～切る」は「モノの切断」(「竹をたたき切る」という基本的な意味から抽象化が起き、「コトの切断」(「番組を打ち切る」)を表すようになった。「コトの切断」は続いていくだろうと思われる出来事に任意の時点でけりをつけ、終わらせるという意味を表す。そして、上記で考察しているように、この出来事の任意の時点を取り、けりをつけ、その出来事の限界点とする意味が、変化動詞と結合する「～切る」の意味との共通性が見られる。そして、変化動詞と結合し「心理的境界線」の意味を表す「～切る」から、動作動詞と結合し「動作の完遂」を表す「～切る」へ拡張する場合、「変化スケール」が橋渡しの働きをしたと考えられる。

4.1.2.3.2 ⑤動作の完遂とは

動作動詞は、「六十万部の本を売る」や「100kmを走る」のように目的語と共起することによって、アスペクト的に限界点を持つことができる。動作を行うとともに動作対象も変化していき、そこから動作対象の変化スケールが生まれる。(89)は、「売る」動

作を行うとともに、動作対象の量も変化していき、これは「量の変化スケール」を持つものである。(90)は、「渡る」動作を行うとともに、ゴールまでの距離が縮んでいき、これは「距離の変化スケール」を持つものである。一方、「量の変化スケール」であるうと、「距離の変化スケール」であろうと、変化対象を客観的に計測することができ、ゼロへの変化が明示的である。

(89)一九七〇年二月に平凡出版から『アンアン』が創刊された。爆発的な人気を呼び、創刊号は六十万部を売り切ったという。

『戦後ファッションストーリー』(BCCWJ)

(90)川底の石が裸足に痛い。何度まころびそうになりながら、股の下まで水がかかる川を渡り切った。ひさしぶりに子供のころの冒険ごっこを思い出した。

『マンダラ探検::チベット仏教踏査』(BCCWJ)

一方、次の(91)と(92)は、動作動詞は目的語と共起してもアスペクト的な限界点を持たず、動作対象を客観的に計測もできず、人間が主観的に限界となる時点を定める。たとえば、(91)は、どこまで守れば雇用と生活を100パーセント守ったのか、人間は主観的にその基準を決定する。また、(92)の「緊張を耐え切る」も同様だが、どこまで耐えれば緊張を全部耐えたかという基準を計測する方法はないだろう。

(91)雇用と生活を守りきることに主眼を置き、自制的な要求とした。

『朝日新聞』朝刊 2010-02-05

(92)暴投で進塁を許し、バントと敬遠でたちまち塁が埋まる。新人投手に緊張を耐え切る力は残っていなかった。

『朝日新聞』朝刊 1993-04-26

つまり、動作動詞は共起する目的語の意味によって、限界点を持つものと限界点を持たないものに分かれる。この違いから、本研究は「～切る」は段階Ⅱの「心理的境界線」から段階Ⅲの「動作の完遂」への意味拡張について、図13-①と図13-②を用いて、次のように解釈する。動作動詞と結合し且つ抽象的な目的語と共起する「～切る」は、意味③の「心理的境界線の生成」からの拡張である。また、動作動詞と結合し動作対象がゼロへの変化が客観的に計測できる「～切る」は、意味④の「心理的境界線の浮き彫り

化」からの拡張だと考える。図 13-①と図 13-②では、水平の矢印と破線が示すように、元々時間の流れの中で理論的にはどこまでも継続する動作が、対象物をとることによって図 13-①のようなアスペクト的に限界点を持たないものと図 13-②のようなアスペク

図 13-①

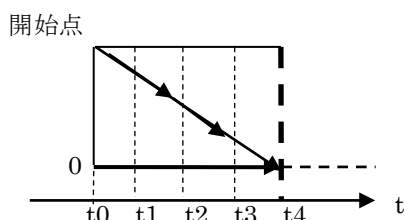
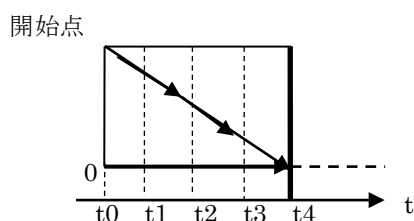


図 13-②



ト的に限界点を持つものがある。その一方で、右下がりの矢印が示すように、動作を行うと共に、動作対象の変化も進展していき、動作対象の変化スケールが状態変化の境界線 t_4 に到達する。

しかし、動作対象の変化スケールが状態変化の境界線に到達するという意味は、動作動詞と共起する目的語の意味によって図 13-①と図 13-②に分かれる。図 13-①は、「チームを守る」のような抽象的な目的語と共起する場合である。図 13-①の t_4 の時点が破線で示しているように、「守る」という動作をどこま

ですればそれが達成されるのかについて、その境界線が人間は心理的に設定する。したがって、図 13-①の t_4 の破線時点では、意味③の「心理的境界線の生成」との共通性が見られる。一方、図 13-②の t_4 の時点の実線が示すことは、「売り切る」のような「量の変化スケール」を持つものと、「走り切る」のような「距離の変化スケール」を持つものは、動作対象が「ゼロ」になった時点が客観的に計測できるため、語彙の意味に変化の達成点が含まれているものとして、意味④の「心理的境界線の浮き彫り化」との共通性が見られる。

以上、「切る」の本義である「モノの切断」から出来事の「完了」というアスペクト用法への拡張過程を、段階Ⅰの「切る」動作主と「切る」対象で捉えられるもの、段階Ⅱの「心理的境界線」を表すもの、そして段階Ⅲの「変化スケール」に注目する動作の完遂という3段階を想定することによって、「番組を打ち切る」のような意図的にけりをつけるという「終結」の用法と「500グラムのステーキを食べ切る」のような「動作の完遂」という用法を意味の拡張として結び付けることができることを示した。そして、「心理的境界線」という変件事象の認知的な把握のあり方を導入することによって、「～切る」をつけることで生じる意味を明確にし、青木(2004)が「～切る」に関する通時的な研究で明らかにした「極度状態」の意味を介して、「完遂」の意味への拡張プロセスに認知的な動機付けを与えることを示した。

4.2 「～抜く」の意味分析－「動作の段階的な実現」に注目する⁴⁸

本項では「～抜く」の意味分析を行う。複合動詞「～抜く」について、(93)のような「拔出」という具体的な動作を表す「～抜く」と、(94)のような「貫通」という具体的な意味を表す「～抜く」と、(95)のような「完了」アスペクトの意味を表す「～抜く」との意味の関連性を大規模コーパスを用いて考察し、記述する。記述にあたっては認知言語学的な観点から「～抜く」の各意味を意味拡張のネットワークの中に位置づけ、「～抜く」が表す「完了」の意味特徴を明らかにすることを目的とする。

(93)まず雑草を引きぬき、土を抜けておいて鍬を入れた。

『夜叉神堂の男』(BCCWJ)

(94)馬上からの矢を放つてみごと打ち抜くと、観客から歓声と拍手が起きた。

『朝日新聞』朝刊 2010-10-17

(95)そして戦後の農地改革の嵐の中でも、じっと耐えつづけて高原家を守りぬく。

『NHK 王国ヒットメーカーの挑戦』(BCCWJ)

4.2.1 「～抜く」の意味分析の問題点

「～抜く」の意味に関する記述的な研究は柴田(1976)、森田(1989)、城田(1998)、姫野(1999)などが挙げられる。「～抜く」が表す「完了」の意味について、森田(1989)は「動作性の動詞に付いて、“その動作を最後まで完全に行う”意を添え」(p.902)と述べ、城田(1998)は「ヌクはうごきが持続され最終段階に至ることを示すが、それに対する逆流(抵抗、困難な条件)のあることがなんらかの程度に予定される」(p.145)と説明している。

しかし、上記の説明には2つの問題点が見られる。第1に、「～抜く」が表した「完了」の意味特徴が明白ではないという問題がある。次の(96)が示すように、「27.1 キロを走り抜いた」と「16.7 キロを走り切った」は両者とも動作対象となる距離が全部無くなるまで「走る」動作を持続していたという意味を表す。そのため、「～抜く」が表す「完了」の意味が、どのような意味特徴を持っているのか、それが「～切る」のような、ほかの「完了」を意味するアスペクト形式とどう異なるのかが明らかではない。

⁴⁸4.2 節で分析のために使用している用例のほか、付録の実例[61]～[85]も参照。

(96)a.住民や学校、職場の仲間が選手となり、6区間計 27.1 キロを走り抜いた。

『朝日新聞』朝刊 2011-01-10

b.持ち前のスタミナを生かし、2番目に長い7区(16.7 キロ)を53分29秒で走り切った。

『朝日新聞』朝刊 2011-01-11

第2に、「完了」の意味とは相反する「継続」という意味が成立することである。(96a)の「27.1 キロを走り抜いた」というの、27.1 キロの距離を全部走り、27.1 キロに到達した時点で「走る」動作も完了するという到達の意味である。しかし、このような「完了」の意味を表す「～抜く」は、(97)と(98)が示すように、「永遠」や「どこまでも」のような到達の限界点を否定する修飾語と共起できる。

(97)人間だから墮ちるのであり、生きているから墮ちるだけだ。だが人間は永遠に墮ちぬくことはできないだろう。なぜなら人間の心は苦難に対して鋼鉄の如くでは有り得ない。人間は可憐であり脆弱であり、それ故愚かなものであるが、墮ちぬくためには弱すぎる。

『墮落論』(青空文庫)

(98)尹さんは、自分の実力をどこまでも信じ抜く、囲碁を愛しぬくという道を選択した。

『朝日新聞』朝刊 2006-11-27

(97)の「永遠に」は「完了」とは相反する、到達のない「継続」状態を強調する。また、(98)の「どこまでも」は「どこまでもいい」という意味を表し、言い換えれば、限界点を定めることがないという意味である。そのため、森田(1989)が述べている「最後まで完全に行う」と城田(1989)が述べている「最終段階に至る」という見解との間に矛盾が見られる。すなわち、なぜ「～抜く」は「完了」の意味を表しながら、「完了」ではない意味も表すのかという問題である。

4.2.2 「～抜く」の意味のネットワーク

姫野(1999)は「～抜く」の本動詞の意味を「貫通」、「拔出」、「選抜」、「抜駆」の4種類に分け、その中の「貫通」と「拔出」を基本的な意味としている。本研究は、「～抜く」の基本的な意味について、姫野(1999)のこの2種類の分類に従う。そして、姫野

(1999)が述べている「選抜」、「抜駆」⁴⁹の意味との関連性及び「～抜く」が表す「完了」アスペクトの意味との関連性を考慮し、(99)のような「～抜く」の意味のネットワークを想定する。

(99)A類：A類①「拔出」→A類②「選抜」

B類：B類①「貫通」→B類②「目標物を追い抜く動き」

→B類③「目標実現の追求」

まず、「～抜く」をA類の「拔出」(A類①とする)とB類の「貫通」(B類①とする)の2種類に分ける。次に、「選抜」(A類②とする)の意味はA類の拡張意味とし、「目標物を追い抜く動き」(B類②とする)の意味はB類の拡張意味とする。最後に、「信じぬく」や「走りぬく」のような「完了」アスペクトの意味を表す「～抜く」は、B類のB類②「目標物を追い抜く動き」が更に抽象化を起こし、時間にも拡張し、「完了」アスペクトのB類③「目標実現の追求」の意味と結びつくと考える。

4.2.2.1 A類についての考察

A類①「拔出」は次の(100)～(102)が示すように、本来一体となる一つの完全な構成体から、その一部を引き出すことを表す。(101)の「切り抜く」や(102)の「くり抜く」は、(100)の「うろ抜く」や上記の(93)の「引き抜く」とは異なり、前項動詞の意味に力の方向性が含意されていないため、前項動詞の意味に応じて、複合動詞の意味に違いが生じる。(101)は切った文字を白い布から取り出すという意味を表し、(102)は要らないりんごの芯をりんごから取り除くという意味を表す。

(100)時には夜もカンテラの光りに菜などをうろ抜いて廻ることもあった。

『一塊の土』(青空文庫)

(101)ソフィーはもうひとりの女性と、〈大卒にもチャンスを〉という文字を白い布から切り抜いて赤いシルクに縫いつけた凝った横断幕をもっていた。

『シミソラ』(BCCWJ)

⁴⁹姫野(1999)で、言う「抜駆」とは、本研究における「～抜く」のB類②「目標物を追い抜く動き」と同じものを指す。

(102) 芯をくり抜いてそのまま輪切りにし、穴にたこ糸を通して干して干しりんごにします。

『うおつか式生活哲学入門』(BCCWJ)

そして、このような「具体的なモノを抜出」を表す「～抜く」は、(103)～(105)が示すような抽象化を起こし、ある物や場所からその物や場所に所属する一部となるものを選び抜くという意味に結びつく。この意味をA類①の拡張した意味、A類②の「選抜」とする。(103)はある探偵社の優秀な人材が選ばれ、ほかのところに行ってしまったという意味である。(104)は10年以上熟成された原酒の中からのいいものを選び出すという意味を表す。(105)は司法試験用の教科書から要点だけを抽出するという意味である。

(103) ともかく、この探偵社、このところ経営不振で、優秀な人材を次々によそに引っこ抜かれて、はっきり言ってろくなのは残っていなかった。

『探偵物語』(BCCWJ)

(104) 10年は、10年以上熟成された原酒を選び抜き、豊かなコクを持たせるとともに、クリアな味に仕上げている。

『世界と日本のウイスキー・カタログ』(BCCWJ)

(105) ページ数、冊数とも膨大な司法試験用の教科書から、要点を読み抜いていく作業にしても、一人で誤りなく続けるのは難しい。

『朝日新聞』朝刊 2000-12-18

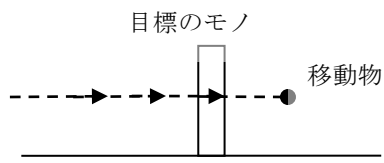
4.2.2.2 B類①と②の考察

B類①の「貫通」は、(106)が示すように、移動している具体的なモノ(例文(106)では「砲弾」)が目標のモノ(例文(106)では「壁」)に向かって、その目標のモノの身を通し貫くことを表す。この意味を図で示すと、下記の図14のようなイメージを想定する。図14は丸い点が移動物を表し、縦の長方形が目標のモノを表す。点線の矢印が移動物の移動軌跡を表す。

(106) イスラエル軍戦車から撃ち込まれた砲弾が2階のコンクリート壁をぶち抜き、ピンボールのように寝室や子供部屋、トイレを次々と破壊。

『朝日新聞』朝刊 2008-05-16

図 14



具体的なモノが具体的なモノの身を通し貫くという「貫通」の意味には次の(107)～(109)が示すような抽象化が起きている。(107)は星が通し貫いたのは具体的なモノではなく、気体である「雲」である。また、(108)は貫通の主体が「矢」のような具体的なモノではなく「風」のような形で捉えにくいモノが現れ、通し貫いたものも具体的なモノではなく「家の中」のような場所である。そして、(109)は火が南西風に乗り、ある場所(江戸)を通過するように燃焼するという意味を表す。

(107)「星が飛んだんだろう」「馬鹿な。今夜は曇っているじゃないか」「イヤ。星でも雲を突き抜いて流れる事があります。

『少女地獄』(青空文庫)

(108)それは、家の中を風が吹きぬく、影の多い、小暗いほどの土間に、摘んだばかりの桑の葉が、青々と、籠のまま、もしくは苙にあげられてあるのを見た。

『桑摘み』(青空文庫)

(109)明和九年の行人坂の火事には南西風に乗じて江戸を縦に焼き抜くために最適地と考えられる目黒の一地点に乞食坊主の真秀が放火したのである。

『函館の大火について』(青空文庫)

このような「貫通」の意味は次の(110)と(111)が示すように、移動動詞と結合することによって、空間的な意味での抽象化が更に起き、目標を追いかけ、空間的に目標の位置を超えるという意味に結びつく。(110)は一緒に走っている人が「僕」の後ろから「僕」の先に行ってしまったという意味である。(111)は最初みんなと一緒に泳いでいた「小初」がみんなを追い越し、みんなの先頭を切って泳いでいったという意味を表す。

(110)僕を追い抜いて、すぐに姿が見えなくなってしまった。制限時間ギリギリで僕が到着すると芝生の上で、ゴールしていた君が死んだように倒れていました。

『遠くまで行くんだ』(BCCWJ)

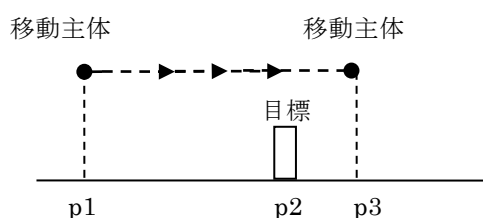
(111)小初が先頭に水に入った。男生、女生が二列になってあとに続いた。列には泳ぎ達者が一人ずつ目印の小旗を持って先頭に泳いだ。…略…やがて一行は扇形に開

く河口から漠々とした水と空間の中へ泳ぎ入った。小初はだんだん泳ぎ抜き、離れて、たった一人進んでいるのか退いているのか、ただ無限の中に手足を動かしている気がし出した。

『渾沌未分』（青空文庫）

移動動詞と結合する「～抜く」の意味は次の図 15 が示すようなイメージを想定し、本研究では B 類②の「目標物を追い抜く動き」と呼ぶ。図 15 では、丸い点で表す移動主体が元の位置 p1 にある。「目標物を追い抜く動き」とは、位置 p1 にある移動主体が、

図 15



位置 p1 より先にある位置 p2 の目標に向かって移動し、最終的に位置 p2 にある目標を超え、位置 p3 に移動したという意味を表す。点線の矢印が移動主体の移動軌跡を表している。

また、「目標物を追い抜く動き」は上記の空間的位置関係だけではなく、次の(112)と(113)

が示すような抽象的な位置関係を表すものも見られる。つまり、ある比較対象を目標とし(図 15 の p2)、その対象を追いかけ、超過するという意味を表す(図 15 の p1 から p3 への移動)。(112)は日本企業の電子技術の市場占有率が、ターゲットとなる目標米国より高いという意味を表す。(113)はライバルの記者より先にネタを書いたという意味である。

(112)技術革新の最大の焦点ともいふべき、電子技術、その中でも最も目立っている半導体を例にとれば、八〇年代に入って日本企業は急速に米国を追い抜きつつある。

『日本はこう変わる』（BCCWJ）

(113)「抜く」とは、複数の記者が追いかけているテーマを先に書くこと、また誰も知らないネタを先に書くこと。つまり、特ダネ・スクープ記事のことである。ライバルを出し抜いた快感は無上だが、抜かれた無情感は非情だ。

『絵解き広報活動のすべて』（BCCWJ）

さて、図 15 が表す B 類②の意味「目標物を追い抜く動き」を、図 14 が表す B 類①の意味「貫通」と比較してみると、移動主体が目標に向かってその目標を駆け抜けるという意味において共通性が見られる。一方、「貫通」にあった「移動物が目標のモノの身を通し貫く」という具体的な意味が「目標物を追い抜く動き」に見られない点が異な

る。そして、両者が共通し、持っている「目標に向かって、その目標を追い抜く動き」の意味は更に時間にも拡張し、B類③の「目標実現の追求」という「～抜く」の「完了」アスペクトの意味に結びつく。

4.2.2.3 B類③の考察

(114)が示すように、「目標実現の追求」とは、ある目標の実現をターゲットにし、その目標の実現まで動作を実行するという意味を表す。(114)は川幅 100 メートルの急流を渡ることが「歩く」動作の目標だと考えられ、その川幅 100 メートルの急流を渡ったら動作の目標が実現し、動作も完了するという意味を表す。そのため、「～抜く」が表す動作の完了とは、理論的にどこまでも続いていくだろうと思われる動作の継続が、動作の目標を超えた時点が動作の完了時点であるという意味である。

(114)母は食べものを得るために物乞いをしたり石鹼を売ったりして、極限状態の中を、五歳と二歳の兄を引きずり、川幅一〇〇メートルの急流を胸までつきながら歩き抜いた。

『父への恋文』(BCCWJ)

そして、このような「～抜く」の「完了」の意味は、動作の意味及び動作動詞と共起する目的語の意味によって「顕在的な目標の実現」と「非顕在的な目標の実現」の2種類に分かれる。結論を先取りすると、「～抜く」が表す「完了」の意味特徴について、本研究は次のように考える。時間の流れの中で動作の実行そのものに注目し、段階的に動作を実現させるという「非顕在的な目標の実現」が「～抜く」が表す「完了」の意味特徴である。

まず、「顕在的な目標の実現」について考察する。「顕在的な目標の実現」とは、動作動詞が目的語を取ることによって獲得したアスペクトの限界点を動作の「顕在的な目標」として捉え、この限界点まで動作を実行することである。この場合、「顕在的な目標」が実現することによって、動作の「完了」と結びつく。たとえば、次の(115)～(117)が示すように、「踊る」のような動作動詞は、「1時間」、「一キロ」、「三十六曲」のような目的語を取るによって、アスペクト的に限界点を持つ。(115)の「1時間」、(116)の「一キロ」、そして(117)の「三十六曲」が、それぞれ「踊る」動作の「顕在的な目標」として考えられ、これらの目標に向かって動作を進め、目標を超えた(達成)時点が動作の完了時点となる。

(115)10月3日、モルヒネで痛みを抑えながら南ドイツの街で最後の舞台に立ち、約1時間を踊り抜いた。

『朝日新聞』朝刊 2001-11-19

(116)足さばきも軽やかに約一キロを踊り抜き沿道の温泉客から拍手が起きていた。

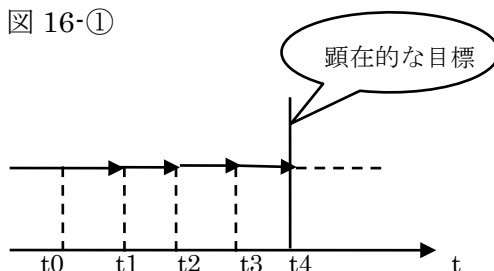
『朝日新聞』朝刊 2000-10-06

(117)ワルツやタンゴ、ルンバなど社交ダンス十種目を踊り、勝ち抜き戦で順位を争う「ダンスマラソン」。決勝進出者は朝から夕方まで三十六曲を踊り抜く。

『朝日新聞』朝刊 1993-11-24

「顕在的な目標の実現」は、(117)を例にし、図で考えると図 16-①のようなイメージを想定する。図 16-①では、上の水平の矢印と破線が示すように、元々時間の流れの中で理論的にはどこまでも継続する動作「踊る」が「三十六曲」という「顕在的な目標」に向かって、時点 t_0 から t_1 へ、 t_1 から t_2 へ、 t_2 から t_3 へ、 t_3 から t_4 へというふう

図 16-①



に「踊る」動作を実行していき、最後に t_4 の時点で「三十六曲」という「顕在的な目標」に到達し、動作が完了する。

次に、「非顕在的な目標の実現」について考察する。下記の(118)~(120)が示すように、同じ動作動詞でも共起する目的語の意味によって、アスペクト的な限界点を持たないもの

もある。この場合、動作そのものが時間の流れの中で実行できるようにすることを目標とするという意味が考えられる。たとえば、(118)は、ローズ・アダージョの難技を踊ることは「三十六曲を踊る」と異なり、具体的にどの時点まで「踊る」動作が終わるかという「顕在的な目標」がなく、「ローズ・アダージョの難技を踊る」動作そのものが実行できることが「踊る」動作を行う目標である。また、(119)は、どこまで食べれば食べる動作が終わればいいのかという「顕在的な目標」がなく、量が多すぎるベーコンをベーコンエッグ、パスタ、ベーコン巻き、チャーハンなど様々な方法でベーコンを食べ、「ベーコンを食べる」動作そのものが実行できることが目標だと考えられる。そして、(120)も同様だが「一枚の浴衣を使う」のようなアスペクト的な限界点を持たない動作は「外出用に着られないほど古くなれば寝巻にし、寝巻にもならないほどぼろになればオムツにし、さらに雑巾にしてぼろぼろになるまで使い、最後はかまどか風呂釜

で燃やして」のように、「一枚の浴衣を使う」という動作そのものが実行できることが目標である。

(118)近年ヨーロッパでの活躍が華々しいディアナ・ビシニョーワは「眠れる森の美女」第1幕のローズ・アダージョの難技を、いささかの緊張も見せずに華やかに踊り抜いて宝石のような輝きを放った。

『朝日新聞』朝刊 2006-12-11

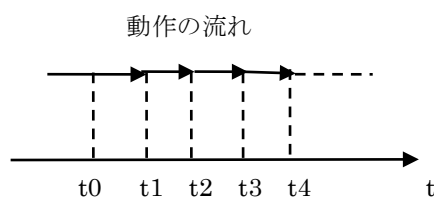
(119)一人暮らしを始めたばかりの頃、量が分からず、ベーコン一キロを注文してしまい、その量の多さに途方に暮れました。ベーコンエッグ、パスタ、あとはひたすら「○○ (←お好きな食材を入れてください)のベーコン巻き」。肉じゃがにもスープにも。チャーハンにも。今思えば「ベーコン鍋」にもすればよかった。…好きだのう、こげな若気のいたり。しかしあの手この手で食べ抜くパワーは立派。若気のいたれりつくせりと言っちゃりまっしょ。

『うおつか式生活哲学入門』(BCCWJ)

(120)一枚の浴衣にしても、外出用に着られないほど古くなれば寝巻にし、寝巻にもならないほどぼろになればオムツにし、さらに雑巾にしてぼろぼろになるまで使い、最後はかまどか風呂釜で燃やして一生を終えた。その灰まで、肥料などに利用していた時代もある。もちろん、衣類は古くなれば捨ててしまい、オムツも紙製の一度使って捨ててしまう生活に比べると、灰になるまで使い抜くようなケチな精神ではGNPだかGDPだかは伸びないし、なによりも、いちいち手間がかかってやり切れないが、人類は経済を成長させるために生存しているのではない。

『江戸のまかない』(BCCWJ)

図 16-②



このように、動作そのものが時間の流れの中で実行できるようにすることを目標とした場合、本研究では「非顕在的な目標の実現」と呼び、図 16-②を用いて、説明する。図 16-②では、時間の流れの中で「動作の実行」そのものを追求する「非顕在的な目標」であるため、時点 t_0 から t_1 へ、

t_1 から t_2 へ、 t_2 から t_3 へ、 t_3 から t_4 へというふうに「動作」が段階的に実行される。

縦の点線が示すように、段階的に実現した動作が「完了」の意味と結びつく。また、横の点線が示すように、段階的に完了する動作そのものが、時間の流れの中で進んでいき、そこから限界点のないような持続の意味が生まれる。

このように、動作動詞と結合する「～抜く」が持つ動作の意味及び動作動詞と共起する目的語の意味によって区別される、「顕在的な目標の実現」と「非顕在的な目標の実現」という2つの意味について考察した。一方、追求する目標が顕在的であろうと、非顕在的であろうと「～抜く」のアスペクトの意味を「目標実現の追求」に統一することができる。たとえば、「食べる」や「使う」のような動作動詞は「顕在的な目標の実現」を多く表す傾向が見られるが、上記で挙げている(119)と(120)のような「非顕在的な目標の実現」の用法もある。同様に、「守る」や「耐える」のような動作動詞は「非顕在的な目標の実現」を多く表す傾向が見られるが、時間目的語と共起することによって「顕在的な目標の実現」の用法もある。

しかし、「三十六曲を踊る」のように「顕在的な目標」は、あくまで動作動詞は共起する目的語によって獲得した限界点であるため、「～抜く」を付けなくても到達の意味を表す。そのため、「非顕在的な目標の実現」、つまり、時間の流れの中で「動作の実行」そのものを目標とするのが「～抜く」のアスペクトの本質であるというのが本研究の主張である。

以上、「～抜く」の各意味を意味拡張のネットワークの中に位置づけ、「～抜く」が表す「完了」の意味特徴を考察した。「～抜く」は「動作の実行」そのものに注目し、動作そのものが段階的に実現することが「完了」の意味と結びつく。そのため、段階的には動作が完了しても、動作が流れとして更に進むことが考えられ、限界点のない持続の意味が生まれる。このように、なぜ「～抜く」が「完了」という意味を表す一方、「永遠に」や「どこまでも」のような限界点のない持続を意味する副詞と共起できるかという問いに対する答えを見出すことができた。

4.3 三次的アスペクトが表す「完了」－ 完了時点に至るまでのプロセス

本項は「～通す」が表す「完了」の意味を検討し、「～切る」、「～抜く」、「～通す」の意味比較を行う。そして、三次的アスペクト形式「～切る」、「～抜く」、「～通す」が表す「完了」は完了時点に至るまでのプロセスに注目する特徴を持つことを明らかにする。

従来の研究では、動詞の具体的な意味から、抽象化を起し、完了や完遂といったアスペクトの意味を表すようになった複合動詞の類義語として、「～切る」、「～抜く」、「～通す」がよく比較されている。(121)が示すように、(121a)の「走り切る」と(121b)の「走

り抜く」と(121c)の「走りとおす」は客観的な事実から見ると、三者とも目的語の距離を走ったという完了の意味を表す。

(121)a.持ち前のスタミナを生かし、2番目に長い7区(16.7キロ)を53分29秒で走り切った。

『朝日新聞』朝刊 2011-01-11

b.住民や学校、職場の仲間が選手となり、6区間計27.1キロを走り抜いた。

『朝日新聞』朝刊 2011-01-10

c.広瀬の村に分院をもっていて、土曜日と日曜日にだけつめる力石という開業医がいたが、与兵衛はこの医者をつれて雪道二里を走りとおしてきた。

『越前竹人形』(CJCS)

しかし、三者が表す「完遂」の意味特徴が異なる。姫野(1999)は三者が表す「完遂」の意味の違いについて、次のように述べている。

「～きる」は、行為完遂の最後の時点に重点がある。話者の視点は継続の部分ではなく、最後の状態変化の一点、完全な状態に達するか否かの一点に絞られる。(p.180)

「～ぬく」は、意志的動詞に接続し、強固な意志をもってその行為を貫くという意味を表す。その裏には、周囲の邪魔や抵抗を断固はねのけてという含みがある。(p.194)

「～とおす」の重点は、むしろ初めから終わりまで何かが続けて行われることにあり…(略)… (p.194)

姫野(1999)に対して、柴田(1976)、森田(1989)、城田(1998)などの先行研究は意見が異なるとは言えないものの、説明に統一性が見られなく、個別的な言語現象の説明に流される傾向が見られる。それが原因として、個々の文脈の影響や比較の基準などによって、解釈が異なってくる。たとえば、姫野(1999)は「～抜く」、「～通す」に比べ、「～切る」のほうは意志性が弱いと述べながら、「～切る」の意志性を次のように強調している。

「きる」の結合する継続動詞は、大部分が人の意志的行為を表す語である。
 …略…「食べきる」という行為は、主体者の積極的な意図に支えられている。

(p.177)

このように、「～切る」の意志性より強い意志性とはどういう意味なのかが明白ではなく、姫野(1999)は何を基準に、意志性の強さを判断しているのかも不明である。また、「～抜く」と「～通す」の違いについて、城田(1998)も姫野(1999)も「～通す」に比べ、「～抜く」は完成に至る過程にある困難を強調していると述べている。しかし、中島(2006)は「フルマラソンを走りぬく」、「フルマラソンを走りとおす」、「フルマラソンを走りきる」の例を挙げ、「～切る」、「～抜く」、「～通す」に共通する意味特徴を次のように説明している。

行為の終了に困難を伴う、又は、途中で挫折が予測されるものを努力したり、我慢したりすることによって目標を達成させる場面で、「～きる」「～とおす」「～ぬく」は共通して使える。(p.49)

このように、中島(2006)、城田(1998)、姫野(1999)は「困難」の意味を言及しているものの、意見が分かれていることが明らかである。

以上のように、「～切る」、「～抜く」、「～通す」の意味比較について、これらの複合動詞は、それぞれどのような事態把握において、「完了」を表すのかをまだ検討する余地がある。

図 13-②(再掲)

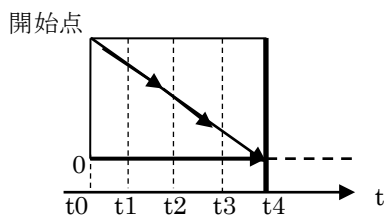
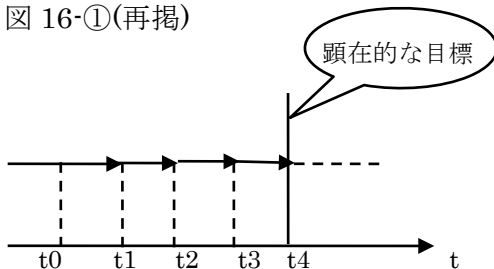


図 16-①(再掲)



上記の 4.1 節と 4.2 節で分析しているように、「～切る」が表す「完了」は「変化スケール」に注目する意味特徴があり、「～抜く」が表す「完了」は「目標に向かって、段階的な動作の実現」に注目する意味特徴がある。従って、本研究は、これらの複合動詞が表す「完了」の意味の違いは「完了時点に至るまでのプロセスの違い」によるものだと考え、三者の比較を行う。

(121a)の「走り切る」は動作動詞と結合し、「完遂」を表すものである。(121b)の「走り抜く」は本研究で述べている「顕在的な

目標の実現」用法である。そして、「～切る」を表す図 13-②と「～抜く」を表す図 16-①を比較すると一目瞭然だが、両者は「一定の距離を走った」という意味において同様だが、完了時点に至るまでのプロセスが異なる。動作動詞と結合する「～切る」は、動作対象の変化スケールに焦点を当て、動作対象の量が全部無くなった時点が、動作の完了時点となるという語彙的アスペクトを表す。つまり、「16.7 キロを走り切る」というのは「16.7 キロ」という距離は「走る」動作とともに縮んでいき、「16.7 キロ」の距離がゼロになった時点が「走る」動作の完了時点となる。それに対して、「～抜く」は「顕在的な目標の実現」を表すため、「27.1 キロを走り抜く」というのは、「27.1 キロ」の距離は「走る」動作の「顕在的な目標」であり、「27.1 キロ」の距離という目標に向かって、「走る」動作を実行する。目標の「27.1 キロ」を駆け抜けた時点が「走る」動作の目標達成点となり、そこから「走る」動作の「完了」の意味が生まれる。

最後に、「～通す」がどのような「完了」の意味を表すのかについて考察する。姫野(1999)は「～通す」が表す「完了」の意味を(122a)が示すような「貫通」の拡張義とし、「一貫継続」と称する。一方、「～通す」と同様に、「～抜く」の基本的な意味にも(122b)が示すような「貫通」(本研究の「～抜く」の意味分類の B 類①)の意味があり、「目標となるものの身を貫く」という意味を表す。

- (122)a. 自決する場合は、頭でも射とおすのが一番確実だが、しかし連合軍は遺体を写真にとったり、みにくい姿を世間に示すであろうからやはりりっぱに死ななければならぬ。『秘録東京裁判』(BCCWJ)
- b. 瞬時に殺さない限り、相手の執念により一撃を喰らうからだ。迷うことなく頭を射抜く。目から入った銃弾が、後頭部へと抜けた。『サヴァイヴァル・ツアー』(BCCWJ)

では、まず、「～抜く」と「～通す」が表す「貫通」の意味はそれぞれどこに焦点が当たっているのかについて考察する。4.2 節ですでに考察したように、「～抜く」の基本的な意味は「貫通」だけではなく、(93)のような「拔出」(本研究の「～抜く」の意味分類の A 類①)の意味もある。

(93) まず雑草を引きぬき、土を払っておいて鍬を入れた。

『夜叉神堂の男』(BCCWJ)(再掲)

「拔出」というのは、本来一体となる一つの完全な構成体から、その一部を引き出す

ことである。「貫通」との共通点を考えると、「～抜く」は「目標までの移動経路」に注目するのではなく、「目標となるものの身から抜き出す」というところに焦点が当たっていると考えられる。それに対して、(123)が示すように、「～通す」⁵⁰が表す「貫通」の意味は起点から終点までの経路そのものが焦点化されている。(123)は丸い團子を串に刺し通し、串は首尾一貫團子が並んでいることが分かる。このような「貫通」を表す「～通す」は「～抜く」と入れ替えができない。また、(124)が示すように、「～通す」が表す「貫通」の文脈では「～から～まで」のような、はっきりと「起点」と「終点」を表す表現との共起が多数見られている。

(123)子供の時 丸い團子を描いて それを串を描いてさし通すのが變に面白かった。
『自分を見た』(青空文庫)

(124)勿体ねえこった、有り難えこったと俺アいつもそう考えるが、そればかりじゃねえ、お二人の屋敷を見ろ、町の衆はああして屋敷屋敷と云ってるが、あの通りボロボロの、夏は表から裏まで吹き通し、冬は継だらけの障子に庭は庭で草茫々と云う始末だ。

『怪奇・伝奇時代小説選集』(BCCWJ)

図 17

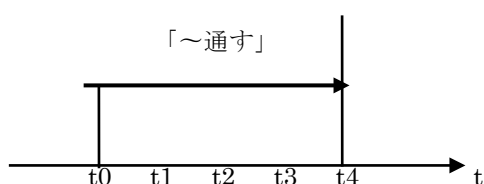
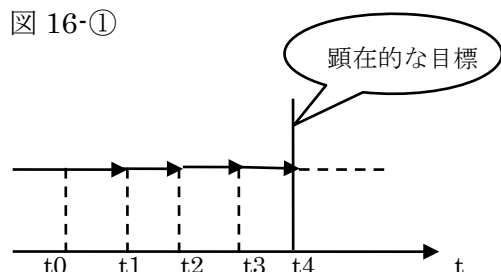


図 16-①



そして、このような、起点から終点までの経路そのものに注目する「～通す」の「貫通」の意味特徴が時間にも拡張し、姫野(1999)が述べている「完了」の意味「一貫継続」に繋がり、図 17 で表す。図 17 では下の横軸が表す時間の流れの中で、動作を行い、上の矢印が示すように、始点の t_0 から完了時点の t_4 までの動作の過程全体が焦点化されている。そのため、「～通す」が表す「一貫継続」と「～抜く」が表す「目標実現の追求」と比較すると、次の 2 点において異なる。第 1 に、姫野(1999)が述べている「～とおす」の重点は、むしろ初めから終わりまで何か

⁵⁰ 「～通す」は分析のために使用している用例のほか、付録の実例[86]～[95]も参照。

続けて行われることにあり…略…」(p.194)である。第 2 に、城田(1998)が述べている「トオスはヌクに近いが、完成に至る過程に逆流のあることを特に表現しない」(p.145)である。つまり、図 17 を図 16-①と比較すると、「～抜く」にある目標意識が「～通す」には見られていない。また、「～抜く」は目標に向かって、段階的な動作の実現を表すが、「～通す」は始点から終点までの動作の過程全体が焦点化され、段階性が見られていない。従って、(121c)の「雪道二里を走り通す」というのは、「雪道二里」という距離の経路を最初の出発点から最後の終点まで走ったという意味特徴を表すのである。

以上、「～切る」、「～抜く」、「～通す」は類義語として一口に「完了」を表すが、それぞれ完了時点に至るまでのプロセスが異なるため、これらの複合動詞が表す「完了」の意味特徴も異なる。そして、「完了時点に至るまでのプロセスの違い」という特徴がズームインし、最終部分の境界線に焦点を当てる「完了」であり、第 3 章で考察した「ズームアウトし、出来事を全体として捉える」一次的、二次的完了アスペクト形式との違いが明らかになった。

4.4 まとめ

第 4 章は「完了」の意味特徴をめぐって、日本語の三次的アスペクト形式の「～切る」、「～抜く」、「～通す」を取り上げ、意味を考察した。

「～切る」、「～抜く」、「～通す」は動詞の具体的な意味から文法化を起し、完了や完遂といったアスペクトの意味を表すようになった。「～切る」は「モノの切断」という基本的な意味から、変化動詞と結合し「心理的境界線」の段階を経て、動作動詞と結合し「完了」の意味を表すようになった。その「完了」の意味は目的語と共起することによって、獲得した目的語の「変化スケール」に注目する特徴が見られる。そして、「～抜く」は具体的なモノが具体的なモノの身を通し貫くという「貫通」の意味から、移動動詞と結合し、目標物を追い抜く動きという空間での抽象化を起している。この意味は更に時間にも拡張し、目標に向かって、段階的な動作の実現に注目するという意味特徴を持つ「完了」の意味と結びつく。また、「～通す」も「貫通」の意味を持つが、「～抜く」の「貫通」の意味と異なり、起点から終点までの経路が焦点化されている。この意味特徴が「～通す」が表す「完了」の意味に反映され、すなわち、始点から完了時点までの動作の過程そのものに焦点が当たっている「完了」の意味となる。

このように、「～切る」、「～抜く」、「～通す」は類義語として一口に「完了」を表すが、それぞれ「完了時点に至るまでのプロセス」が異なるため、「完了」の意味特徴も異なる。そして、完了時点に至るまでのプロセスの違いという特徴が「ズームインし、最終部分の境界線に焦点を当てる」完了であることが明らかであり、第 3 章で考察した

「ズームアウトし、出来事を全体として捉える」一次的、二次的完了アスペクト形式との違いも明らかになった。

第5章 日本語と中国語のアスペクトの対照 – 「完了」をめぐって

第5章は、第3章と第4章の日本語のアスペクトについての考察を踏まえ、『中日対訳コーパス』(第一版)を用いて、中国語との対照を行う。

具体的には、まず、5.1 節で二次的アスペクト形式の「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」の日中対照を行う。『中日対訳コーパス』(第一版)を調査した用例の中で「-ておく」と「-てしまう」は中国語に訳されていない割合が9割程度あるため、この2つの表現が中国語によって表現されない傾向が見られる。そして、「-てある」は4割近く中国語に訳されていないことから、これらの形式は全体的に中国語で表現しにくい傾向が見られる。また、何らかの形で中国語と対応する「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」の意味を中国語によって部分的に表現しても、意味全般は表現できないことが判明した。つまり、ズームアウトし、全体を捉え、更に隣接する時空間を視野に入れるという日本語の二次的アスペクト形式の特徴は中国語では言語化しにくいということであろう。

次に、5.2 節で三次的アスペクト形式の「～切る」、「～抜く」、「～通す」の日中対照を行う。『中日対訳コーパス』(第一版)を調査した用例の中で「～切る」、「～抜く」、「～通す」は4割弱が統一したパターンの中国語に対応していない。そして、6割強がパターンIとパターンIIに対応しているが、対照の結果、パターンIでもパターンIIでも「～切る」、「～抜く」、「～通す」の意味を表しきれないことを判明した。その原因が日本語の「～切る」、「～抜く」、「～通す」は完了時点とそこに至るまでのプロセスに注目する特徴を持っているのに対して、中国語はその両方を同時に言語化することが難しいと考える。

このように、5.1 節と5.2 節で、日本語と中国語のアスペクトの相違点を考察した。それを踏まえ、続いて、5.3 節で、完了の意味をめぐって、日本語と中国語のアスペクトの共通点も探してみる。中国語は動態助詞の“了”(LE)と“过”(GUO)は出来事が発生したかどうかに焦点が当たっており、出来事を丸ごと捉える完了形式だと考えられる。それに対して、「結果の在り方」に注目する結果補語と方向補語は出来事を丸ごと捉えるのではなく、ズームインし、出来事の結果に焦点を当てる完了形式だと考えられるため、中国語が日本語と同様に、ズームアウトとズームインの2通りの捉え方でアスペクトを体系的に捉えられると考える。

5.1 二次的アスペクト「-ておく」「-てある」「-てしまう」の日中対照

本項では、『中日対訳コーパス』(第一版)を用いて、第3章で考察した日本語の二次的アスペクト形式「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」が中国語とどのように対応するかを整理する。そして、整理した結果に基づき、「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」

に対応する中国語の特徴について検討する。

5.1.1 「-ておく」「-てある」「-てしまう」に対応する中国語

5.1.1.1 「-ておく」「-てある」「-てしまう」の中国語対訳データ

表3にまとめているように、『中日対訳コーパス』(第一版)を調査した結果、「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」はそれぞれ664例、647例、1832例があり、合計3144例である。そして、異なり語数⁵¹はそれぞれ246、202、693であり、合計1141である。

表3 「-ておく」「-てある」「-てしまう」に対応する中国語の基本情報

	基本情報	
	述べ語数	異なり語数
「-ておく」	664	246
「-てある」	647	202
「-てしまう」	1832	693
合計	3144	1141

これらの用例が中国語とどのように対応しているかを考察するために、まず抽出した中国語の対訳文を、「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」の部分が表示されているかどうかによって2分類する。次の(125)と(126)が示すように、中国語に表現されていない用例には2種類が見られる。

1つは(125)が示すような、「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」のような補助動詞をつけない、前接動詞の部分しか訳されていないタイプである。(125a)の「送っておく」に対応する(125b)の中国語は<寄>(ji)である。<寄>(ji)は「-ておく」を付けない前接動詞「送る」に対応する中国語であり、「-ておく」の部分は中国語と形態的に対応していないことになる。

(125)a. 研究の内容を私あてに送っておいて下さい

b. 请 把 所 研究的内容简介 给 我 寄 一份 来
 てください を 助詞 研究内容の概略 に 私 送る 一部 てくる
 『あした来る人』

⁵¹表記形の数を計量する際には、2種類の数え方が存在します。…(略)…出現した表記形の総数を述べ語数(token または running words)と呼び、重複を省いた表記形の総数を異なり語数(type)と呼びます。(石川 2012: p.142)

もう1つの種類は(126)が示すような、「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」のような補助動詞とは関係のない構文や表現で表すタイプである。(126a)の「飾ってある」の部分に当たる中国語が見られない。(126b)の中国語は飾り窓にあるものはもともと飾るためにある商品であるため、わざわざ「飾ってある」を訳さなくても、その意味が文脈から読み取れる。

(126)a. 八千代はさきに飾り窓の前に立って、そこに飾ってある注文品らしいワンピースと二三種類の夏物の生地をしさいに点検したのち、やがて、店の奥へ向って、ゆっくりと足を運んだ。

b. 八千代首先站在陈列窗前，仔细地品看了里边似乎是八千代はさきに飾り窓の前に立って、しさいに見るLE中ようだ为别人订做的连衣裙和两三种夏令服装面料。ために他の人オーダのワンピースと二三種類夏物の生地而后缓缓移步入内。
やがて、店の奥へ向って、ゆっくりと足を運んだ。

『あした来る人』

このような中国語と対応していない「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」は、すべての用例の中でそれぞれいくつ出現しているかを、その割合とともに表4にまとめている。

表4 「-ておく」「-てある」「-てしまう」に対応する中国語の有無

	中国語の対応の有無			
	有		無	
「-ておく」	81	10%	716	90%
「-てある」	485	64%	277	36%
「-てしまう」	228	9%	2352	91%
合計	787	19%	3344	81%

表4が示すように⁵²、「-ておく」と「-てしまう」は中国語に訳されていない割合が9割程度あり、すなわち、この2つの表現が中国語によって表現されない傾向があると考

⁵² 『中日対訳コーパス』の一部の日本語作品は複数の中国語バージョンに対応している。合計数は複数のパターンに使われるものがあるため、表3の基本情報の合計数とは異なる。

えられる。そして、「-てある」も中国語に訳されていない割合がかなり高い4割近く見られる。さて、1割程度の「-ておく」と「-てしまう」の用例、そして6割強の「-てある」の用例は、中国語とそれぞれどのように対応するのかを次節5.1.1.2で考察する。

5.1.1.2 「-ておく」「-てある」「-てしまう」の中国語対訳の整理

本項では、1割程度の「-ておく」と「-てしまう」の用例、そして6割強の「-てある」の用例は、中国語とどのように対応するのかを整理する。

まず、「-ておく」に対応する中国語を整理する。中国語と何らかの形で対応する「-ておく」は全部で81例である。この81例に対応する中国語を表5にまとめている。

表5 「-ておく」に対応する中国語のまとめ

「-ておく」に対応する中国語									
先	28	预先	3	过	1	撘着	1	呆一会儿	1
補語	6	安置	3	完毕	1	放置	1	等了一会儿	1
放	4	事先	2	搁下	1	暂时先	1	薰在那里	1
后	4	放下	2	搁	1	已经	1	放下来	1
以后	4	准备	2	置	1	先前	1	预	1
放着	4	着	2	了	1	早	1		

下記の(127)～(129)が示すように、表5の中国語は意味によって「動作か状態保持」、「完了」、「準備に相当する意味」の3種類に分けられ、それぞれの用例数を81例の中での割合とともに、次の表6にまとめる。(127b)の<置>(zhi)は日本語の「置く」の本動詞の意味に相当し、空間的な場を占めるという意味を表す。文脈によってモノを置く動作か、(127b)のようなモノを置きそのまま動かさずにいるという状態保持の意味を表す。そして、(128a)の「-ておく」の意味が、(128b)の時間副詞の<先>(xian)によって表されている。(129)は、「終わる」という意味を表す動詞<完毕>(wan-bi)によって、(129a)の「-ておく」にある前接動詞の出来事の完結が表される。

(127)a. 伐った竹材は、つしとよばれる三角屋根の屋根裏にならべておく。

b. 砍伐来的冬竹，并排 置于 屋顶下的三角形空档里。

伐った竹材は 並べる おく に つしとよばれる三角屋根の屋根裏

『越前竹人形』

(128)a. 一方は、「鯨尺」を示しておいて、これによって基準寸法を示し、次の段階において「鯨尺」と「センチ尺」を比較する。

b. 另一种 是 先 讲清 鲸尺的用法， 再用它量出剪裁尺寸，

もう一種 は 先に 説明する 鯨尺の用法 これによって基準寸法を示し、
随后再将鲸尺和公分尺做一番比较。

次の段階において「鯨尺」と「センチ尺」を比較する。

『タテ社会の人間関係』

(129)a. こう命じて置いて、校長は応接室の戸を開けて入った。

b. 校长 吩咐 完毕， 打开会客室的门， 走了进去。

校長 命じる 終了 応接室の戸を開けて入った

『破戒』

表 6 「-ておく」に対応する中国語の分類

「-ておく」に対応する中国語の3分類			
a. 本動詞「置く」に相当する意味／状態の保持	放 搁 置 放着 放下 搁下 安置 摺着 放置 放下来 呆了一会 等了一会 薰在那里	24	30%
b. 広義の完了	后 过 了 已经 以后 完毕 補語	18	22%
c. 準備に相当する意味	先 早 预 预先 事先 先前 准备 暂时先	39	48%

次に、「-てしまう」に対応する中国語を整理する。中国語と何らかの形で対応する「-てしまう」は全部で228例である。この228例に対応する中国語は3種類が見られる。この3種類の中国語は広い意味ですべて「完了」を表すものである。(130)が示すように、228例の約55%の126例は完了アスペクトの<了>(LE)と対応しており、3種類の中で一番多いものとなる。2番目に多いのが、(131)が示すような補語との対応であり、全部で95例があり、228例の約42%を占めている。そして、(132)が示すような経験アスペクトの<过>(GUO)との対応が一番少なく、全部で7例しかなかった。

(130)a.そして輪郭がすっかりふやけて一面に胸のせまる葡萄色になり、それから不透明な紫色の弱い光の中へ沈みこんでしまうのを見つめていた。

b.然后又把它们轮廓完全隐去，变成一片令人不快的绛紫色，

溶入 _____ 了 _____ 不透明的暮色之中

沈み込む しまう 不透明な紫色の弱い光の中

『飼育』

(131)a.シナ人はその仕事が実に器用で、西洋の印刷職人が一フォリオ組む間に、シナの本の版木一枚を彫ってしまうくらいです。

b.中国人做这件工作十分灵巧，西方的印刷工匠排完对开本一页的工夫，

他们 就 能 雕 _____ 完⁵³ 一页 版木。

彼ら 強調 できる 彫る 終わる 一枚 版木

『マッテオ・リッチ伝』

(132)a.午飯を食べてしまったから、晩まで殆ど用はありません。

b. 吃过 _____ 午饭 到 _____ 晚上 这段时间 几乎 _____ 无事可做。

食べてしまう 昼飯 まで 夜 時間帯 ほとんど 用はない

『斜陽』

最後に、「-てある」に対応する中国語を整理する。中国語と何らかの形で対応する「-てある」は全部で 485 例である。この 485 例に対応する中国語が大きく 3 種類に分けられ、それぞれの用例数を 485 例の中での割合とともに、表 7 にまとめている。

⁵³<雕-完>(diao-wan)のような、「動詞+補語」(VC)の形は「動補構造」という。動補構造の補語は意味によって、「結果補語」「趨向補語」(本論文では「方向補語」という)、「程度補語」「可能補語」「情態補語」がある。「結果補語」について、房玉清(2008)は次のように説明している。「在汉语里，动词虽然没有形态变化，但只要语义搭配得上，可以用任何一个形容词或动词做它的补语。这类补语表示的意义相当复杂，概括起来，都是表示动作产生的各种结果，所以叫结果补语。」(p.164) (中国語に動詞は形態変化がなくても、意味の上の組み合わせが適切でありさえすれば、どんな形容詞あるいは動詞でもその動詞の補語になれる。この類の補語の表す意味は相当複雑だが、総括すると、すべてその動作の結果を表すため、結果補語と呼ぶ。) また、<~上> (-shang)、<~下> (-xia) のような方位詞が動詞の後に現れ、補語になる場合、方向補語という。更に、<~上来> (-shanglai) のような複合方向補語もある。本研究は方向補語と複合方向補語の違いを研究するものではないため、<~上来> (-shanglai) のような複合方向補語を方向補語の一種として扱う。

表 7 「-てある」に対応する中国語の分類

「-てある」に対応する中国語の 3 分類			
a. 継続アスペクトマーカ	着	222	46%
b. 広義の完了	了 过 補語	152	31%
c. 存在/所有	在/有	111	23%

(133b)が示すように、動詞<铺>(pu)の後に継続を表すアスペクトマーカ<着>(ZHE)をつけると、状態を表すようになる。(134b)は完了アスペクトマーカ<了>(LE)をつけることによって、<摆>(bai)という動作の完了を意味する。そして、(135a)の「書いてある」は(135b)の<写有>(xie-you)に対応し、「書く」という動作の完了及び書かれた字の存在を表す。

(133)a. 門から玄関までは御影石で敷きつめてある。

b. 从大门到屋门, 满 铺着 花岗岩的碎石子。
門から玄関まで いっぱい 敷きつめてある 御影石

『坊ちゃん』

(134)a. 二階の部屋の差し出しにチューリヲブの鉢を並べてあります。

b. 二楼 阳台上 摆了 几盆 郁金香。
二階 ベランダ 上 置く LE 何鉢か チューリヲブ

『あした来る人』

(135)a. 像がない場合にはよく細工した板に孔子の名前を金文字で書いてある。

b. 如果没有塑像, 则供奉一块精致的木板, 上面 用 金字 写 有 孔子的名讳。
像がない場合 よく細工した板 上 で 金文字 書く ある 孔子の名前

『マッテオ・リッチ伝』

5.1.2 「-ておく」「-てある」「-てしまう」に対応する中国語の考察

第 3 章で考察しているように、日本語の二次的アスペクト形式の「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」はズームアウトし、全体を捉え、更に隣接する時空間を視野に入れるという特徴を持つ「完了」形式で統一的に捉えることができる。本項は、この特徴をめぐって、5.1.1 節で整理した中国語を、対応する「完了」表現と「完了」に伴うムー

ド的な意味の2点から中国語との対照を行う。

5.1.1.1 節ですでに述べているように、「-ておく」と「-てしまう」は中国語に訳されていない割合が9割程度あるため、この2つの表現が中国語によって表現されない傾向が見られる。そして、「-てある」の用例も4割近く中国語に訳されていないことから、この3つの二次的アスペクト形式は全体的に中国語で表現しにくい傾向があると考えられる。

下記の表8にまとめられている「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」の中国語の「完了」表現から考察すると、中国語の完了アスペクトの<了>(LE)と経験アスペクトの<过>(GUO)は「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」の3つの形式にすべて対応することが分かる。たとえば、上記の(130)と(134)、そして、次の(136)が示すように、「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」が表す「完了」の意味は中国語の完了アスペクトの<了>(LE)によって表されるため、日本語の「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」の意味特徴を表していないことが分かる。

(136)a. 金は農から返しておくから、もう退ってよろしい

b. 欠的钱 已 由我替你 还了, 你可以回去了
借りたお金 もう あなたのかわりに 返す LE もう退ってよろしい

『金閣寺』

(134)a. 二階の部屋の差し出しにチューリヲブの鉢を並べてあります。

b. 二楼 阳台上 摆了 几盆 郁金香。
二階 ベランダ 上 置く LE 何鉢か チューリヲブ

『あした来る人』(再掲)

(130)a. そして輪郭がすっかりふやけて一面に胸のせまる葡萄色になり、それから不透明な紫色の弱い光の中へ沈みこんでしまうのを見つめていた。

b. 然后又把它们的轮廓完全隐去, 变成一片令人不快的绛紫色,

溶入了 不透明的暮色之中
沈み込む しまう 不透明な紫色の弱い光の中

『飼育』(再掲)

表 8 「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」に対応する中国語の「完了」表現

「完了」の意味を表す中国語の対訳				
	対応する 中国語	用例 数	対応「有」に おける割合	すべての対訳例に おける割合
「-ておく」	了 过 補語 后 以后 完毕 已经	18	22%	2%
「-てある」	了 过 補語	152	31%	20%
「-てしまう」	了 过 補語	228	100%	9%

次に、「完了」に伴うムード的な意味について考察する。表 8 から分かるように、「-てしまう」が中国語に何らかの形で対応している用例はすべて「完了」を表している。完了アスペクトの<了>(LE)と経験アスペクトの<过>(GUO)は「-ておく」と「-てある」にも対応するため、「-てしまう」の意味特徴を表していないことが分かる。さて、残りの補語についてだが、上記の(131)は結果補語の<完>(wan)に対応し、次の(137)は結果補語の<住>(zhu)、そして(138)は結果補語の<好>(hao)に対応している。これらの対応が示すように、「-てしまう」は様々な補語に対応しており、特定の補語との対応が見られない。そのため、「-てしまう」と中国語との対応は次の 2 点にまとめられる。第 1 に、9 割程度の「-てしまう」は中国語と対応していないことから、中国語では「完了」を表す二次的アスペクト形式の「-てしまう」と「-てしまう」をつけない一次的アスペクトの「る」形との違いを言語化しない傾向が見られる。第 2 に、1 割程度の「-てしまう」はすべて広義の「完了」を表す中国語と対応しているが、対照の結果、これらの中国語は「-てしまう」の意味を表しきれないことが分かる。

(131)a. シナ人はその仕事が実に器用で、西洋の印刷職人が一フォリオ組む間に、シナの本の版木一枚を彫ってしまうくらいです。

b. 中国人做这件工作十分灵巧，西方的印刷工匠排完对开本一页的工夫，

他们 就 能 雕 完 一页 版木。

彼ら 強調 できる 彫る 終わる 一枚 版木

『マッテオ・リッチ伝』(再掲)

(137)a. 視界の左半分が傘で覆われてしまうため、信号も見えにくかったし、…略…

b. 因 雨傘 遮 _____ 住 視線, 很难看清楚路口的信号灯、…略…
 ため 傘 覆う 結果補語 視線 信号も見えにくかったし

『五体不満足』

(138)a. ママの知らぬうちに、なんとかしてこの中毒をなおしてしまうつもりなのです

b. 我打算在妈妈还没有发觉的时候, 想尽办法 将 它 治 _____ 好。
 ママの知らぬうちに なんとかして を これ 治す動作 補語

『斜陽』

続いて、「-てある」についてだが、「-てある」は「意図的な動作を読み込まれる結果状態」と「その結果状態はある一定の目的のため」の2つの意味特徴を持っている。しかし、上記の表7にまとめられている中国語の対訳を見ると、「意図性」と「ある一定の目的のため」を表す中国語がないことが分かる。そのため、「-てある」の意味を部分的に、たとえば、「結果状態」や「完了」や「存在」などを表現しても、「-てある」の意味全般を中国語では表しきれないことが分かる。

表7 「-てある」に対応する中国語の分類(再掲)

「-てある」に対応する中国語の3分類			
a. 継続アスペクトマーカ	着	222	46%
b. 広義の完了	了 过 補語	152	31%
c. 存在/所有	在/有	111	23%

最後に、「-ておく」について検討する。3.2.2節で分析しているように、「-ておく」は3つの時空間を跨がり、「行為をした後に何らかの効力が発現するのを見越して、意図的にその行為を行う」菊地(2009: p.8)という意味を表す。それに対応する中国語を見ると次の2点にまとめられる。第1に、「-ておく」は「-てしまう」と同様に、9割程度の用例は中国語に表現されていないことから、「-ておく」の意味を中国語によって表現しにくいことが分かる。その原因は両言語の発想の違いにあると考える。「-ておく」が結果の効力を見越すという発想は、「～なるように、～をする」という「なる」型言語に見られる特徴である。それに対して、結果構文が発達している中国語は時間順に沿って、動作をし、結果が出るという「する」型言語の発想を表している。第2に、中国語

となんらかの形で対応する 1 割程度の「-ておく」は上記の表 6 にまとめているように、「準備」の意味は時間副詞の〈先〉(xian)や、副詞の〈预先〉(yu-xian)などでテンス的に出来事の前後関係を表す。しかし、時間的前後関係は行われる出来事の内在的な繋がりを表すものではないため、「-ておく」の意味を表しきれないと考えられる。

表 6 「-ておく」に対応する中国語の分類(再掲)

「-ておく」に対応する中国語の 3 分類			
a.本動詞「置く」に相当する意味／状態の保持	放 搁 置 放着 放下 搁下 安置 摺着 放置 放下来 呆了一会 等了一会 薰在那里	24	30%
b.広義の完了	后 过 了 已经 以后 完毕 補語	18	22%
c.準備に相当する意味	先 早 预 预先 事先 先前 准备 暂时先	39	48%

以上のように、日本語の二次的アスペクト形式の「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」は中国語によって表現しきれないことが分かる。上記で考察しているように、この 3 つの形は表面的にそれぞれ異なる理由で中国語に対応しないが、根底には日本語の二次的アスペクトの捉え方を中国語によって表すことはできないことが原因だと考える。つまり、ズームアウトし、全体を捉え、更に隣接する時空間を視野に入れるという特徴を持つ「完了」の捉え方は中国語では言語化しにくいということであろう。

5.2 三次的アスペクト「～切る」「～抜く」「～通す」⁵⁴の日中対照

本項では、『中日対訳コーパス』(第一版)を用いて、第 4 章で考察した日本語の三次的アスペクト形式「～切る」、「～抜く」、「～通す」は中国語とどのように対応するかを整理する。そして、整理した結果に基づき、「～切る」、「～抜く」、「～通す」に対応する中国語の特徴について検討する。

5.2.1 「～切る」「～抜く」「～通す」に対応する中国語の 3 分類

次の表 9 にまとめられているように、『中日対訳コーパス』(第一版)を調査した結果、「～切る」、「～抜く」、「～通す」はそれぞれ 256 例、95 例、41 例があり、合計 392 例である。異なり語数はそれぞれ 81、27、21 であり、合計 129 である。

⁵⁴5.2 節の内容は、2013 年 12 月 15 日に国立国語研究所で行われていた国際シンポジウム『日本語およびアジア諸言語における複合動詞・複雑動詞の謎』での口頭発表『中国語との対照の観点から見た日本語複合動詞の習得 - 完了を表す類義語「～切る」「～抜く」「～通す」を例にして-』に基づき、文章化したものである。

表9 「～切る」「～抜く」「～通す」に対応する中国語の基本情報

	基本情報	
	述べ語数	異なり語数
「～切る」	256	81
「～抜く」	95	27
「～通す」 ⁵⁵	41	21
合計	392	129

そして、「～切る」、「～抜く」、「～通す」に対応する中国語は、パターンとして抽出できたものが2種類ある。それがaのパターンIとbのパターンIIである⁵⁶。パターンとして抽出できないものはcの「その他」に分類した。

- a.パターンI：(修飾要素)+前項動詞+補語
- b.パターンII：(修飾要素)+前項動詞+(アスペクトマーカ)
- c.その他：ほかの言い方に変えるもの

まず、パターンIは(139b)～(141b)が示すように、中国語は、日本語の前項動詞に対応する動詞に補語をつける形で日本語に対応する。(139b)の<用光>(yong-guang)の<用>は「使う」の意味を表し、<光>は「無くなる」を表す結果補語である。(140b)の<经受住>(jingshou-zhu)の<经受>は(140a)の「耐え抜く」の「耐える」に対応し、<住>は安定状態を意味する結果補語である。そして、(141b)の<读完>(du-wan)も同様だが、<读>は(141a)の「読み通す」の「読む」に対応し、<完>は終わるという意味を表す結果補語である。

(139)a.窓格子を使い切ってしまうと次に敷居に手をつけた。

b.用_____光 了 窗棂, 又砍门槛。
 使う 結果補語 LE 窓格子 次に敷居に手をつけた

『遙かなる大地』

⁵⁵ 「～通す」には a,b,c に分類できない「読み通す」が4例あった。この4例は全て「一回読んだ」のような「前項動詞+1回」の中国語に訳されている。下記の表10では#を付す。

⁵⁶ 括弧にある要素がオプションである。

(140)a. ドストエフスキーはそれに耐え抜き、さらに自らの体験を内面で深め…略…

b. 他 经受 _____ 住 了 考验, 而且在心中不断深化自己的亲身体验…略…
彼 耐える 結果補語 LE 試練 さらに自らの体験を内面で深め

『心の危機管理術』

(141)a. ものの分量があまりに多過ぎるので、

b. 郵便的の分量太重、

ものの分量があまりに多過ぎるので、

一息にそこで読み通す訳には行かなかった。

不 能 在 那里 一口气 读 _____ 完。

否定 できる で そこ 一気に 読む 結果補語

『ころ』

次に、パターンⅡは(142b)～(144b)が示すように、日本語の前項動詞に対応する中国語が訳されており、その前に副詞などのような修飾要素を付け加える形で、「～切る」、「～抜く」、「～通す」の意味を表そうとしている。(142b)の<非常相信>(feichang-xiangxin)の<相信>は「信じる」に対応し、<非常>は「信じる」の程度を表す副詞である。(143b)の<太貪心>(tai-tanxin)も同様だが、<貪心>は(143a)の「欲張る」の意味を表し、<太>は「すごく」の意味であり、<貪心>の程度を表している。そして(144b)<一直恪守>(yizhi-keshou)の<恪守>は(144a)の「守る」の意味を表し、「ずっと」を意味する<一直>は<恪守>を修飾し、「守り通す」の意味を表そうとしている。

(142)a. あれは自慢じゃないが、一こく者で、僕達を信じ切っている。

b. 不是我夸口, 武子虽然性子急, 但是 却 非常相信 我们。

あれは自慢じゃないが、一こく者で、でも 逆接 非常に 信じる 僕達

『友情』

(143)a. 慾張抜いて大急ぎで歩いたから咽が渴いて為様があるまい、…略…

b. 我 太 貪心, 紧走慢走, 嗓子干得不行, …略…

私 すごく 欲張る 大急ぎで歩いたから咽が渴いて為様があるまい

『高野聖』

(144)a.胃腸を気にかけて二食主義を守り通し、…略…

b. 因 担心 肠胃 作痛, 我 一直 恪守 一日两餐制, …略…
ため 心配 胃腸 痛む 私 ずっと 守る 一日二食制

『心の危機管理術』

最後に、抽出した対訳例の中では、パターン I とパターン II 以外に、次の(145)～(147)が示すような、パターンとして抽出できないものもある。これらの用例に対応する中国語は、「～切る」、「～抜く」、「～通す」の複合動詞とは関係のない表現で表す。たとえば、(145b)の<吱吱轧轧>(zhizhiyaya)は枯れ切った音を表す擬音語である。また、(146b)の<摆脱>(baituo)は逃れるという意味を表すため、(146a)の「引き抜く」と直接対応していないことが分かる。そして(147a)の「吹き通す」も直接訳されていなく、<寒风凛冽>(hanfeng-linlie)という描写的な表現で表している。

(145)a.枯れ切った音のする戸の裾を抱き上げるように引いて、…略…

b. 从底下连提带拉, 门 便 吱吱轧轧 地 开 了。
(戸の裾を)抱き上げるように引いて、 戸 すでに 擬音語 de 開く LE
『雪国』

(146)a.私にはあなたの為^にその淋しさを根元から引き抜いて上げるだけの力がないんだから。

b.因为 我 没有 力量 使 你 从 根本 上 摆脱
だから 私 否定 力 使役 あなた から 根元 上 逃れる
这种 孤独 的 境地。
こんな 孤独 の 境地

『こころ』

(147)a.冬の夜風が吹き通すフラットホームに立ちながら、電車を待っている間、
…略…

b.我们 站 在 冬夜 寒风 凛冽 的 站台上
私達 立つ に 冬の夜 寒い風 凛冽 の ホーム上
等 车 的 时候、…略…
待つ 電車 の 時

『痴人の愛』

5.2.2 「～切る」「～抜く」「～通す」に対応する中国語の考察

上記で見てきた a.パターンⅠ、b.パターンⅡ、そして、c.その他の3分類が調査したすべての用例の中でそれぞれいくつ出現しているかを、その割合とともに次の表10にまとめている。表10が示すように、パターンとして抽出できたaとbはすべての用例の6割強を占めており、ほかの言い方に変えたりするような対訳は4割弱の割合である。つまり、4割弱の「～切る」、「～抜く」、「～通す」は中国語と形態的に対応していないことが分かる。そして、パターンとして対応しているように見える6割強の用例についてだが、結論を先取りすると、パターンⅠもパターンⅡも「～切る」、「～抜く」、「～通す」の意味を表しきれないのである。

表10 対応する3種類の中国語の割合

	a	%	b	%	c	%	#	%	合計 ⁵⁷
「～切る」	86	32.6	73	27.7	105	39.8	/	/	264
「～抜く」	53	49.1	14	13.0	41	38.0	/	/	108
「～通す」	18	37.5	9	18.8	17	35.4	4	8.3	48
合計	157	37.3	96	22.9	163	38.8	4	0.9	420

5.2.2.1 パターンⅠの考察

上記の(139)～(141)が示すように、パターンⅠのキーワードは訳されている前項動詞の後に付く補語である。しかし、補語をつけることによって、「～切る」、「～抜く」、「～通す」の意味を忠実に表せるのかが問題であるため、補語について考察する。

次の表11に『中日対訳コーパス』(第一版)から抽出した補語をまとめる。表11では、「～切る」、「～抜く」、「～通す」を基本義と拡張義に分けている。基本義の部分はこれらの複合動詞の具体的な動作の意味を表す。たとえば、切断を意味する「はじききる」や「貫通」を表す「打ち抜く」や「貫通」を表す「射通す」などである。そして、拡張義はこれらの複合動詞の抽象化した意味を表す。たとえば、「極度」を表す「疲れきる」や「完遂」を表す「走りきる」、「走り抜く」、「走りとおす」などである。

そして、表11にまとめられている、基本義と拡張義に対応する中国語の補語を観察すると、次の2点に分かる。第1に、「～切る」、「～抜く」、「～通す」は同じ動詞で拡張しているが、中国語は基本義に出ている補語は拡張義に出ていない。たとえば、「～

⁵⁷ 『中日対訳コーパス』の一部の日本語作品は複数の中国語バージョンに対応している。合計数は複数のパターンに使われるものがあるため、表9の基本情報の合計数とは異なる。

切る」の基本義に出ている結果補語<~断>(-duan)と<~掉>(-diao)は「~切る」の拡張義の対応例に見られていない。すなわち、中国語は日本語と異なり、同じ動詞で拡張していないことが分かる。第2に、中国語は同じ補語が複数の日本語に対応している。たとえば、安定状態を意味する結果補語<~住>(-zhu)が「~切る」、「~抜く」、「~通す」のいずれの拡張義にも出ている。また、「完了」を表す方向補語の<~上>(-shang)が「~切る」と「~抜く」の両方の拡張義に出しており、<~下去>(-xiaqu)という複合方向補語が「~抜く」と「~通す」の両方の拡張義に出ている。

表 11 中国語対訳の補語のまとめ

パターン I: 中日対訳コーパスから抽出した 中国語対訳 (補語) のまとめ			
	「~切る」	「~抜く」	「~通す」
基本義	はじき切る 打ち切る ぶち切る	引き抜く 打ち抜く 切り抜く	射通す つき通す
	<~断>、<~掉>	<~透><~穿> <~出><~通> <~破><~掉> <~去> <~下来><~出来>	<~透> <~穿>
拡張義	疲れきる 冷えきる 走りきる	追いぬく 耐えぬく 勤めぬく	読みとおす 走りとおす 隠しとおす
	<~住><~完><~过><~光> <~上><~透><~尽><~好> <~紧><~下><~狂><~极> <~上来><~下来><~过来> <~出来><~到底>	<~住> <~过> <~上> <~下去>	<~住> <~完> <~下去> <~到底>

上記の言語事実を踏まえ、パターン I を次のようにまとめる。日本語の「~切る」、「~抜く」、「~通す」は第4章で説明しているように、完了時点とそこに至るまでのプロセスの両方に注目する特徴を持っている。たとえば、「~切る」は「変化スケール」

に焦点が当たっている。「～抜く」は目標に向かって、段階的な動作の実現に注目するという意味特徴を持っている。そして、「～通す」は始点から終点までの動作の過程そのものに注目する。つまり、「～切る」、「～抜く」、「～通す」は完了時点に至るという点において同様であるため、「完了」を表す形式とされている。しかし、完了時点に至るまでのプロセスに焦点の当て方が異なるため、「～切る」、「～抜く」、「～通す」が表す「完了」の意味特徴も異なる。それに対して、中国語は表 11 にまとめられているように、様々な補語が出ている。そこから、中国語はプロセスのあり方ではなく、動作をした結果のあり方に焦点が当たっていることが考えられ、両言語の発想が異なることが明らかである。これが、中国語の補語は「～切る」、「～抜く」、「～通す」のニュアンス(意味)を表しきれない原因だと考える。

5.2.2.2 パターンⅡの考察

本項では、パターンⅡは「～切る」、「～抜く」、「～通す」の意味を忠実に表せるかについて考察する。パターンⅡの修飾要素も、アスペクトマーカ―も必ずしも出現される要素ではないため、(148)が示すように、前項動詞のみ訳される場合、後項動詞をつけなくても対応することになる。(148a)の「逃れきる」に対応する中国語は(148b)の<逃脱>(taotuo)である。「逃れる」を意味する<逃脱>(taotuo)は辞書に登録されており、(148a)の「逃れきる」の「～切る」をつけなくても対応するため、後項動詞「～切る」の意味を表していないことになる。

(148)a. いまは自分を誰にも見られたくない。しかしいまこそ本当の闘いだと彼は思った。この罪からどうやって逃れきるか。

b. 此刻他不愿意任何人、可是他觉得往后才是真正的斗争，
いまは自分を誰にも見られたくない しかしいまこそ本当の闘いだと彼は思った
怎么 能 逃脱 这个 罪名 呢？
どうやって できる 逃れる この 罪 か

『青春の蹉跌』

続いて、上記で挙げている(142)～(144)を考察すると、修飾要素をつけても、「～切る」、「～抜く」、「～通す」の意味を表しきれないことが分かる。たとえば、(142b)の<非常相信>(feichang-xiangxin)、(143b)の<太贪心>(tai-tanxin)、そして(144b)の<一直恪守>(yizhi-keshou)を逆に日本語に直訳すると、それぞれ、「(非常に)信じる」、「(すごく)欲張る」、「(ずっと)守る」になる。「(非常に)信じる」、「(すごく)欲張る」、「(ずっと)守

る」はそれぞれ「信じ切る」、「欲張り抜く」、「守り通す」と意味が重なっている部分があっても同様ではないことが明らかである。

(142)a. あれは自慢じゃないが、一こく者で、僕達を信じ切っている。

b. 不是我夸口，武子虽然性子急，但是却非常相信我们。
あれは自慢じゃないが、一こく者で、でも逆接非常に信じる僕達
『友情』(再掲)

(143)a. 慾張抜いて大急ぎで歩いたから咽が渴いて為様があるまい、…略…

b. 我太贪心，紧走慢走，嗓子干得不行，…略…
私 すごく 欲張る 大急ぎで歩いたから咽が渴いて為様があるまい
『高野聖』(再掲)

(144)a. 胃腸を気にかけて二食主義を守り通し、…略…

b. 因 担心 肠胃 作痛，我 一直 恪守 一日两餐制，…略…
ため 心配 胃腸 痛む 私 ずっと 守る 一日二食制
『心の危機管理術』(再掲)

従って、パターンⅡも「～切る」、「～抜く」、「～通す」の意味を表しきれないことが明らかである。

以上をまとめると、「～切る」、「～抜く」、「～通す」は4割弱が統一したパターンの中国語に対応していない。そして、6割強がパターンⅠとパターンⅡに対応しているが、対照の結果、パターンⅠでもパターンⅡでも「～切る」、「～抜く」、「～通す」のニュアンス(意味)を表しきれないことを判明した。その原因が日本語の「～切る」、「～抜く」、「～通す」は完了時点とそこに至るまでのプロセスに注目する特徴を持っているのに対して、中国語はその両方を同時に言語化することが難しいという両言語の発想の違いにあると考える。

5.3 日本語と中国語のアスペクトの対照 - 「完了」をめぐる

本論文の第1章の冒頭で述べているように、アスペクトは元々ロシア語を含むスラブ諸語にある概念であり、一つの動詞は「完了体」と「不完了体」のペアとなる形態的な対立を持ち、テンスとは別に、形態論的なカテゴリーの一つである。こういった形態的なアスペクトのカテゴリーを持たない日本語のアスペクトについて、本研究は認知言

語学的な観点から「完了」の意味をめぐって、第 1 章で(3)のような体系化したアスペクト分類を提示した。

(3)A.ズームアウトし、全体に焦点を当てる「完了」

- ①ズームアウトし、全体を捉える一次的アスペクト形式：「する」
- ②ズームアウトし、全体を捉え、更に隣接する時空間も視野に入れる二次的アスペクト形式：「ている」（「結果状態」の用法）、「-ておく」、「-てしまう」、「-てある」

B.ズームインし、最終部分の境界線に焦点を当てる「完了」

- ③三次的アスペクト形式：「～切る」、「～抜く」、「～通す」

(再掲)

そして、日本語と同様に、形態的なアスペクトのカテゴリーを持たない中国語のアスペクトは日本語のアスペクトとどのような相違点と共通点を持っているのかを明らかにするために、5.1 節で日本語の二次的アスペクト形式の「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」について中国語との対照を行い、5.2 節で日本語の三次的アスペクト形式の「～切る」、「～抜く」、「～通す」について中国語との対照を行った。その結果として、日本語は(3)A の①と(3)A の②を区別するが、中国語は(3)A の①と(3)A の②の区別を言語化しない傾向が見られる。そして、中国語にも(3)A の①と(3)B の区別が見られるが、焦点の当て方が日本語と異なる。

具体的には、調査した用例の中で「-ておく」と「-てしまう」は中国語に訳されていない割合が 9 割程度あるため、この 2 つの表現が中国語によって表現されない傾向が見られる。そして、「-てある」及び三次的アスペクト形式の「～切る」、「～抜く」、「～通す」は 4 割近くの割合で中国語に訳されていないことから、これらの形式は全体的に中国語で表現しにくい傾向が見られる。また、何らかの形で中国語と対応するこの 6 つの日本語のアスペクト形式についてだが、二次的アスペクト形式の「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」の意味を中国語によって部分的に表現しても、意味全般は表現できないことが判明した。そして、三次的アスペクト形式の「～切る」、「～抜く」、「～通す」は完了時点とそこに至るまでのプロセスに注目する特徴を持っているのに対して、中国語はその両方を同時に言語化することが難しいことを明らかにした。

しかし、5.1 節と 5.2 節の対照データから分かるように、この 6 つの日本語のアスペクト形式が全て何らかの形で中国語の「完了」表現と対応する。たとえば、図 8 が示すような二次的アスペクト形式の「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」と中国語の完了表

現との対応、そして三次的アスペクト形式の「～切る」、「～抜く」、「～通す」と「a. パターン I : (修飾要素)+前項動詞+補語」との対応などである。

表 8 「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」に対応する中国語の「完了」表現(再掲)

「完了」の意味を表す中国語の対訳				
	対応する 中国語	用例 数	対応「有」に おける割合	すべての対訳例に おける割合
「-ておく」	了 过 補語 后 以后 完毕 已经	18	22%	2%
「-てある」	了 过 補語	152	31%	20%
「-てしまう」	了 过 補語	228	100%	9%

これらに対応する中国語には大きく動態助詞の“了”(LE)と“过”(GUO)⁵⁸、そして、完了を表す動補構造といった3種類の対応が見られる。伝統的な中国語学では、動態助詞の“了”(LE)と“过”(GUO)が中国語のアスペクト形式とされているが、完了を表す動補構造はアスペクトを表す形式として扱われていない。しかし、中国語の動補構造は日本語の二次的アスペクト形式にも三次的アスペクト形式にも対応している。また、讚井(2002)は完了の概念を出発点とし、中国語のアスペクトについて次のように述べている。

そもそも英語の *perfective* あるいはロシア語の *совершенный* とは本来の語義において「完了の」という意味ではなく、「完全な」という意味である。文法用語としては「動作の完全遂行」を意味する。…(略)…ロシア語動詞の *perfective* に近似する中国語の表現は“看完”“关上”“写好”“买到”のような補語付きのフレーズであり、動態助詞の“了”ではない。(pp.73-73)

つまり、日本語は「完成相」を表す「スル」(シタ)と「継続相」を表す「シテイル」(シテイタ)の対立をアスペクトとして規定するだけで、日本語のアスペクトを捉えきれないのと同様に、中国語は動態助詞の“了”(LE)、“过”(GUO)、“着”(ZHE)をアスペクトとして規定するだけで、中国語のアスペクトも捉えきれず、完了を表す動補構造の位置づけが問題となる。

⁵⁸中国語のアスペクト(aspect)は、それぞれ3つの動態助詞、「了 le」「着 zhe」「过 guo」によって表される。(伊藤さとみ・于康 2000: p.219)。“了”(LE)は完了を表すアスペクト形式とし、“着”(ZHE)は持続を表すアスペクト形式とし、そして“过”(GUO)は経験を表す形式としている。

上記で挙げている(139)のような「完了」を表す結果補語、そして、次の(149)のような「完了」を表す方向補語は動作をした結果の在り方に注目する特徴が見られる。結果補語は動作をした後の結果に注目するため、動作をした後、どのような結果状態にあるのかということに焦点が当たっているのである。たとえば、(139b)の“光”(guang)は窓格子を使った結果、窓格子が全部無くなったという結果状態にあることを表す。また、方向補語は状態の変化を空間の位置概念によって表す。つまり、「位置変化し結果(位置)はどこにあるのか」から「状態変化し、結果はどういう状態にあるのか」に繋がる。従って、方向補語が結果補語と同様に、「結果の在り方」に注目する捉え方だと考えられる。たとえば、(149b)の方向補語“上”(shang)は、空間的な位置変化から捉えると、山に登り、山の上に移動していくという位置変化である。また、この位置変化は山に登る動作を行った結果としても捉えられる。つまり、山に登る動作を行い、結果的に山の上にいるということである。

(139)a.窓格子を使い切ってしまうと次に敷居に手をつけた。

b.用 光 了 窗棂, 又砍门槛。
 使う 結果補語 LE 窓格子 次に敷居に手をつけた

『遙かなる大地』(再掲)

(149)a.本当に登りきることができるのだろうか。

b.但 我 仍 在 怀疑 我 最终
 でも 私 相変わらず ている 疑う 私 最終的に
 能 登上 山顶。
 できる 登りきる 山頂

『五体不満足』

それに対して、動態助詞の“了”(LE)と“过”(GUO)が表す「完了」について、讃井(2002)は次のように述べている。

動態助詞“了”は「動作・状態の発生の局面」を特に強調する場合にのみ使われ、発生したのち持続するか、終結するかについては何も積極的に主張することはない。…(略)…動態助詞“过”は「動作・状態が発生し、現在とは切り離された過去においてすでに終結している局面」を特に強調する場合のみ使われる。(pp.74-76)

つまり、動態助詞の“了”(LE)と“过”(GUO)は出来事が発生したかどうかに関心が当たっており、ズームアウトし、出来事を丸ごと捉える完了形式だと考えられる。それに対して、「結果の在り方」に注目する結果補語と完了を表す方向補語などは出来事を丸ごと捉えるのではなく、ズームインし、出来事の結果に関心を当てる完了形式だと考えられる。そのため、(150)が示すように、完了を表す形式について、中国語がズームアウトとズームインの2通りの捉え方ができる点が日本語と共通している。そして、形態的なアスペクトのカテゴリーを持たない中国語のアスペクトを(150)のように体系的に捉えられると考えられる。

(150)A.ズームアウトし、出来事が発生したかどうかに関心を当てる「完了」

動態助詞の“了”(LE)、“过”(GUO)など

B.ズームインし、出来事の結果の在り方に注目する「完了」

結果補語、完了を表す方向補語など

第6章 結語と今後の課題

本研究は、「完了」の意味特徴をめぐって、寺村(1984)が打ち出した日本語のAspectに関する体系的な分類、すなわち、一次的、二次的、三次的Aspectの分類を意味の観点から考察した。具体的には、本研究が研究対象として取り上げた二次的Aspect形式「-ておく」、「-てしまう」、「-てある」、そして、三次的Aspect形式「～切る」、「～抜く」、「～通す」は、それぞれ、どのような「完了」の意味を表すのかをめぐって、意味記述と意味比較を行い、これらの形式が表す「完了」の意味の違いを明らかにし、第1章で挙げている(3)を検証した。また、(3)を検証した上で、中国語との対照を行い、日本語と中国語のAspectについての相違点・共通点を考察した。

(3)A.ズームアウトし、全体に焦点を当てる「完了」

- ①ズームアウトし、全体を捉える一次的Aspect形式：「する」
- ②ズームアウトし、全体を捉え、更に隣接する時空間も視野に入れる二次的Aspect形式：「ている」（「結果状態」の用法）、「-ておく」、「-てしまう」、「-てある」

B.ズームインし、最終部分の境界線に焦点を当てる「完了」

- ③三次的Aspect形式：「～切る」、「～抜く」、「～通す」

(再掲)

このように、研究対象となる6つの形式が表す「完了」の意味特徴を明らかにしたこと、(3)を検証し、更に中国語との対照の意義を5点に分け、述べる。

第1に、これらの形式は個別形式として、それぞれどのような「完了」の意味を表すのかを明らかにしたことに意義がある。しかし、それだけではなく、第2章で問題提起をしたように、日本語は「完了」を表すのに、なぜ(35a)の一次的Aspectがあり、そして(35b)の二次的Aspectもあり、更に(35c)の三次的Aspectまであるのか、という問いに対する答えを見出すことができた。

(35)a. スキー大会をめざし、酷寒の中、毎日毎日、6kmのコースを走った。

『防衛白書::昭和54年版』(BCCWJ)

b. バタヴィアはこれをやすやすと駆けて、真っ先にゴールにはいり、さらに余力で二周も走ってしまった。 『文久元年の万馬券::日本競馬事始め』(BCCWJ)

c. そしていま目の前に広がる四二・一九五キロという道を、自分の足で走りきることができる。 『わたしたちの革命::be proud of yourself』(BCCWJ) (再掲)

すなわち、「る」形の一次的アスペクトの「完了」は「継続」の概念に対立するものであり、出来事をひとまとまりに捉えるという「完了」の意味を表す。そして、テ形で接続する二次的アスペクトの「-ておく」、「-てしまう」、「-てある」は、ズームアウトし、出来事全体を捉える「完了」として、一次的アスペクトの「る」形と共通している。一方、これらの形式は出来事が「完了」なのか「継続」なのかに焦点が当たっておらず、出来事の「完了」をベースに隣接する時空間の出来事との関係を視野に入れる点が一次的アスペクトと異なる。更に、隣接する時空間の出来事との関係に焦点が当たっているゆえに、二次的アスペクトの「-ておく」、「-てしまう」、「-てある」には「準備」や「マイナス評価」などのムード的な意味を伴うと考えられる。これが第2章で提起した第3の問題点、なぜ(36b)と(36c)は(36a)の「完了」の意味を含意しながら、ムード的な意味を伴うのかに対する答えであり、本研究の第2の意義でもある。

(36)a. 栄はミギちゃんのために弁当を作った。

『文人暴食』(BCCWJ)

b. つけ合わせに使うものなども常に作っておいていつでも使えるようにしておかなくてはならないが、それも出盛りの安いときに作っておく。

『和食の力』(BCCWJ)

c. 味は美味しいが、大量に作ってあるシチューを見て、今週の献立が一目で分かるのが何とも哀しいところ(涙)。

『実録鬼嫁日記 :: 仕打ちに耐える夫の悲鳴』(BCCWJ)

(再掲)

第3に、連用形で接続する三次的アスペクトの「～切る」、「～抜く」、「～通す」が表す「完了」の意味の違いは完了時点に至るまでのプロセスの違いによるものであるため、ズームインし、最終部分の境界線に焦点を当てる「完了」として、一次的、二次的アスペクトが表す「完了」と異なる。このように、寺村(1984)が形態論の観点から分類した日本語の一次的、二次的、三次的アスペクトに、意味の観点から意義を与えることができた。これが本研究の第3の意義と考える。

第4に、日本語のアスペクトの体系的な研究にも意義がある。「-ている」は「進行」を表す形式として「する」と対立しているが、「結果状態」を表す「-ている」、そして、工藤(1995)が述べている「経験パーフェクト」を表す「-ている」などはテ形で接続する二次的アスペクトとの共通点が見られる。そのため、工藤(1995)のように、日本語のアスペクトの対立を「する」と「-ている」だけに求め、ほかの時間と関係のある、す

すべての形式をアスペクチュアリティーとして扱うのは、形態論の観点からも意味の観点からも問題があると考えられる。一方、本研究は、意味の観点から、寺村(1984)が形態論の観点から分類した一次的、二次的、三次的アスペクトに意義を与えることができたため、日本語のアスペクト形式を統一的、体系的に扱うという点からすると意義がある。

第5に、日本語の二次的アスペクト形式「-ておく」、「-てしまう」、「-てある」、そして、三次的アスペクト形式「～切る」、「～抜く」、「～通す」について中国語との対照を行った結果、日本語は(3)Aの①と(3)Aの②を区別するが、中国語は(3)Aの①と(3)Aの②の区別を言語化しない傾向が見られた。そして、中国語にも(3)Aの①と(3)Bの区別が見られるが、焦点の当て方が日本語と異なることを明らかにした。つまり、日本語と中国語のアスペクトの対照を通して、現代日本語のアスペクトの特徴がより明確に浮かび上がった。また、中国語が日本語と同様に、ズームアウトとズームインの2通りの捉え方ができることを提案することによって、中国語のアスペクトを総括的に捉えられるだけでなく、アスペクトの通言語的な普遍性にも示唆を与えた。

しかし、「-ている」をどのように扱うかに関しては問題点が残っている。つまり、「進行」を表す「-ている」は出来事の「部分」に焦点が当たっているのに対して、「結果状態」や「経験パーフェクト」を表す「-ている」は丸ごと捉えられた出来事と現在との繋がりを表す。そのため、「-ている」は一次的アスペクトと二次的アスペクトの両方の特徴を有することになり、どのように統一的に捉えるかが今後の課題としたい。また、本研究は、二次的アスペクトの「-ておく」、「-てある」、「-てしまう」、そして、三次的アスペクトの「～切る」、「～抜く」、「～通す」の6つの形を取り上げ、「完了」の意味をめぐって考察したが、今後更に研究対象を広げ、検証していくことを課題としたい。更に、中国語の方向補語の文法化や結果補語の意味などについても個別例を取り上げ、検証していくことを今後の課題としたい。

参考文献

使用コーパス

1. 『中日対訳コーパス』(第一版)2002 北京日本学研究中心
2. 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』利用した検索ツール「中納言」
<http://chunagon.ninjal.ac.jp/>
3. 『朝日新聞』朝刊オンラインデータ
4. 『青空文庫』 <http://www.aozora.gr.jp>
5. 『新潮社』CD-ROM 版 新潮文庫の絶版 100 冊 新潮社(2000 年)

参考文献：

1. 日本語文献

- 秋本実治(編)(2001)『文法化』英潮社
- 安藤節子(2012)「コーパスに見るテアル表現の意味用法と共起動詞：日本語教育/学習の観点から」『桜美林言語教育論叢』8、pp.1-13、桜美林大学
- 青木博史(2004)「複合動詞「～キル」の展開」『国語国文』第七十三卷第九号、pp.35-49、中央図書出版社
- 深田智・仲本康一郎(2008)『概念化と意味の世界-認知意味論のアプローチ-』山梨正明(編)講座認知言語学のフロンティア③、研究社
- グループ・ジャマシイ(1998)『日本語文型辞典』くろしお出版
- 藤井由美(1992)「「てしまう」の意味」言語学研究会(編)『ことばの科学』5、むぎ書房
- 原沢伊都夫(1998)「テアル形の意味-テイル形との関係において-」『日本語教育』98、pp.13-24、日本語教育学会
- 原沢伊都夫(2005)「テアルの意味分析-意図性の観点から」『日本語文法』5(1)、pp.20-38、日本語文法学会
- 原沢伊都夫(2007)「テアル 2 形式(能動型と受動型)における話者の認識」『静岡大学国際交流センター紀要』1、pp.1-8、静岡大学
- 長谷川ユリ(1998)「テオクの意味」『大阪教育大学紀要 I』47、pp.1-8、大阪教育大学
- 橋本修・松本哲也(2000)「「てしまう」と「ない」との共起について」『筑波日本語研究』5、pp.1-17、筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科日本語学研究室
- 姫野昌子(1980)「複合動詞「-きる」と「-ぬく、-とおす」」『日本語学校論集』7号、東京外国語大学日本語学校、pp.23-46
- 姫野昌子(1999)『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房

- 廣瀬裕子(2006)「動詞「おく」の文法化のメカニズム-本動詞「おく」と補助動詞「～ておく」の意味的関連性」『日本認知言語学会論文集』6、pp.204-214、日本認知言語学会
- 本田啓(2013)『知覚と行為の認知言語学』開拓社
- 星野和子(2000)「「しまう」から「てしまう」へ：用法と意味の変容」『日本文學』93、pp.95-111、東京女子大学
- 方美麗(2004)『移動動詞と空間表現』白帝社
- 堀江薫(2001)「膠着語における文法化の特徴に関する認知言語学的考察-日本語と韓国語を対象に」山梨正明他(編)『認知言語学論考』1：pp.89-131、ひつじ書房
- 池上嘉彦(1975)『意味論』大修館書店
- 池上嘉彦(1981)『「する」と「なる」の言語学-言語と文化のタイポロジーへの試論-』大修館書店
- 池上嘉彦(2000)『「日本語論」への招待』講談社
- 井上優(2001)「中国語・韓国語との比較から見た日本語のテンス・アスペクト」『月刊言語』Vol.30、pp.26-31、大修館書店
- 石井正彦(1988)「接辞化の一類型-複合動詞後項動詞の補助動詞化-」『方言研究年報』30 和泉書院
- 石井正彦(2007)『現代日本語の複合語形成論』ひつじ書房
- 石川慎一郎(2012)『ベーシックコーパス言語学』ひつじ書房
- 一色舞子(2011)「日本語の補助動詞「-てしまう」の文法化：主観化、間主観化を中心に」『日本研究』15、pp.201-221、高麗大学日本研究センター
- 伊藤さとみ・于康(2000)(訳)「現代中国語のアスペクトについて」『中国語言語学情報 2 テンスとアスペクト I』好文出版
- 李良林(2006)「複合動詞後項における意味の広がり-「～ぬく」の場合を対象に」『国語学研究』(45)、pp.86-100、東北大学文学部『国語学研究』刊行会
- 李暲洙(1997)「中間的複合動詞「切る」の意味用法の記述：本動詞「切る」と前項動詞「切る」、後項動詞「～切る」と関連づけて」『世界の日本語教育』第7号、国際交流基金日本語国際センター、pp.219-232
- 影山太郎(1993)『文法と語形成』ひつじ書房
- 影山太郎(1996)『動詞意味論』くろしお出版
- 神永正史(2008)「テアル構文の動詞構成：存在文との近さから」『筑波日本語研究』(13)、pp.33-50、筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科日本語学研究室

- 神永正史(2009)「中世末期以降のテアル構文-狂言台本虎明本を主資料にして」『日本語と日本文学』(49)、pp.1-19、筑波大学国語国文学会
- 神永正史(2009)「虎明本のテアル構文-競合という観点から」『筑波日本語研究』(14)、pp.35-52、筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科日本語学研究室
- 笠松郁子(1993)「「しておく」を述語にする文」『ことばの科学』6、言語学研究会編むぎ書房
- 柏木成章(2008)「「てしまう」論」『外国語学会誌』38、pp.91-97、大東文化大学外国語学会
- 菊地康人(2009)「「ておく」の分析」『東京大学留学生センター教育研究論集』15、pp.1-20、東京大学留学生センター
- 木村英樹(2012)『中国語文法の意味とカタチ-「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究-』白帝社
- 金田一春彦(1976)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
- 金水敏(2000)「時の表現」金水敏・工藤真由美・沼田善子(共著)『時・否定と取り立て』岩波書店
- 金水敏(2009)「意思性・主観性と文脈」由本陽子・岸本秀樹(編)『語彙の意味と文法』くろしお出版
- 北村よう(2011)「存在文の日中対照-テイル/テアル/ラレテイルとそれに対応する中国語」『東海大学紀要 国際教育センター』(1)、pp.21-27、東海大学国際教育センター
- 工藤真由美(1995)『アスペクト・テンス体系とテキスト』ひつじ書房
- 工藤真由美(2014)『現代日本語ムード・テンス・アスペクト論』ひつじ書房
- 国広哲弥(1982)『意味論の方法』大修館書店
- 国広哲弥(1985)「認知と言語表現」『言語研究』88、pp.1-19、日本言語学会
- 国広哲弥(1997)「言葉の意味 意味が生まれるとき(2)」『月刊日本語』アルク
- 国広哲弥(2006)『日本語の多義動詞』大修館書店
- 黄麗雪(1994)「「～シテアル」と「～シテオク」についての考察-置き換えから見た意味と表現性の共通点・相違点」『東北大学文学部日本語学科論集』4、pp.13-25、東北大学文学部日本語学科
- 許永蘭(2004)「複合動詞の後項「～きる」と「～つくす」の類義分析」『第2回名古屋大学日本語教育研究集会予稿集』pp.26-29、名古屋大学日本語教育研究集会実行委員会
- 許臨揚(2012)「複合動詞「～切る」の意味と用法-認知言語学の意味関連の関連から-」『日本認知言語学会論文集』第12巻、pp.285-297、日本認知言語学会

- 許臨揚(2013)「複合動詞「～抜く」の意味と用法-認知言語学の意味関連の観点から-」
『日本認知言語学会論文集』第13巻、pp.27-36、日本認知言語学会
- 許臨揚(2014)「認知言語学的な観点から見た「-ておく」の意味と用法-「場を占める」
を中心とする意味のネットワーク」『日本認知言語学会第15回大会予稿集』
pp.219-222、日本認知言語学会
- 益岡隆志(1992)「日本語の補助動詞構文-構文の意味の研究に向けて」文化言語学編集
委員会(編)『文化言語学-その提言と建設-』三省堂
- 益岡隆志(1993)『24週日本語文法ツアー』くろしお出版
- 益岡隆志(2000)『日本語文法の諸相』くろしお出版
- 益岡隆志(2007)『日本語モダリティ探究』くろしお出版
- 町田健(1989)『日本語の時制とアスペクト』(NAFL選書9)、アルク
- 町田健(2001)「外国語との対照から時制をとらえる」『月刊言語』Vol.30、pp.18-27、
大修館書店
- 松本曜(編)(2003)『認知意味論』大修館書店
- 三宅登之(2010)「日本語との対照から見た中国語のアスペクト」『語学研究所論集』15、
pp.193-213、東京外国語大学語学研究所
- 糸山洋介(1992)「多義語の分析-空間から時間へ」カッケンブッシュ寛子他(編)『日本語
研究と日本語教育』pp.185-199、名古屋大学出版会
- 糸山洋介(2002)『認知意味論のしくみ』(シリーズ・日本語のしくみを探る)、研究社
- 糸山洋介(2009)『日本語表現で学ぶ入門からの認知言語学』研究社
- 糸山洋介(2010)『認知言語学入門』研究社
- 糸山洋介・深田智(2003)「意味の拡張」『認知意味論』松本曜(編)、大修館書店
- 森田良行(1977)『基礎日本語1 意味と使い方』角川書店
- 森田良行(1989)『基礎日本語辞典』角川書店
- 守屋三千代(1994)「「シテシマウ」の記述に関する一考察」『早稲田大学日本語研究教育
センター紀要』6、pp.49-70、早稲田大学
- 長野ゆり(1995)「「～ておく」の用法について」『現代日本語研究』2、pp.155-163、
大阪大学文学部現代日本語学講座
- 中川正之・定延利之(編)(2006)『言語に現れる「世間」と「世界」』くろしお出版
- 中島孝幸(1999)「結果を表す構文について：テアルとラレテイル」『三重大学日本語学
文学』10、pp.45-54、三重大学日本語学文学研究室
- 中野はるみ(2001)「終結相「してしまふ」の意味」『日本文学論集』第27号、pp.72-82、
大東文化大学大学院日本文学専攻院生会

- 中野はるみ(2011)「「～てしまう」に含まれる「つ」「ぬ」のモダリティー」『長崎国際大学論叢』1、pp.235-249、長崎国際大学
- 中島紀子(2006)「複合動詞に関する一考察-「～きる」「～とおす」「～ぬく」の比較から」『国文学踏査』18、pp.271-262、大正大学国文学会
- 西川真理子(1996)「「てしまう」の本来的機能」『奥田博之教授退官記念論集 言語と文化の諸相』pp.75-88、英宝社
- 西尾寅弥(1964)『講座現代語第六巻 口語文法の問題点』明治書院
- 野田高弘(2010)『『今昔物語集』のアスペクト形式 V テイル・テアルについて』『日本語の研究』6(1)、pp.1-15、日本語学会
- 野村益寛(2007)「認知言語学から見た日本語アスペクト」『日本語学』26、pp.6-12、明治書院
- 奥田靖雄(1978)「アスペクトの研究をめぐって-金田一的段階-」『国語国文』8号[奥田靖雄(1985)『ことばの研究・序説』に再録(東京：麦書房、pp.85-104)]
- 岡智之(2001)「テイル(テアル)構文の認知言語学的分析-存在論的観点に基づくアスペクト論の展開」『日本認知言語学会論文集』1、pp.132-142、日本認知言語学会
- 小俣佳啓(2007)「複合動詞「～きる」「～ぬく」「～とおす」について」『外国語学会誌』37、pp.211-222、大東文化大学
- 大場美穂子(2002)「日本語の補助動詞「しまう」の意味」『マテシス・ユニウェルサリス』4(1)、pp.143-157、獨協大学外国語学部言語文化学科
- 大場美穂子(2004)「補助動詞「おく」の使用制限についての覚書」『相模女子大学紀要』A、人文・社会系 68、pp.1-9、相模女子大学
- 大場美穂子(2005)「補助動詞「おく」についての一考察」『東京大学留学生センター教育研究論集』14、pp.19-33、東京大学留学生センター
- 大堀壽夫(2002)『認知言語学』東京大学出版会
- 大友麻子(2005)「アスペクト関数としての CUT と「切る」」影山太郎(編)『レキシコン フォーラム NO.1』pp.201-23、ひつじ書房
- 劉綺紋(2006)『中国語のアスペクトとモダリティ』大阪大学出版会
- 定延利之(1999)「空間と時間の関係-「空間的分布を表す時間語彙」をめぐって」『日本語学』18(9)、pp.24-34、明治書院
- 讃井唯允(2002)「コムリーのアスペクト論と日本語・中国語のアスペクト体系」『日本語と中国語のアスペクト』pp.67-77、白帝社
- 佐藤信夫(1992)『レトレックの感覚』講談社
- 瀬戸賢一(1986)『レトリックの宇宙』海鳴社

- 柴田武他(1976)『ことばの意味 辞書に書いていないこと』平凡社
- 嶋田紀之(2011)「「V である」構文について：構文と文法化の視点より」『日本認知言語学会論文集』11、pp.341-351、日本認知言語学会
- 白井恭弘(2004)「非完結相「ている」の意味決定における瞬間性の役割」佐藤滋・堀江薫・中村渉(編)『対照言語学の新展開』ひつじ書房
- 城田俊(1998)『日本語形態論』ひつじ書房
- 副島健作(2003)「シテアルとスルーシテイルとの関係について」『留学生教育：琉球大学留学生センター紀要』1、pp.1-15、琉球大学
- 副島健作(2007)『日本語のアスペクト体系の研究』ひつじ書房
- 須田義治(2007)「現代日本語のアスペクト研究」『日本語学』26、pp.13-21、明治書院
- 須田義治(2010)『現代日本語のアスペクト論』ひつじ書房
- 須賀一好 早津恵美子(1995)『動詞の自他』ひつじ書房
- 杉村泰(2003)「てオク構文とテアル構文の非対称性について」『名古屋大学言語文化論集』24(2)、pp.95-110、名古屋大学言語文化部・国際言語文化研究科
- 杉村泰(2008)「複合動詞「-切る」の意味について」『言語文化研究叢書』、pp.63-79、名古屋大学大学院国際言語文化研究科
- 杉本武(1991)「「てしまう」におけるアスペクトとモダリティ」『九州工業大学情報工学部紀要』人文・社会科学篇 4、pp.109-126、九州工業大学
- 杉本武(1992)「「てしまう」におけるアスペクトとモダリティ(2)」『九州工業大学情報工学部紀要』人文・社会科学篇 5、pp.61-73、九州工業大学
- 鷲見幸美(2001)「日本語使役移動動詞「とおす」の多義構造」『日本認知言語学会論文集』1、pp.99-109、日本認知言語学会
- 鷲見幸美(2008)「類義語ミトオス・ミヌクの意味分析-心はどこに隠れているのか」『言語文化研究叢書』29(2)、pp.361-376、名古屋大学大学院国際言語文化研究科
- スティーブン・ピンカー(2009)、幾島幸子・桜内篤子(訳)『思考する言語』[中]日本放送出版協会
- 鈴木泉子(2002)「テアル構文について-モノの存在と効果の存在」『津田塾大学紀要』34、pp.129-139、津田塾大学紀要委員会
- 鈴木重幸(1957)「日本語の動詞のすがた(アスペクト)について-～スルの形と～シテイルの形-」[金田一春彦編(1976)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房 所収]
- 鈴木智美(1998)「「～てしまう」の意味」『日本語教育』97、pp.48-59、日本語教育学会
- 鈴木康之(2002)「アスペクト研究の半世紀」『日本語と中国語のアスペクト』pp.1-13、白帝社

- 高橋太郎(1969)「すがたともくろみ」教育科学研究会国語部会文法講座テキスト [金田一春彦編(1976)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房 所収]
- 宝島格・今仁生美(2009)「図形的視点から見た「通す」「通る」の用法」『名古屋学院大学論集、言語・文化篇』20(2)、pp.1-10、名古屋学院大学総合研究所
- 田村敏広(2013)「言語のアスペクト的性質を基盤とした話者の感情表出：日本語の補助動詞「てしまう」と英語の Get 受動文を例に」『静岡大学教育研究』9、pp.1-9、静岡大学大学教育センター
- 田中衛子(2004)「類義複合動詞の用法一考-日本語教育の視点から」『言語と文化』pp.63-79、愛知大学語学教育研究室
- 田中茂範・松本曜(1997)『空間と移動の表現』研究社
- 谷口秀治(2000)「「～ておく」に関する一考察-終結性を持つ用法を中心に」『日本語教育』104、pp.1-9、日本語教育学会
- 寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 坪井美樹(1976)「近世のテイルとテアル」『佐伯梅友博士喜寿記念国語学論文集』表現社
- 辻幸夫(2003)『認知言語学への招待』大修館書店
- 角田太作(1991)『世界の言語と日本語』くろしお出版
- 張平(1985)「「～しておく」の意味構造とその中国語の訳」『日本語教育』55、pp.84-96、日本語教育学会
- 張威(1998)『結果可能表現の研究-日本語・中国語対照研究の立場から-』くろしお出版
- 張賢善(2010)「「～てある」文と「～ておく」文の違いについて-文法構造の観点から-」『言語・地域文化研究』16、pp.203-213、東京外国語大学大学院
- 張又華(2011)「主観的・間主観的意味の発生をめぐって：日本語アスペクト形式「テシマウ」「チャウ」を例に」『言語科学論集』17、pp.131-142、京都大学大学院人間・環境学研究科言語科学講座
- 浦木貴和(2010)「テ形節とスケール構造からみたテアル構文の意味分析」『日本語・日本文化研究』20、大阪大学日本語日本文化教育センター
- 内山潤(2012)「補助動詞「テシマウ」のアスペクトについて」『金城学院大学論集』人文科学編 8(2)、pp.1-11、金城学院大学
- 山部順治(2001)「補助動詞「おく」の意味」『ノートルダム清心女子大学紀要』日本語・日本文学編 25(1)、pp.53-78、ノートルダム清心女子大学

- 山部順治(2005a)「補助動詞「おく」の諸用法の共時的つながりと通時的拡張経路(第1部)標準語的な用法」『ノートルダム清心女子大学紀要』日本語・日本文学編 29(1)、pp.76-45、ノートルダム清心女子大学
- 山部順治(2005b)「補助動詞「おく」の諸用法の共時的つながりと通時的拡張経路(第2部)主語の状態が描写される」『清心語文』7、pp.1-24、ノートルダム清心女子大学
日本語日文学会
- 山部順治(2007)「補助動詞「おく」の諸用法の共時的つながりと通時的拡張経路(第3部・止)非情物主語」『ノートルダム清心女子大学紀要』日本語・日本文学編 31(1)、pp.15-42、ノートルダム清心女子大学
- 山森良枝(2010)「「てある」・「ておく」構文について」『神戸言語学論叢』第7号、pp.107-120、神戸大学
- 山本裕子(2005)「「～ておく」の意味機能について」『名古屋女子大学紀要』(人文・社会編)51、pp.207-218、名古屋女子大学
- 山梨正明(2000)『認知言語学原理』くろしお出版
- 山梨正明(2012)『認知意味論研究』研究社
- 山崎恵(1996)「「～ておく」と「～てある」の関連性について」『日本語教育』第88号、pp.13-24、日本語教育学会
- 梁井久江(2009)「テシマウ相当形式の意味機能拡張」日本語の研究 5(1)、pp.15-30、日本語学会
- 梁井久江(2012)「京阪方言における補助動詞「おく」の<持続>用法-明治末期以降の口語的資料に基づく考察-」『日本語研究』32、pp.101-115、首都大学
- 吉田妙子(2012)『日本語動詞テ形のアスペクト』晃洋書房
- 吉川武時(1973)「現代日本語動詞のアスペクトの研究」[金田一春彦編(1976)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房 所収]
- 吉川武時(1989)『日本語文法入門』アルク
- 由井紀久子(1997)「日本語動詞における意味の抽象化過程の研究-補助動詞用法を持つ動詞の意味分析」『大阪大学文学部紀要』37、pp.1-152、大阪大学文学部日本語学講座
- 湯沢幸吉郎(1951)『現代口語の実相』勉誠社

2. 中国語文献

- 房玉清(2008)《实用汉语语法》北京语言大学出版社
- 吕叔湘(1999)《现代汉语八百词》商务印书馆

- 梁银峰(2007)《汉语趋向动词的语法化》学林出版社
- 刘月华等(1983)《实用现代汉语语法》外语教学与研究出版社
- 刘月华(主编)(1998)《趋向补语通释》北京语言文化大学出版社
- 繆锦安(主编)(1990)《汉语的语义结构和补语形式》上海外语教育出版社
- 王国栓(2005)《趋向问题研究》华夏出版社
- 于康(2006)《V 下的语义扩展机制与结果义》『中国語の補語』白帝社
- 朱德熙(1982)《语法讲义》商务印书馆
- 朱德熙(1985)《语法问答》商务印书馆

3. 英語文献

- Brugman, Claudia M (1981) *The story of over: Polysemy, semantics, and the structure of the lexicon*. M.A. Thesis, University of California, Berkeley.
Published from New York/ London: Garland in 1988
- Bybee, J.Perkins, R.and Pagliuca, W (1994) *The evolution of Grammar: Tense, Aspect, and Modality in the Languages of the World*. Chicago UP
- Che Kan Leong and Katsuo Tamaoka(ed) (1998) *Cognitive processing of the Chinese and the Japanese languages*. Kluwer Academic Publishers
- Comrie, B (1976) *Aspect*. Cambridge UP
- David Dowty(1991) Thematic Proto-Roles and Argument Selection, *Language* 67: pp.547-619
- Fillmore, Charles J (1968) “The case for Case.” In: Emmon Bach and Robert T. Harms (eds.) *Universal in Linguistic Theories*, pp.1-88. New York: Holt, Rinehart and Winston
- Fillmore, Charles J (1975) An alternative to checklist theories of meaning. In *Papers from the First Meeting, Berkeley Linguistics Society*, pp.123-131. Berkeley Linguistics Society, University of California, Berkeley, Calif
- Fillmore, Charles J (1982) Frame semantics. *In Linguistics in the morning calm* (Selected papers from SICOL 1981), ed. The Linguistic Society of Korea, pp.111-138. Seoul: Hanshin Publishing
- Hopper, Paul, and Elizabeth Closs Traugott (1993) *Grammaticalization*. Cambridge University Press
- Johnson, Mark (1987) *The Body in the Mind*. Chicago: University of Chicago Press
- Katsuo Tamaoka, Chizuko Matsuoka, Hiromu Sakai, Shogo Makioka (2005)

- “Predicting Attachment of the Light Verb –suru to Japanese Two-kanji Compound Words Using Four Aspects” *Glottometrics* 10, pp.73-81, RAM-Verlag
- Lakoff, George (1987) *Women, Fire, and dangerous things: What categories reveal about the mind*. Chicago: The University of Chicago Press
- Lakoff, George (1990) “The Invariance Hypothesis” *Cognitive Linguistics*1 (1), pp.39-74
- Lakoff, George (1993) “The Contemporary Theory of Metaphor” In: Andrew Ortony (ed.) *Metaphor and Thought*, 2nd ed, pp.202-251, Cambridge University Press
- Lakoff, George and Mark Johnson (1980) *Metaphors we live by*. Chicago: The University of Chicago Press
- Lakoff, George and Mark Johnson (1999) *Philosophy in the Flesh*. New York: Basic Books
- Langacker, R.W (1987a) “Nouns and verbs” *Language* 63: pp.53-94
- Langacker, R.W (1987b) *Foundations of Cognitive Grammar*, Vol.1. Stanford: Stanford University Press
- Langacker, R.W (1990a) *Concept, Image, and Symbol*. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Langacker, R.W (1990b) Subjectification. *Cognitive Linguistics*1 (1): pp.5-38
- Langacker, R.W (1991) *Foundations of Cognitive Grammar*, Vol. II Stanford UP
- Langacker, R.W (1998) On subjectification and grammaticization. In *Discourse and cognition: Bridging the gap*, ed. Jean-Pierre Koenig, pp.71-89. CSLI Publications
- Langacker, R.W (1999) *Grammar and conceptualization*. Mouton de Gruyter
- Mandler, George (1987) *Cognitive Psychology*. Hillsdale, NJ: Laurence Erlbaum Associates
- Minsky, Marvin (1975) “A Framework for Representing Knowledge.” In: Patrick H.Winston (ed.) *The Psychology of Computer Vision*, pp.211-277. New York: Mcgraw-Hill
- Ono, Tsuyoshi (1992) ‘The grammaticization of the Japanese verbs oku and shimau’, *Cognitive Linguistics*3-4, pp.367-390
- Talmy, Leonard (1983) How language structures space. In *Spatial orientation: Theory, research and application*, ed. Herbert L. Pick, Jr. and Linda P. Acredolo, pp.255-282. New York: Plenum Press
- Talmy, Leonard (2000) *Toward a Cognitive Semantics*, Vol. I .The MIT Press
- Vendler, Zeno (1967) *Linguistics in Philosophy*. Cornell UP

付録

1. 「-ておく」の意味分析の実例補記

[1]～[5]の「-ておく」は「A.具体的な空間の場を占める」を表す。このタイプの「-ておく」はまだ本動詞「置く」の基本義が残り、「～をして、置く」として解釈できる。そして、前接動詞を削除した形「～を置く」でも文が成立し、前接動詞は「置き方」を表すものが多い。

[1]オーヴァーナイターを、根本はフロアに倒して置いた。

『メイン・テーマ』(BCCWJ)

[2]たとえば執筆中、たばこをつめたパイプを一ダースほど机のうえにならべておき、次々と吸いつづけた。

『たばこの「謎」を解く::Mysterious story』(BCCWJ)

[3]まずドラムカンの底にすっかり赤くなった炭火を入れ、金網を敷いてからトタン板をかぶせる。そこへ焼くパンを並べ、もう一枚のトタン板で蓋をしてからその上にまた炭火を乗せておく。

『アフリカポレポレ』(BCCWJ)

[4]それで八月の終り頃になると、たとへば蛙を棒の先に突きさして置くだけでも蜂がやつて来ます。

『井伏鱒二自選全集』(BCCWJ)

[5]「そういうわけじゃないのよ。ただもう、この借りを返すチャンスはないと思うから」なぜか胸が痛んだ。千円札を二枚、山下の手に押しつけておいて、彼女は先に店の外に出た。

『あなたに電話』(BCCWJ)

[6]～[15]の「-ておく」は「B.時空間の場を占める」を表す。このタイプはAタイプと異なり、前接動詞を削除した形で文は成立しない。先行研究で述べている「持続」と「準備」はこのタイプである。次の[6]～[10]は「持続」を表し、[11]～[15]は「準備」を表す。

- [6]この点は、東京の知人に相談して、発泡スチロール入りのプラスチック・コンテナをつくれば、九時間入れておいても三度しか温度が下がらないことがわかった。
『人・ひと・ヒット』(BCCWJ)
- [7]わたしは、この死んだように見えるカタツムリを二、三日そのままにしておいてから、水であらいきよめてやりました。
『ファーブルの昆虫記』(BCCWJ)
- [8]だが河野たちが抵抗しないものだから、警察は彼らをつかまえた。しかし、つかまえたもののつかまえた理由がみつからない。しかたなしに、半年もそのままほうっておいた。まったくめちゃくちゃだ。
『TN 君の伝記』(BCCWJ)
- [9]悲しみのあまり、マッカーサーは母の亡くなったホテルの部屋を一年間、そのまま閉めておくように命じた。
『マッカーサー伝説』(BCCWJ)
- [10]今のところ、いちばんいいのは落ちつくまでそっとしておくこと。
『カナンの果て』(BCCWJ)
- [11]十時までには帰るからドアを開けておくように、と言って来るようになった。
『親と子の二百日戦争』(BCCWJ)
- [12]あらかじめ電話をかけておいたので、玉川署には栗原警部補がいあわせた。
『病院坂の首縊りの家::金田一耕助最後の事件』(BCCWJ)
- [13]現金の取扱いが多い店舗などでは、釣り銭の受渡しなどで客との無用のトラブルを避けるためにも、ルールを作っておくと間違いがありません。
『個人事業の始め方::ビジュアル編集』(BCCWJ)
- [14]この点について後で問題が残ったり、私が間違っているなどと言われたりしないように、ここでははっきりさせて置く。
『メキシコ征服記』(BCCWJ)

[15]資料についても本来なら事前に渡しておいて、十分検討していただいて意見を述べ
ていたたく、そういうような理想的な公聴会というものにすべきではないだろうか。

『国会会議録』(BCCWJ)

[16]～[30]の「-ておく」は「C.心理的境界線で閉じた時空間の場を占める」を表す。
先行研究で指摘されている「一時的処置」や「放置」や「結語」はこのタイプである。
[16]～[20]は「一時的処置」を表し、[21]～[25]は「放置」を表す。そして、[26]～[30]
は「結語」の用例である。

[16]金のことはアイツにまかせてるからなあ。オヤジの番号なんてべつにいらないけど、
一応聞いておこうかな

『誘拐してみる？::探偵恋物語』(BCCWJ)

[17]だから、本音はとにかくやって欲しいんだけども、諸手を上げて賛成するわけにい
かないから、地元はとりあえず反対しておく。

『だから私は嫌われる』(BCCWJ)

[18]入院の費用その他は必要なだけ充分にお払いますから、とにかくおたくに置いて
おいてくれませんか、うちでは事情があってあの娘は引きとれないんです、と、こ
の一点ばかりですからね。

『凍河』(BCCWJ)

[19]暫定的に定義しておくなら、取り返しのつかない結果を生んだ過去の行為を、悔い
とともに認知すること、和解できていない両当事者間にひとつのべつの未来、そも
そもなんらかの未来を可能にすることをめざして認知すること、と言えるだろう。

『祖母のくに』(BCCWJ)

[20]「今のところ、三つばかりあります。もう少し調べを進めます。このほかにも、横
浜栄署の杉本警部も何かご連絡したいことがあるようですよ」「それは後で聞いて
おくよ。で、何があった？」と、警部は訊いた。

『日美子の歌麿殺人::長編推理小説』(BCCWJ)

[21]森は、自然のままに放置しておくと、陽光を好む樹木(陽樹)から日陰にも耐える樹木(陰樹)へと移行。

『日本の美林』(BCCWJ)

[22]彼を捕まえているし、ずっとそのままにしておくよ。これはやさしい事件なんだ。いくつか問題はああるけど、やさしい事件なんだよ

『哀しみの街の検事補』(BCCWJ)

[23]ところが一週間もすると、家族がその患者を連れてきて、「先生、どうもまだ癒っておりません。やはりずっと入院させておいてください」と言う。

『どくどくマンボウ医局記』(BCCWJ)

[24]ここから休耕田越しに田園や遠い家並みを眺める風景は悪くない。客をしばらく独りにさせておいて、香代子は奥からお茶を運んできた。

『はちまん』(BCCWJ)

[25]ドラムのヘッドは今のようなプラスチックではなく牛革だったので、演奏前にしめて、演奏後にゆるめておく必要があった。一日置いておくと、牛革だから伸びてしまうのだ。

『東京 Jazz::レクイエム・トコ』(BCCWJ)

[26]きょうは、このことが目的じゃないからこの辺にしておくけれども、次に農水省。

『国会会議録』(BCCWJ)

[27]グリーンはさらになにか言おうとしたが、そこまでにしておくことにしたらしかった。

『遺産』(BCCWJ)

[28]では終わりに、わらべ歌や民謡、そして和太鼓などによる日本音楽の授業では、どのような楽しい授業が可能になるのか、そのポイントをまとめておきたいと思います。

『和太鼓が楽しくなる本』(BCCWJ)

[29]あなたの考えはよくわかりました。今日はここまでにしておきましょう。

『花雪の降る場所で』(BCCWJ)

[30]礼儀については、このくらいにしておこう。ただし、一日のうちの半分は、礼儀を身につけるための努力をしてほしい。

『わが息子よ、君はどう生きるか』(BCCWJ)

[31]～[40]の「-ておく」は「D.経験の場を占める」を表す用例である。これらの用例は後のことへの準備という意味が弱くなり、経験として所有することに意義を認めるものである。

[31]やっぱ、死ぬまでには、一回は、ピラミッドを見ておきたいとずっと思っていたのです。一週間の旅行で、たった今、ロンドンに帰ってきました。

『ドン・キホーテのロンドン』(BCCWJ)

[32]大事な男の最期をよく見ておくんだよ

『新・里見八犬伝::光の巻』(BCCWJ)

[33]退屈で退屈でたまらない頃に、街をうろついている時に胸の片隅に胚胎したものから始まっているように思える。退屈も捨てたものではないのだ。いや、それどころか、退屈はできる時に深く、徹底的に味わっておくべきものなのかもしれないのだ。

『バーボン・ストリート』(BCCWJ)

[34]嫌でもここを去らなきゃならない。だから、絶対にもう一度会っておきたかったんだよ。

『パンドラの火花』(BCCWJ)

[35]もしものことがあれば今生の別れですもの、一目会っておかなければ、と片付けもそこそこに髪結いに走り出ようとする。

『残る蛍::浜藻歌仙帖』(BCCWJ)

2. 「～切る」の意味分析の実例補記

[36]～[45]は「I 「切る」動作主と「切る」対象で捉えられるもの」の用例である。

[36]～[40]は「①モノの切断」を表し、[41]～[45]は「②コトの切断」のタイプである。

[36]そのめくれ上がっているセルロイドを捻じきる。つるも玉の枠も左側だけが金属で、右側がセルロイドの片と、ちんばの眼鏡になった。

『黒い雨』(CJCS)

[37]数品の料理と、入り口のテーブルで見たギョーザがおいしそうだったので、私の注文でそれを加えてもらったが、鉄鍋のまま運ばれてきたのをフウフウ吹きながら食べるおいしさは格別だった。中のひとつを噛み切ろうとしたら、熱い汁が飛び出して、ブラウスのそでを汚した。

『私の気ままな老いじたく』(BCCWJ)

[38]右の小指の疵は、お葉の手から剃刀をうばい取るときに自分で突き切ったので、その当座は夢中でしたが、あとでだんだん痛んで来たので、初めてそれと気がついたということです。

『半七捕物帳』(青空文庫)

[39]いつもの云いがかりとは違って、それがほんとうに大切の鷹を驚かしたらしく、俄かに羽搏きをあらくした鷹はその緒を振り切って飛び起った。

『半七捕物帳』(青空文庫)

[40]勿論、すべつて転ぶのもある。下駄や草履の鼻緒を踏み切るのもある。

『影を踏まれた女』(青空文庫)

[41]関係者に対しまして、容疑が解消したということで捜査を打ち切って、押収品につきましてもこれを至急還付したいということで連絡をとったというのが、今回の事案の概要でございます。

『国会会議録』(BCCWJ)

[42]憤り、電話をたたき切った後、少しの後悔とともに思い出すのは、父の“酸っぱいおにぎり”だ。

『朝日新聞』朝刊 2007-09-23

[43]住宅問題では、旧市街地への高層マンション建設が、住民の反対を押し切ってどんどん進んでいる。

『この町が好きだから::平松伴子のやさしい論文集』(BCCWJ)

[44]彼らは島を南北に分断する境界線を越え、ニコシア東部の非武装地帯からトルコ側に向かい、国連軍の制止を振り切ってトルコ側に入ろうとしたため、一人が殴り殺され、トルコの旗を引きずり下ろそうとしたもう一人が射殺された

『交錯する文明::東地中海の真珠キプロス』(BCCWJ)

[45]寝る・眠るといのは、理性的な対話を断ち切って、生理的レベルで、誰をも受け付けない状態に入り込むことである。

『子どもの心を支える::保育力とは何か』(BCCWJ)

[46]～[55]は変化動詞と結合し、「Ⅱ心理的境界線」を表す「～切る」である。[46]～[50]は「③心理的境界線の生成」を表し、[51]～[55]は「④心理的境界線の浮き彫り化」を表す。

[46]それから太陽、太陽、太陽を撮るんだよとも言われたけれども、カメラを太陽に真っ正面から向けてはとても撮れないので困りきった。

『淀川長治ぼくの映画百物語』(BCCWJ)

[47]小島局長はすっかりおびえ切って、社会部に事件記事をほとんど全く掲載させないようにしてしまう。

『本田靖春集』(BCCWJ)

[48]車の中にいたときにはわからなかったが、天候は回復しても風がすごかった。けれども、そのぶん空気が澄み切っていて、発荷峠からの眺望はすばらしい。

『金田一温泉殺人事件』(BCCWJ)

[49]拉致・監禁の首謀者が鹿報会の幹部や上原であったなら、説得などせずに、警察に届けねばすむことだ。いくら上原が腐りきっているとしても、県警全体が同じとは考えられない。

『灰夜::長編刑事小説』(BCCWJ)

[50]日照りが二年目に入り、カピレイラ村で、昔おこなわれていたという雨乞いの儀式が復活して、テレビで報道された。大地は乾ききって、山火事があちこちで発生した。

『南スペイン、白い村の陽だまりから』(BCCWJ)

[51]役人たちに縄尻を取られ、彼はやがて、よろめきながら外へ曳き出された。あたりはすっかり暮れきっていた。

『姿見ずの橋』(BCCWJ)

[52]もし、目を閉じて行くと、だんだんと糸が伸び切ってしまう、ヨーヨーがつり下がったままになってしまうか、ヨーヨーが上の方へ上がり過ぎて、手のひらにぶつかってしまうかである。

『ロボットと人工知能』(BCCWJ)

[53]「ある非営利団体の依頼を受けて世論調査を行ったウィリアム・ラッキーサーは、私にこう言った。『これはもう宗教に近いですね。みな信じきっていますから、証拠を示せなど」と言うとは異端者扱いされかねない状況です』。

『教育の論点』(BCCWJ)

[54]文学者にとってそれは限りなく憂鬱な貧しい時代だというだけでなく、いかにも *annus mirabilis* というよりほかない日々のながれがまざまざと眼にみえる。けれども、そういうなかでも文学者たちは諦めきったり、ふてくされたりするのではなくて、苦心しながらも表現しようとした。

『日本文学報国会::大東亜戦争下の文学者たち』(BCCWJ)

[55]おや、どうしたのだろう。手も足も、なんだか痺れたようになって、自由が利かぬ。麻酔がさめきっていないのかしら。

『大暗室』(BCCWJ)

[56]～[60]は動作動詞と結合し、「⑤動作の完遂」を表す「～切る」である。

[56]その本の主題は何か、著者は何が言いたいのか」ということにもっぱら興味があって、雨だの花だのはどうでもよく、とにかく一刻も早く最後まで読み切って、テーマをつかみ たかったのだそうだ。

『赤毛のアンの翻訳レッスン::再会のアン・シャーリー』(BCCWJ)

[57]あかつきは金星から飛び去り、太陽をまわる軌道に乗っていた。残された燃料をすべて使い切っても、金星をまわる軌道に戻すことは不可能だと判断した。

『朝日新聞』朝刊 2010-12-08

[58]女子登攀クラブの初めての海外遠征でネパールのアンナプルナ峰に登ったあと、長女の出産を機に仕事を辞め、娘が三歳のときにエベレストへ行きました。七大陸の最高峰を登り切ったのは五十三歳のときです。

『いない日本、いる日本』(BCCWJ)

[59]彼女は自分の名前まで捨てて関根彰子になり代わろうとはしなかったろう、新城喬子のままで逃げ切ることだけを考えたろう、と本間は考えてしまう。

『宮部みゆきが読まれる理由』(BCCWJ)

[60]雪於の養育を、阿ぐりはもうすべて市兵衛や寿々にまかせきっている。

『黒染の剣』(BCCWJ)

3. 「～抜く」の意味分析の実例補記

[61]～[70]はA類の用例である。[61]～[65]はA類①「拔出」を表し、[66]～[70]はA類②「選抜」を表す。

[61]若者はフェランテの顔を見ると、血しぶきをあげながら馬丁の胸から剣をひき抜き、背をむけて逃げ出した。

『スピリット・リング』(BCCWJ)

[62]「だけど、トム、鷺鳥の羽根を一本ひっこ抜いたほうが、いいペンができるんじゃないか、それにそのほうが手っとり早いし」

『完訳ハックルベリ・フィンの冒険』(BCCWJ)

[63]例えば、墓にしても(墓もエジプトでは芸術である)、ルクソルの対岸の岩山を抉り抜いて造った古代の王と王妃の無数の墓窟の構造と装飾は、カイロ東郊の哈利発の墓やマメリュクスの墓などの比較になるものではない。

『七重文化の都市』(青空文庫)

[64]ところが、二、三年前に、空腹感を誘う赤地に白くラーメンと染め抜いた、鮮やかな幟が三本立ち始めると、少しばかり様相が変わってきた。開店前から客が行列するようになったのである。

『ラーメンの誕生』(BCCWJ)

[65]相手の事情とは、海岸の岩盤を掘り抜いて往来の人の難渋を救おうというトンネルを完成させるまで、というものだった。

『日本の障害者::その文化史的側面』(BCCWJ)

[66]所管の浦河営林署は、まず現地に治山事業所を開設。庄内海岸の緑化に実績をもつ酒田営林署がら、技術者を一人引き抜き、岬地区に連れてきた。

『日本の美林』(BCCWJ)

[67]ガルシア・ロハスは封筒のなかから書類を引き抜いてぱらぱらとめくった。

『伝説なき地』(BCCWJ)

[68]しかも「健全な社会」における真の上層階層ならば、「下層階級に比べてより力に満ちた、選り抜かれた少数者を擁している」と指摘する。

『大衆社会のゆくえ::オルテガ政治哲学：現代社会批判の視座』(BCCWJ)

[69]小なりとはいえヴラドが選り抜いて決めた要害の地。前は急流走る深い溪谷、背後は登る道もない山の峰に守られている。

『ドラキュラ公::ヴラド・ツェペシュの肖像』(BCCWJ)

[70]「一郎さんは読本の(二字空白)ページをしらべてやはり知らない字を書き抜いてください。」それがすむと先生はまた教壇をおりて、一年生の習字を一人一人見てありました。

『風の又三郎』(青空文庫)

[71]～[85]はB類の用例である。[71]～[75]はB類①「貫通」を表し、[76]～[80]はB類②「目標物を追い抜く動き」を表す。そして、[81]～[85]はB類③「目標実現の追求」の用例である。

[71]すっかり怯え切って動けないでいるマネージャーと横山に向って、一発ずつ発射した。弾は誤まらず二人の頭を射抜いて、即死だった。

『うそりやま考』(BCCWJ)

[72]より難しくなったが、馬上からの矢を放ってみごと打ち抜くと、観客から歓声と拍手が起きた。

『朝日新聞』朝刊 2010-10-17

[73]せめて、二十数間ほど掘り下げたなら、飲用水が湧いてくれたかもしれないという望みを断たれてしまった。岩盤が邪魔をした。…(略)…これからは本格的な岩盤を突き抜く掘抜きの作業にかゝる。

『天保山夢の川さらえ』(BCCWJ)

[74]一応、城跡や港などの観光地を見るということにして、タクシーに乗る。乗ったとたん、床を踏み抜いてしまうのではないか、というような車のあまりのボロさに驚く。

『交錯する文明::東地中海の真珠キプロス』(BCCWJ)

[75]そう。愛の神様、キューピッド。この矢で打ち抜かれると、恋をしてしまうのだよ

『公爵様の恋のススメ』(BCCWJ)

[76]後ろから来た黒塗りの乗用車が、松平の車を追い抜いて前へ回り込んだ。強引に、停車させるつもりなのである。

『悪魔岬』(BCCWJ)

[77]一〇年前まで農業主体だったこの国の経済は、外国の資本導入に力を入れたので、アメリカや日本の会社がたくさんでき、工場労働者が増え、工業が農業を追い抜いた。

『世界の川を旅する』(BCCWJ)

[78]その日、義仲は駒での遠駆けの時、いつもいっしょに行く四郎をわざと出し抜いた。
巴と二入だけで出掛けたのである。

『木曾義仲』(BCCWJ)

[79]過去にきみが警察を出し抜いて、難事件を解決した事例を、私が知らないと思っ
ているわけじゃないだろうね。

『御堂筋殺人事件』(BCCWJ)

[80]隼人は不安とも期待ともつかぬ、異な心持に囚えられ、身体は小刻みに顫えてお
りました。時々立ち停って、大きな欠伸をしたり、思い付いたように、四方を見廻
しましたが、目的もなしに駆け抜いて、日のあるうちに千住の大橋を渡ったにして
も、ここまで辿りつくのに、一刻とも経ってはいなかったのでしょうか、伊積隼人の
両の脚はペガサスの翼が生えていたように、一気にここまで飛んだのです。

『珠玉百選 銭形平次捕物控(一)』(新潮文庫)

[81]ふだんはもの静かな女の子であるが、叙情的な役柄を得意とし、今年のローザン
ヌ国際バレエ・コンクールでは「ジゼル」第1幕のバリエーションをじつくりと踊
り抜き、決選にまで進んだ。

『朝日新聞』朝刊 1988-08-22

[82]日ごろの勉強を生かして、床に倒れるほど踊り抜いて下さい

『朝日新聞』朝刊 1985-12-23

[83]フルバックの芝木天馬(3年)は、両足のけがを抱えながらの強行出場だった。右く
るぶしの疲労骨折と左足首の捻挫。痛みに耐えて 60 分間走り抜いた。

『朝日新聞』朝刊 2011-12-31

[84]目の前に「もっとも過酷なコース」、モンジュイックの丘が迫ってくる。これを最
後に、何を失ってもいいから走り抜きたい。

『わたし革命::be proud of yourself』(BCCWJ)

[85]男の強さはしょせん、相手を打ち倒す腕力や財力や権力のように、はっきりしたか
たちが見えている。その点、女の強さには底知れぬ広がりがある。彼女たちは権力

や財力や、ましてや腕力などとは無関係なところで、相手を包容し、守り抜いていく。

『人妻小雪奮戦記::神戸ニュータウン事件簿』(BCCWJ)

4. 「～通す」の意味分析の実例補記

[86]～[90]は「貫通」を表す「～通す」であり、[91]～[95]は「一貫継続」を表す「～通す」である。

[86]スコップは、あつけなく、板壁をつきとおしてしまう。

『砂の女』(CJCS)

[87]茎にワイヤーを挿入するインソーションメソードの後、子房にワイヤーをさし通し、茎にそって折り曲げる、ピアスメソード(横ざしどめ)をほどこします。

『ブリザーブトフラワー』(BCCWJ)

[88]午前中は小春日和だったが、午後は風が出てうそ寒かった、それにしても大寒とは思へない。とん／＼から／＼、前の家で莖を織り通す音もうらゝかだった。

『其中日記』(青空文庫)

[89]二階の間は新聞が飛ぶほど風が吹き通すこともあれば、裏の木の上に夕月が美しくかかって見えることもあった。

『田舎教師』(青空文庫)

[90]本当の意味の書家が例えば十の字を書く時に始め一を左から右へ引き通す際に後から来る | の事など考えるだろうか、それを考えれば書の魂は抜けはしまいか。

『津田青楓君の画と南画の芸術的価値』(青空文庫)

[91]東京までついて来てくれた一人の学生は、お前たちの中の一番小さい者を、母のように終夜抱き通していてくれた。

『小さき者へ；生まれ出ざる悩み』(BCCWJ)

[92]京都の駅に着いた時、もう降り始めていた小雨が、暗くなると本降りになって夜を通して蕭条しょうじょうと降り注そそぐ。…(略)…これは悪くすると、滞在中ずつと降り通すかも知れない、然しその時には又その時のことと肚はらをきめると、雨の音は落ち着かぬ旅の心を和なごやかに静めてくれる。

『雨の宿』(青空文庫)

[93]お歌が添えられていましたが、悲しみのあまりしまいまでは読み通すことが出来ません。

『源氏物語』(BCCWJ)

[94]徳右衛門が山賊とかかわりを持っておるのかどうかは知らぬ。が、あの男のことじゃ、そなたたちを守り通すぐらいはたやすいことよ

『蒙古襲来』(BCCWJ)

[95]言を換えて言えば、病苦は続く間だけ続く。病気に罹った以上は誰でも最後まで苦しみ通すのである。耐忍するもしないもない。

『ベエトオフェンの面』(青空文庫)

5. 「-てある」と「-ている」の「結果状態」についての実例補記

[96]～[100]は「結果状態」を表す「-てある」と「-ている」の用例である。[96a]～[100a]の「-てある」が表す<結果>は主体動作・客体変化動詞において現れるのに対して、[96b]～[100b]の「-ている」が表す<結果>は主体変化動詞において現れる。

[96]a.脱ぎ捨てたらしきワンピースが、椅子の背にかけてある。ショーの時には結っている髪も、長く背中まで垂れていた。

『金田一少年の事件簿::上海魚人伝説殺人事件』(BCCWJ)

b.首をまわすと、壁にハンガーについたワンピースがかかっていた。

『比較する目』(BCCWJ)

[97]a.その学生アルバイトに、携帯電話を預けてあります。何かあれば、すぐにこれが鳴りますからね

『比較する目』(BCCWJ)

b.以前に一人のお遍路さんが、庇の土間で藁を燃やしボヤ騒ぎがあったので、入り

口には錠がかけられ鍵は組長さんが預かっている。

『山巖に人ありて』(BCCWJ)

[98]a.ハーヴィーとぼくは先に食べさせてもらったよ。きみの分はちゃんと残してある。
食べるときに電子レンジで温め直せばいいから

『刹那の囁き』(BCCWJ)

b.それは和製シガレット「モア」の箱で、中身がまだ大部分残っている。

『致死眷属』(BCCWJ)

[99]a.「これはうまい酒だ」「まだ幾らでも冷やしてある。遠慮なしにやってくれ」
猪之吉が徳利を差し出した。

『櫛しぐれ』(BCCWJ)

b.一般に、旅館で食べる料理というのはあまりうまいものではない。…(略)…客が
多くて、その何人もの客に一度に食べさせなければならないのだから、料理が冷
えているのは当然のことなのだ。

『私は作中の人物である』(BCCWJ)

[100]a.一階に着くと、雪子はロビーを見回した。主な照明は消してあるので、ロビー
は大分薄暗くなっていた。

『三毛猫ホームズの世紀末』(BCCWJ)

b.この時間、駅前にある大きなマーケットは閉まり、同じビルの中にある飲食街
の灯火も消えている。

『抱かれる』(BCCWJ)

6. 「-ておく」と「-てある」の意味比較の実例補記

[101]～[105]は「準備」の意味において、「-ておく」を「-てある」と入れ替えができる用例である。「-てある」は「結果」に焦点が当たっているのに対して、「-ておく」は「行為」に焦点が当たっている。

[101]門の扉も玄関扉もほとんどがアルミニウムを、できる限り少なく、つまり安くする
ために軽く作ってある。

『暮らしをデザインする』(BCCWJ)

[102]透明なプラスチック一点張りだったのを、赤、青などカラフルにしたのも当世風だし、角を丸くして、持った掌が痛くないように工夫してある。

『読むクスリ』(BCCWJ)

[103]その中には、私たちになじみの薄い「壹円札」もあるけど、これは1円が日本の通貨の基本的な単位だから、使えるようにしてあるそうよ。実際に暮らしの中で使われることは、めったにないけどね。

『お札の館探検隊::なぜなぜ質問箱』(BCCWJ)

[104]油粕肥料(油粕だけでは成分のバランスが悪いので、骨粉などを混せてあるものが良い)であれば、植え付け時の施肥量は次のようになる。

『睡蓮と蓮の世界::水の妖精』(BCCWJ)

[105]その品触れができあがったとき、あるいは捜査一課のほうで、報道関係者が、これということで渡してあるかもしれません。

『狭山裁判』(BCCWJ)

7. 「-てしまう」の実例補記

[106]～[110]は「実現」を表す「-てしまう」である。[111]～[115]は文脈によって、「終了限界の実現」と「開始限界の実現」の両方を表す用例である。[111a]～[115a]は「終了限界の実現」の用例であり、[111b]～[115b]は「開始限界の実現」の用例である。

[106]彼女があまりに上手に義母の口調を真似るので、話をするたびに、思わず笑ってしまう。

『模倣犯』(BCCWJ)

[107]この目次の抜粋をみただけで、内容の広がり、深さ、刺激性に驚いてしまうと思う。

『世界の教科書は日本をどう教えているか』(BCCWJ)

[108]雪は降るまでが寒い。みっしり降ってしまえば、存外、寒さは気にならない。

『北国の雁::清原宣賢の妻』(BCCWJ)

[109]北オーストラリアのある地域では、美しい形態のために槍の実用性が犠牲にされている。穂先のおごの部分が柄を深く切り込んで作られているので、投げたときにぽきっと折れてしまうのだ

『感覚の世界::美・自然・文化』(BCCWJ)

[110]私自身は何人か看取っていますが、灯っていた電気がふっと消えてしまうような一。

『ガンのある日常::体験者 18 人のいのちの力』(BCCWJ)

[111]a.“フロム・カバー・トゥ・カバー”という英語もある。前の表紙からうしろの表紙まで、本をすっかり読んでしまうときなどに使う慣用句である。

『三角のあたま』(BCCWJ)

b.今日は体がとてもだるく痛い。ベッドに入って本を読んでいた。山本周五郎さんの御自身のことを書いてある所があった。つつい読み込んでしまって目まで疲れた。

『ターキーの気まぐれ日記』(BCCWJ)

[112]a.これは以前から行っていたもので、朝起きたあと2時間ほどかけて、ゆっくり生の朝鮮人参を食べるのである。たいてい1本全部を食べてしまうようだ。

『1994年世界は、::Our world』(BCCWJ)

b.初がつおが初めて魚河岸に入荷すると、まず將軍お召し上がり料を納め、残りを町に売りに出す決まりであった。町方のお役人も、將軍様やお武家様が口にしない前に、密かに食べてしまう不心得な金持ちなどがいないか、始終見回りにくる。

『八百八町いきなりくり』(BCCWJ)

[113]a.ふつう旅人の一日の里程は七里というのに、江藤はこのからだで八里以上を歩いてしまっており気力もここまですさまじくなればもう狂人の範疇とっていいであろう。

『歲月』(BCCWJ)

b. I 君の職場は、地下鉄の駅を下りてから、都バスに乗り換え、三つ目の所でした。朝夕は道路が混雑し、バスは当てにならないので、時々歩いてしまっらしく、ある日帰って来て、「今日も歩いちゃったよ」と言いました。

『カアサントコイク::福祉の道であんなこと,こんなこと書き綴り』(BCCWJ)

[114]a.顕微鏡での観察は当初、室温の条件で行なっていましたから、あまりにも短時間で氷が溶けてしまい、…(略)…雪のような結晶など影も形もなく、まったく確認できなかったのです。

『水は語る::魂をうつしだす結晶の真実』(BCCWJ)

b.女性編集者は氷が殆ど溶けてしまったアイスレモンティのグラスの中をストローで強引にかき混ぜた後、深い溜息をついてこういいました。

『ツインズ::続・世界の終わりという名の雑貨店』(BCCWJ)

[115]a.校舎は、跡かたもなく燃えてしまっていた。見まわすと、豊橋が一面の焼野原になっていた。

『雲の涯::ぼくらの太平洋戦争』(BCCWJ)

b.ガスは火をつけると簡単に燃えてしまいましたが、どんなによく燃えるものでも、そのものがあるだけでは火をつけても燃えません。

『頭にやさしい雑学読本』(BCCWJ)